

ユーザーズマニュアル

オフィスシリーズ Type-HT • User's Manual

オフィスシリーズ Type-HT

本機を使用開始するまでの手順を説明しています。

必ずお読みください。

標準装備されている装置や機能と、

取り付け可能な装置について説明しています。

添付されているソフトウェアの使用方法や

インストール方法について説明しています。



ご使用の前に

ご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。

安全にお使いいただくために

このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。

その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

警告

煙が出たり、変な臭いや音がするなど異常状態のまま使用しないでください。

感電・火災の原因となります。

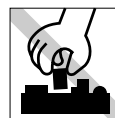
すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。

お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。



マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。

けがや感電・火災の原因となります。



電源は、交流 100V 以外では使用しないでください。

指定外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。



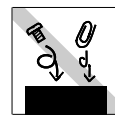
ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。

感電の原因となります。



通風孔など開口部から内部に金属類や燃えやすいものを差し込んだり、落としたりしないでください。

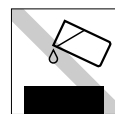
感電・火災の原因となります。



異物や水などの液体が内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。

感電・火災の原因となります。

すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。



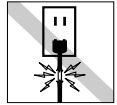
⚠ 警告

破損した電源コードを使用しないでください。感電・火災の原因となります。

電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。

- ・ 電源コードを加工しない。
- ・ 無理に曲げたり、ねじったり、引っぱったりしない。
- ・ 電源コードの上に重いものを載せない。
- ・ 熱器具の近くに配線しない。

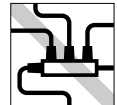
電源コードが破損したら、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。



電源コードのたこ足配線はしないでください。

発熱し、火災の原因となります。

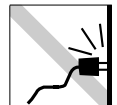
家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。



電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。

取り扱いを誤ると、火災の原因となります。

- ・ 電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
- ・ 電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。

感電・火傷の原因となります。



小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。

飲み込むと化学物質による被害の原因となります。

万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。



小さなお子様の手の届くところに、マウスボールやフレームを取り外したまま放置しないでください。

口に入れたりすると窒息する危険があります。



マウスボールは、絶対に投げないでください。

マウスボールの芯には鋼球が入っていますので、人に当たるとけがをする危険があります。



雷が鳴りだしたら、電源プラグをさわらないでください。

感電の原因となります。



⚠ 注意

小さなお子様の手の届くところには設置、保管しないでください。

落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。

落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



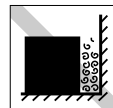
⚠ 注意

湿気やほこりの多い場所に置かないでください。
感電・火災の危険があります。

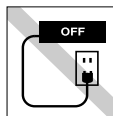


本製品の通風孔をふさがないでください。
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。
設置する際は、次の点を守ってください。

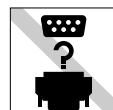
- ・ 押し入れや本箱など風通しの悪いところには設置しない。
- ・ じゅうたんや布団の上には設置しない。
- ・ 毛布やテーブルクロスのような布をかけない。



連休や旅行等で長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



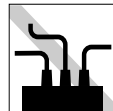
各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。
配線を誤ると、火災の危険があります。



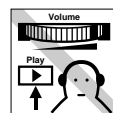
拡張ボードやメモリの交換・増設などは、本製品の内部が高温になっているときには行わないでください。
火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。



本製品を移動させる場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、すべての配線を外したことを確認してから行ってください。



ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。



長時間あるいは不自然な姿勢でのコンピュータ操作は避けてください。
肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの原因となります。



イジェクトピンは、小さなお子様の手の届くところには保管しないでください。
目をついたり、口に入れたりして、けがをする危険があります。



（光磁気ディスクドライブ搭載モデル）

使い始めるまでの準備

コンピュータの接続方法、電源の入れ方、切り方やセットアップについて説明します。

コンピュータの基本操作

キーボードやマウス、フロッピーディスクドライブの使い方など、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

システムの拡張

コンピュータに内蔵オプション装置を装着して機能を拡張する方法を説明します。

BIOSの設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

付録

お手入れ方法、CMOS RAMの初期化、リチウム電池の交換、仕様などについて説明します。

目次

マニュアル中の表記について (7)

製品保護上の注意 (10)

使用・保管時の注意	(10)
記録メディア	(11)
マウス	(12)

使い始めるまでの準備

ご使用の前に 2

コンピュータを使い始めるまでの手順 ...	2
ご使用前の確認事項	3
システムの特長	5
添付されているソフトウェア	6

各部の名称と働き 8

本体前面	8
本体背面	9

コンピュータの設置 10

電源の入れ方とWindowsのセットアップ 17

Windowsを使用できるようになるまでの作業	17
電源を入れる前に	18
電源の入れ方とWindowsの起動	19
Windowsのセットアップ	20

セットアップ終了後の作業 24

バックアップディスクの作成	24
セットアップブートディスクの作成 (Windows 2000のみ)	26
ネットワークに接続する	27
Norton AntiVirus2002のインストール ..	27
その他の設定	27

Windows使用時の確認事項 28

2回目以降に電源を入れる	28
省電力機能	28

デバイスドライバを インストールするときは	29
購入時のHDD領域の設定について ..	29
JAVA VMのインストール (WindowsXPのみ)	30

電源の切り方 31

Windows 2000の終了と電源の切り方 ..	31
Windows XPの終了と電源の切り方	32
リセット	33

コンピュータの基本操作

キーボードを使う 36

キーの種類と役割	36
文字を入力するには	37
日本語を入力するには	37
キーロック表示ランプ	38
Windowsキー	38

マウスを使う 39

マウスの操作	39
マウスの設定変更	39

FDD (フロッピーディスクドライブ)を使う 40

FDのセットと取り出し	40
FDのフォーマット	42
データのバックアップ	43
ライトプロテクト(書き込み禁止) ..	43

HDD (ハードディスクドライブ)を使う 44

データのバックアップ	44
HDDのフォーマット	45
購入時のHDD領域について	46

CD-ROMドライブを使う 47

CD-ROMのセットと取り出し	47
強制的なCD-ROMの取り出し	48

光磁気ディスクドライブを使う	49
MOのセットと取り出し	49
MOのフォーマット	50
ライトプロテクト(書き込み禁止) ..	50
強制的なMOの取り出し	51

解像度や表示色を変更する	52
解像度や表示色を変更するには	53
表示できる解像度と表示色	54
ディスプレイの設定	54

省電力機能を使う	55
省電力機能の種類	56
省電力機能を実行する前の確認事項 ..	57
実行方法	59
復帰方法	61

その他の機能	62
サウンド機能	62
ネットワーク機能	63
パラレルコネクタ	64
シリアルコネクタ	64
USBコネクタ	64
コンピュータウィルスの検索・駆除 ..	65

システムの拡張

拡張できる装置	68
----------------	----

作業時の注意	69
---------------	----

拡張時の準備作業	70
本体カバーの取り外し・取り付け	70
フロントパネルの取り外し・取り付け ..	72
フェイスプレートの 取り外し・取り付け	75

DIMMの増設	76
DIMMの仕様	76
DIMMの取り付け	77

拡張ボードの装着	81
拡張スロットの仕様	81
拡張ボードの取り付け・取り外し	82

ドライブベイへのドライブの装着	85
5.25型ドライブベイへの装着	85
HDDベイへの装着	88

ドライブ装置の装着	92
ドライブ装置の種類	92
IDE装置の設定	93
SCSI装置の設定	95
ドライブ装置(IDE装置)の接続例 ...	96

BIOSの設定

BIOSの設定を始める前に	100
----------------------	-----

BIOS Setupユーティリティの操作	101
BIOS Setupユーティリティの起動 ..	101
BIOS Setupユーティリティの操作 ..	102
設定値をもとに戻すには	104
BIOS Setupユーティリティの終了 ..	105

BIOS Setupユーティリティの設定項目	106
Mainメニュー画面	106
Passwordの設定	107
Advancedメニュー画面	109
Powerメニュー画面	110
Bootメニュー画面	111
Exitメニュー画面	111
BIOSの設定値	112

ソフトウェアの再インストール

再インストールする前に必ずお読みください 116

再インストールが必要な場合 116

重要事項 116

ソフトウェアの再インストールを行う 117

必要なメディア 117

インストールの順番 118

インストール作業における確認事項 ... 118

Windowsのインストール 120

デバイスドライバのインストール ... 128

マウスドライバのインストール 130

Adobe Acrobat Readerのインストール .. 131

Norton AntiVirus2002のインストール .. 131

その他の作業 132

付録

お手入れ 156

本機のお手入れ 156

マウスのお手入れ 156

リチウム電池の交換 158

CMOS RAMの初期化 161

コンピュータ内部のケーブル接続 163

機能仕様一覧 165

用語集 166

索引 173

こんなときは

困ったときに 136

コンピュータ本体の不具合 136

省電力機能に関する不具合 139

キーボードの不具合 140

マウスの不具合 141

ディスプレイの不具合 142

FDDの不具合 144

HDDの不具合 145

CD-ROMドライブの不具合 146

アプリケーションソフトの不具合 .. 147

メモリの不具合 148

インストール時の不具合 149

拡張ボード、周辺機器の増設に

関する不具合 150

プリンタの不具合 151

スピーカの不具合 151

警告メッセージが表示されたら 162

マニュアル中の表記について

本書では次のような記号を使用しています。

安全に関する記号



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号



制限事項です。

機能または操作上の制限事項を記載してあります。



参考事項です。

覚えておくとお利便なことを記載してあります。



説明文が次ページに続くことを示します。




参照ページを示します。




1 2

操作手順です。

ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。



Ctrl

で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。

はEnterキーを表します。また、は  のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、キートップに印字された文字とは異なる場合があります。

Ctrl + Z

+の前のキーを押したまま+の後のキーを押します。

この例では、を押したまま を押します。

名称の表記

本書では、コンピュータで使用する次の製品の名称を次のように略して表記します。

HDD

ハードディスクドライブ

FD

フロッピーディスク

FDD

フロッピーディスクドライブ

オペレーティングシステムに関する表記

本書ではオペレーティングシステムの名称を次のように略して表記します。

Windows 2000

Microsoft® Windows® 2000 Professional

Windows XP

Microsoft® Windows® XP Professional

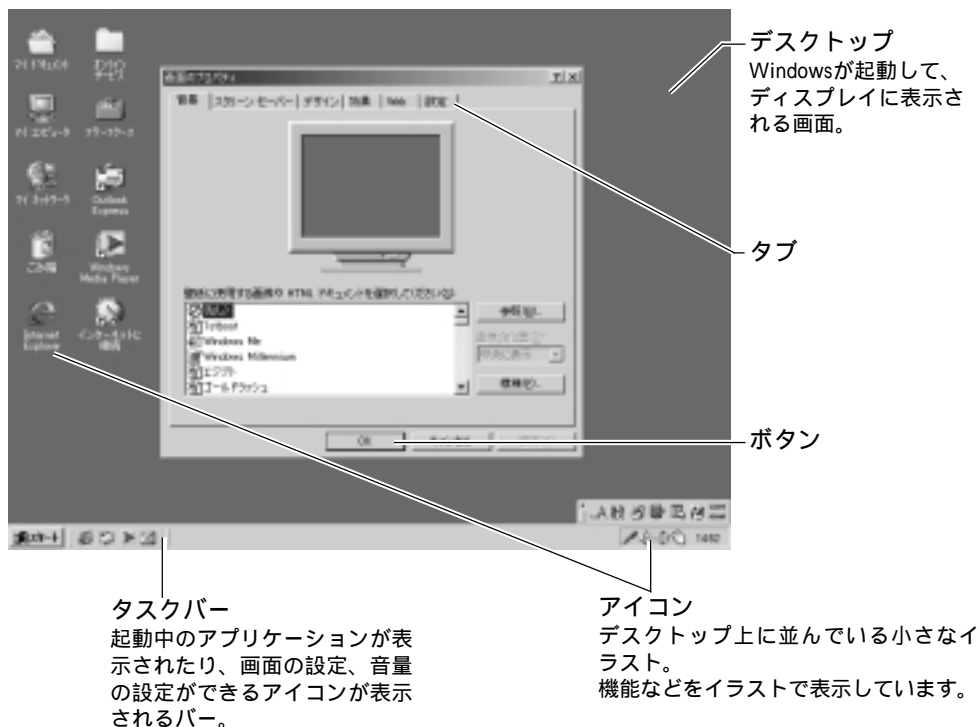
Microsoft® Windows® XP Home Edition

MS-DOS

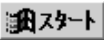

Microsoft® MS-DOS® Operating system

Windowsの画面表示に関する記載方法（Windows 2000）

本書では、Windows画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。



ボタンは、[]で囲んで記載します。

例  : [スタート]  : [OK]

Windowsの画面操作に関する記載方法

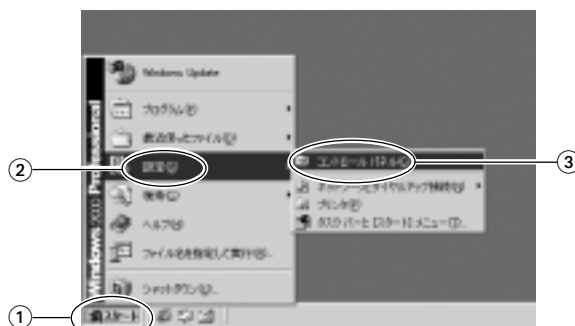
本書では、Windows画面上で行う操作手順を次のように記載します。

記載例 : [スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」をクリックします。

実際の操作 : ① [スタート] をクリックします。

② 表示されたメニューから「設定」をクリックします。

③ 横に表示されるサブメニューから「コントロールパネル」をクリックします。

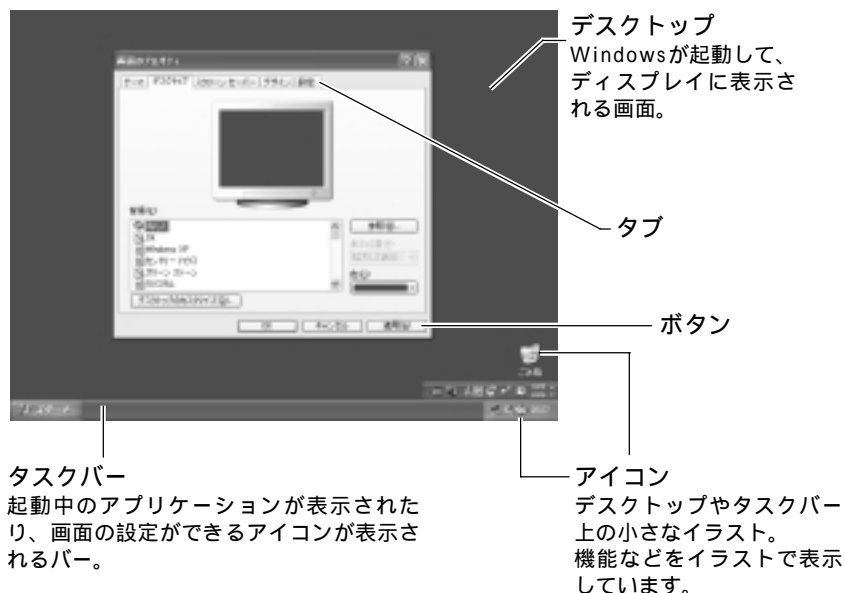


Windowsの画面表示に関する記載方法(Windows XP)



本書では、Windows XP画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。

マニュアル中で使用している画面は、おもにWindows 2000のものです。

Windows XPで表示される画面とデザインが異なりますが、基本的な機能は同じです。



ボタンは  で囲んで記載します。

例  : [スタート]  : [OK]

Windowsの画面操作に関する記載方法

本書では、Windows画面上で行う操作手順を次のように記載します。

記載例 : [スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「Internet Explorer」をクリックします。

実際の操作 : ① [スタート] をクリックします。

② 表示されたメニューから「すべてのプログラム」をクリックします。

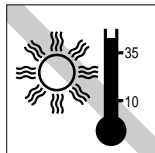
③ 横に表示されるサブメニューから「Internet Explorer」をクリックします。



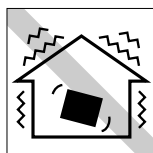
製品保護上の注意

使用・保管時の注意

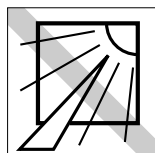
コンピュータは精密な機械です。故障や誤動作の原因となりますので、次の注意事項を必ず守って、本製品を正しく取り扱いってください。



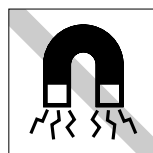
温度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。
故障、誤動作の原因になります。適切な温度の目安は10 ～35 です。



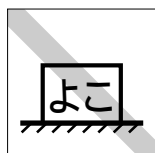
他の機械の振動が伝わる所など、振動しがちな場所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。



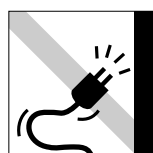
直射日光の当たる所や、発熱器具（暖房器具や調理器具など）の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。



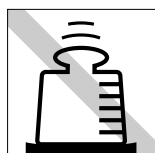
テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。コンピュータの誤動作が生じたり、FDなどのデータが破壊されることがあります。逆に、コンピュータの影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。



コンピュータ本体を横置きにしないでください。
故障、誤動作の原因になります。本機は縦置き専用に設計されています。



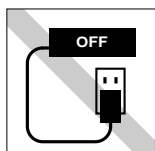
電源コードが抜けやすい所（コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎりぎりの所など）にコンピュータを置かないでください。
電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えてしまいます。



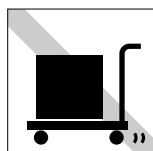
コンピュータ本体の上には重い物を載せないでください。
重圧により、故障や誤動作の原因となることがあります。



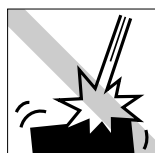
本製品の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。
変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。
電源を切っても、コンピュータ内部に微少な電流が流れているため、ショートして故障の原因となります。



遠隔地に輸送するときや保管するときは、裸のままで行わないでください。
衝撃や振動、ホコリなどからコンピュータを守るため、専用の梱包箱に入れてください。



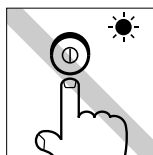
移動するときは、振動や衝撃を与えないようにしてください。
内蔵の周辺機器（HDD、CD-ROMドライブなど）も含めて、故障、誤動作の原因となります。



コンピュータは一般ゴミとして廃棄しないでください。
廃棄するときは、お住まいの市区町村の条例または規則に従って、適切に処分してください。



輸送や保管をするときは、付属物を
セットしたままにしないでください。
配線ケーブルはすべて取り外し、
FD、CD-ROMなどは取り出してくだ
さい。



アクセスランプが点灯中は、コン
ピュータの電源を切ったり、リ
セットしないでください。

記録メディア

以下のような取り扱いをすると、次の記録メディアに登録されたデータが破壊されるおそれがあります。
記録メディアの種類は、次のとおりです。

FD

CD-ROM・CD-R・CD-RW・DVD-ROMなど

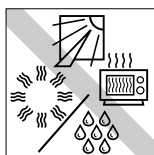
光磁気ディスク

FD

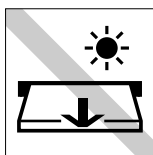
CD

MO

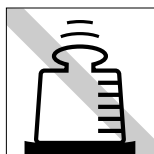
記録メディアの種類を指定していない場合は、すべての記録メディアに該当します。



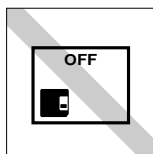
直射日光が当たる所、暖房器具の
近くなど、高温・多湿となる場所には
置かないでください。



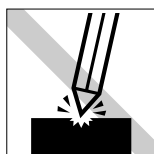
アクセスランプが点灯中は、記録メ
ディアを取り出したり、コンピュータの
電源を切ったり、リセットしないでくだ
さい。



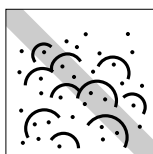
上に物を載せないでください。



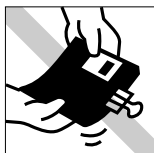
使用後は、コンピュータにセットした
ままにしたり、裸のまま放置したりしな
いでください。
専用のケースに入れて保管してくだ
さい。



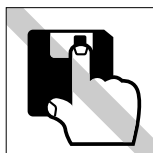
キズを付けないでください。



ゴミやホコリの多いところでは、使用
や保管しないでください。



クリップではさむ、折り曲げるなど、無
理な力をかけないでください。

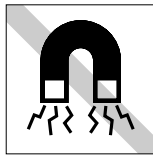


アクセスカバーを開けたり、磁性面
に触れたりしないでください。

FD MO

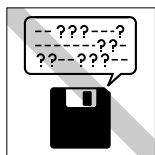


磁性面にホコリや水を付けないでく
ださい。
シンナーやアルコールなどの溶剤類
を近づけないでください。 FD MO

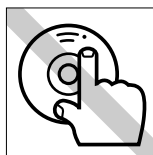


テレビやラジオ、磁石など、磁界を発
生するものに近づけないでください。

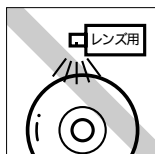
FD MO



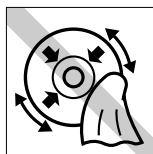
何度も読み書きしたFDは使わないでください。
磨耗したFDを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。FD



信号面(文字などが印刷されていない面)に触れないでください。CD



レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。
クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。CD



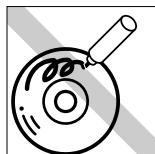
レコードのように回転させて拭かないでください。
CD-ROMは、内側から外側に向かって拭いてください。CD



CD-ROMドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。CD



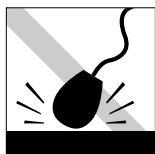
CD-ROMなどのメディアにシールを貼らないでください。CD



信号面(文字などが印刷されていない面)に文字などを書き込まないでください。CD

マウス

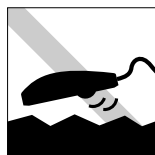
マウスは精密な機械です。次の点に注意して操作してください。



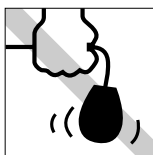
落としたり、ぶつけたりして強い衝撃を与えないでください。



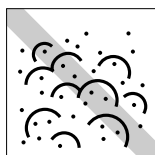
マウスボールを素手で触らないでください。



平らな場所で使用してください。でこぼこのある場所ではマウスボールの回転が不規則になり、マウスの動きがコンピュータに正確に伝わりません。



持ち運びはマウス本体を持ってください。ケーブルを持って運ばないでください。



ゴミやホコリの多いところでは、使用や保管しないでください。マウスボールにホコリやゴミが付いたまま使用すると、誤動作や故障の原因になります。

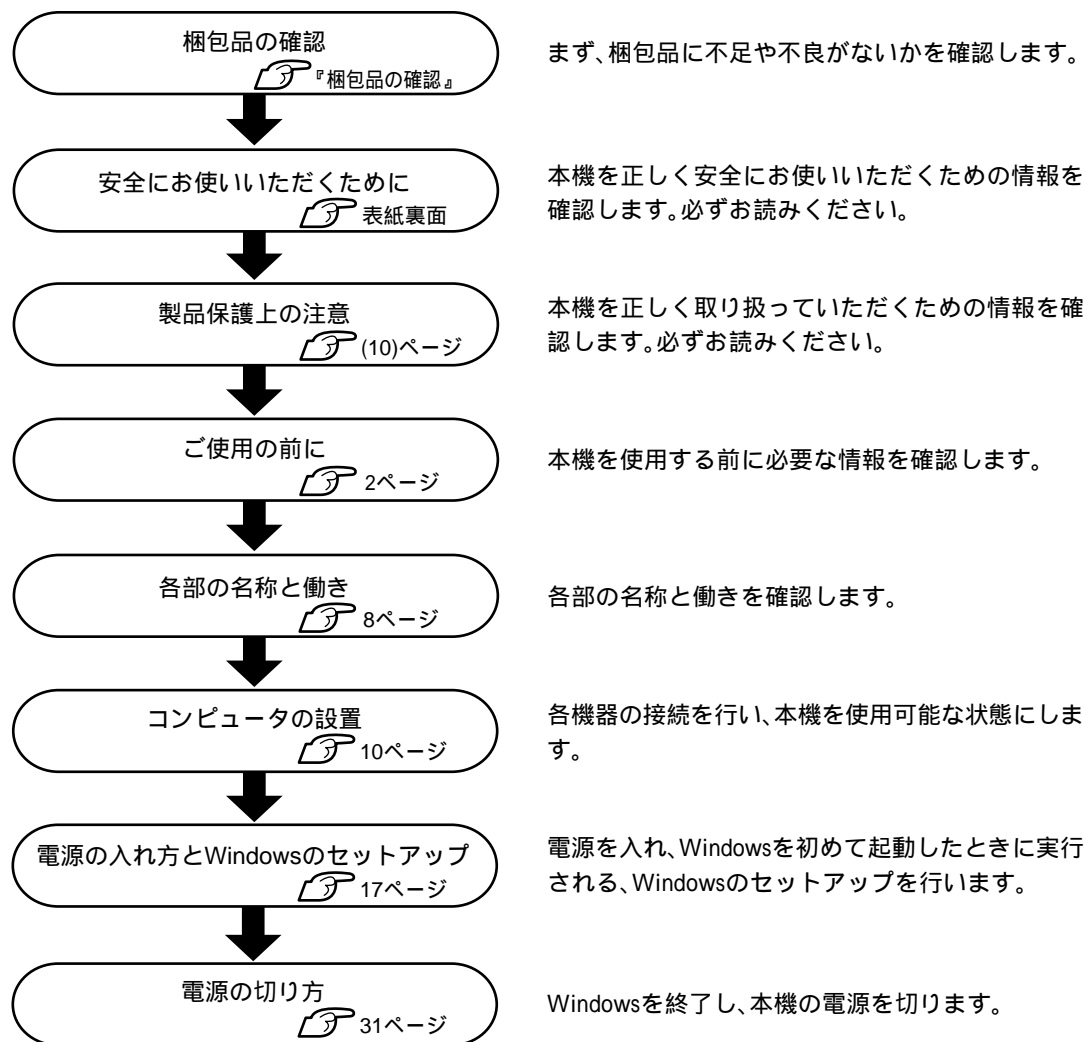
使い始めるまでの準備

コンピュータの接続方法、電源の入れ方、切り方やセットアップについて説明します。

ご使用前に

コンピュータを使い始めるまでの手順

購入後に初めて使用する場合は、次の手順で作業を行ってください。



ご使用前の確認事項

貼付ラベルの確認

本機の次の場所には、製品情報が記載されたラベルが貼られています。本機をご使用前に、ラベルが貼られていることを確認してください。ラベルは、絶対にはがさないでください。

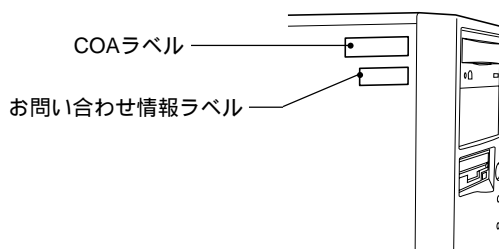
お問い合わせ情報ラベル

お問い合わせ情報ラベルには、型番や製品番号が記載されています。弊社にサポート・サービスに関するお問い合わせをいただく際には、これらの番号が必要です。

製品のサポート・サービスについては、『サポート・サービスのご案内』または『サポートと保守サービスのご案内』をご覧ください。

COAラベル

COAラベル(Windows Certificate of Authenticityラベル)は、正規のWindows商品を購入されたことを証明するラベルです。コンピュータからCOAラベルを絶対にはがさないようにしてください。万一COAラベルを紛失された場合、再発行はできません。



システム構成 の確認

本書では特に記載がない限り、下記システム構成を前提として説明を行っています。購入されたシステム構成が下記と異なる場合、それらの使用方法やドライバのインストール方法などは各装置に添付のマニュアルを参照してください。

DIMM(メモリ)	: 1 本
HDD	: 1 基 (IDE)
5.25 型ドライブ装置	: CD-ROM ドライブ 1 基
ディスプレイ機能	: メインボード上の機能を使用
サウンド機能	: メインボード上の機能を使用
ネットワーク機能	: メインボード上の機能を使用
FAX モデム機能	: なし
キーボード	: 日本語対応 109 キーボード
マウス	: ホイール付き PS/2 マウス

上記に記載のない部分は、システム構成に変更があっても本書の記載内容が変わらない部分です。

システム構成の詳細は、p.165「機能仕様一覧」をご覧ください。

システムの特長

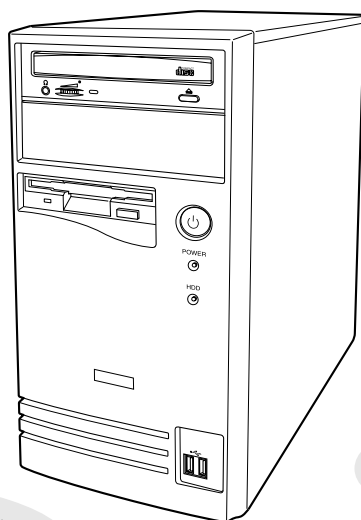
本機のシステムの特長は、次のとおりです。

CPU性能

インテルPentium 4プロセッサまたは
インテルCeleronプロセッサを搭載してい
ます。

拡張スロット

AGPスロット×1
PCIスロット×3
を装備しています。



メモリ容量

DIMMを増設して、最大
1GBまで増設が可能で
す。

画面表示機能

AGP対応のビデオ機能を
搭載しています。

オペレーティングシステム

Windows 2000またはWindows XPを
インストール済みです。

その他

Ultra ATA/100に対応しています。
USB2.0に対応したUSBコネクタを
装備しています。

サウンド機能

AC'97 CODECコントローラ
を搭載しています。

添付されているソフトウェア

本機に標準で添付されているソフトウェアは、次のとおりです。購入時のシステム構成によってはこのほかにも添付されているソフトウェアがあります。

表中記号の見方



： 購入時には、HDDにインストールされています。



： 購入時には、インストールされていません。必要に応じてインストールしてください。

リカバリCDに登録されているソフトウェア



ソフトウェア	Windows 2000 インストールモデル	Windows XP インストールモデル
Windows Windowsは、最新のものがインストールされています。		

ドライバCDに登録されているソフトウェア



ソフトウェア	Windows 2000 インストールモデル	Windows XP インストールモデル
インテル 845Gチップセット用ドライバ メインボード上のデバイスを正常に使用できるようにするドライバです。		
ディスプレイドライバ メインボード上のディスプレイ機能を使用して、Windowsを高解像度・多色で表示するためのドライバです。		
サウンドドライバ メインボード上のサウンド機能を使用して、音を鳴らしたり、録音するためのドライバです。		
ネットワークドライバ メインボード上のネットワーク機能を使用するためのドライバです。		
DirectX8.1 ゲームなどのマルチメディアソフトを快適に使うためのソフトウェアです。		
Norton AntiVirus2002 最新マクロウィルスに対応し、ウィルス駆除もできる高機能なウィルス対策プログラムです。		
Adobe Acrobat Reader 様々なアプリケーションソフトで作成した書類をそのまま再現するPDFファイルの表示やプリントができるソフトウェアです。		

拡張ボードを同時に購入された場合は、専用のドライバがインストールされ、専用のディスクが別途添付されています。

マウスドライバCDに登録されているソフトウェア

ソフトウェア	Windows 2000 インストールモデル	Windows XP インストールモデル
マウスドライバ マウスを使用するためのドライバです。		

バックアップディスクを作成するソフトウェア

ソフトウェア	Windows 2000 インストールモデル	Windows XP インストールモデル
マニュアル(PDFファイル) 「ユーザーズマニュアルファイル(本書)が、コンピュータ画面上でいつでも見られるようにPDF化されています。		

購入時のシステム構成によっては、上記以外のソフトウェアのバックアップディスクを作成する場合があります。

各部の名称と働き

本体前面

CD-ROM アクセスランプ
CD-ROM へのアクセス中や、
音楽用 CD 再生中に点灯しま
す。

CD-ROM イジェクトホール
ディスクトレイが開閉しな
くなったときに使用します。

ボリューム
ヘッドフォンジャックの
音量調整をします。

ヘッドフォンジャック
ヘッドフォンを接続する
と、音楽 CD を聞くこと
ができます。
(Windows XPインス
トールモデルでは使用でき
ません。)

3.5 型 FDD
3.5 型 FD のデータの読
み込み、書き込みを行
います。


FDD アクセスランプ
FD に読み書きを行っ
ているときに点灯します。

FDD イジェクトボタン
FDD にセットした FD を取り出す
ときに押します。

5.25 型ドライブベイ
5.25 型ドライブ装置を取り付けます。


CD-ROM ドライブ
CD-ROM のデータの読み
込みを行います。また、音
楽用 CD の再生もできま
す。

CD-ROM イジェクトボタン
ディスクトレイの開閉を行
います。

電源スイッチ 
コンピュータ本体の電源の
入 / 切を行います。

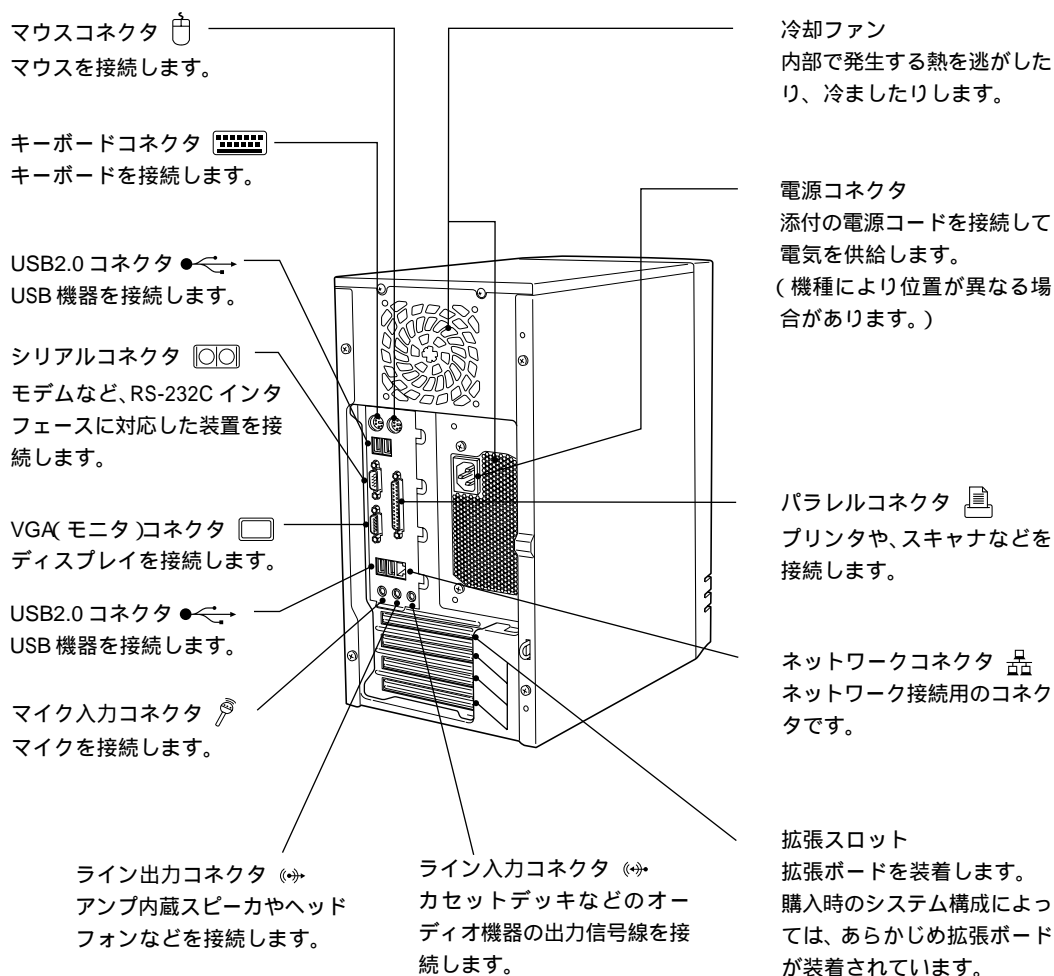
電源ランプ POWER
電源を入ると点灯します。
スタンバイ中は点滅します。

HDD アクセスランプ HDD
HDD にアクセスしている
ときに点灯します。

USB2.0 コネクタ 
USB 機器を接続します。

内蔵スピーカ
コンピュータのピープ音を鳴らします。

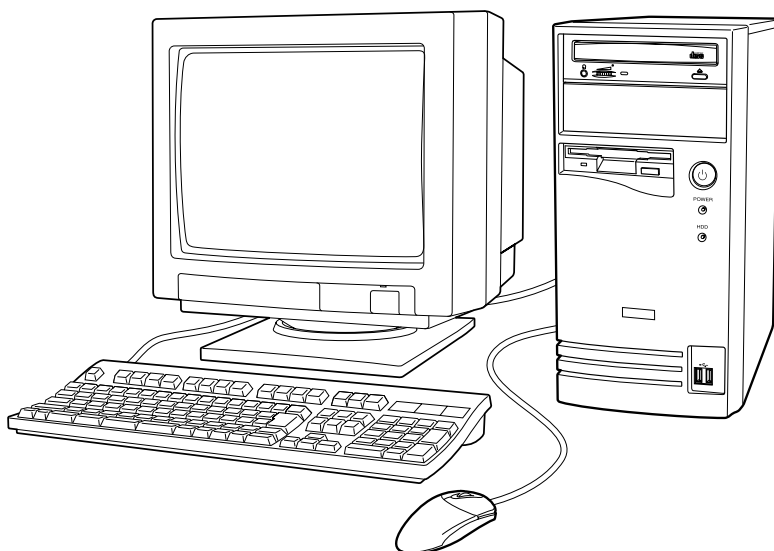
本体背面



コンピュータの設置

本機を安全な場所に設置し、キーボードやマウス、電源コードなどを接続して使用できる状態にする手順を説明します。

ここでの説明は、標準的なシステム構成で行っています。プリンタなどの周辺機器の接続は、Windowsのセットアップ終了後に、周辺機器に添付のマニュアルを参照して行ってください。



設置における注意



不安定な場所(ぐらついた台の上や傾いた所など)に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

本製品の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。設置の際は次の点を守ってください。

- ・押し入れや本箱などの風通しの悪いところには設置しない。
- ・じゅうたんや布団の上には設置しない。
- ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

故障や誤動作を防ぐため、p.(10)「製品保護上の注意」にある注意事項を守って設置場所を決めてください。

各種コード(ケーブル)接続時の注意



警告

- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント(交流100V)から電源を直接取ってください。
- 電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。
 - ・ 電源プラグは、ホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
 - ・ 電源プラグは、刃の根元まで確実に差し込む。



注意

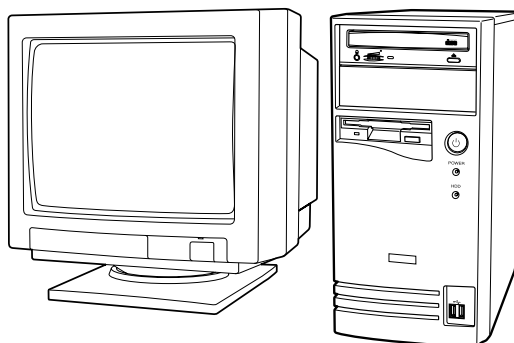
- 各種コード(ケーブル)は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、火災の危険があります。

設 置

1

コンピュータの設置場所(丈夫で水平な机の上など)を決めて設置します。

本機は横置きにできません。必ず縦置きに設置してお使いください。

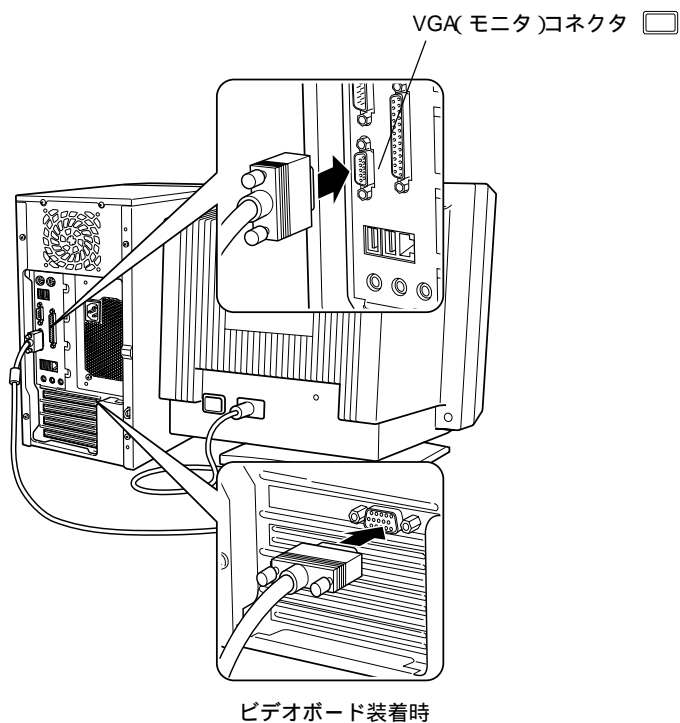


ディスプレイの接続

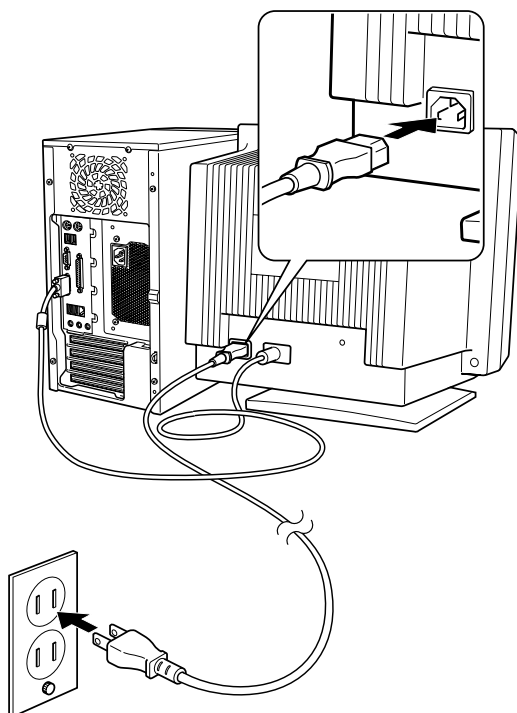
ここでは、一般的なディスプレイの接続方法を説明します。ディスプレイの取扱上の注意や詳しい使用方法是、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

2 ディスプレイの接続コードを、本機背面のVGA(モニタ)コネクタ(青色)に接続します。

ビデオボード装着時は、ビデオボードのVGA(モニタ)コネクタに接続します。

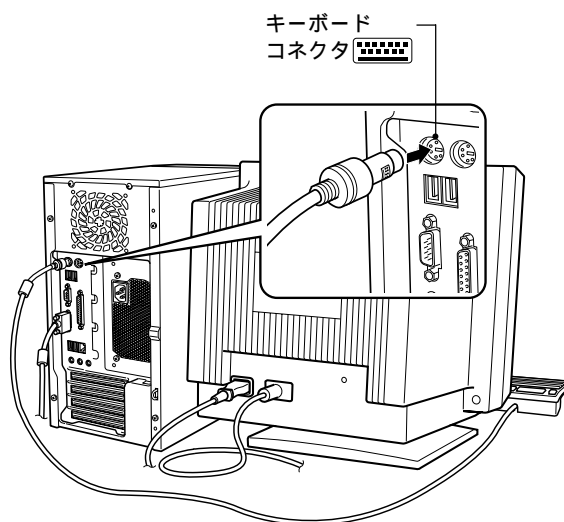


- 3** ディスプレイの電源コードを、ディスプレイの電源コネクタと家庭用電源コンセントに接続します。



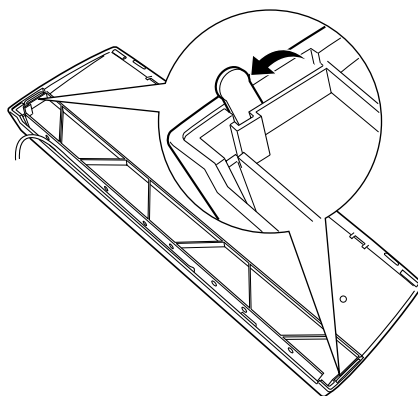
キーボードの接続

- 4** キーボードケーブルのコネクタを、本機のキーボードコネクタ(紫色)に差し込みます。



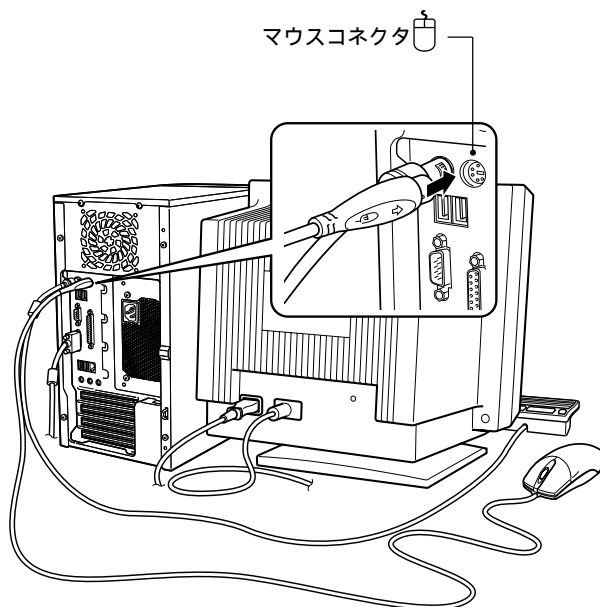
キーボードは操作しやすい位置に置き、次の調節をしてください。

- キーボードを傾斜させるときは、両端の脚を起こします。
- キーボードコードの長さを調整します。



マウスの接続

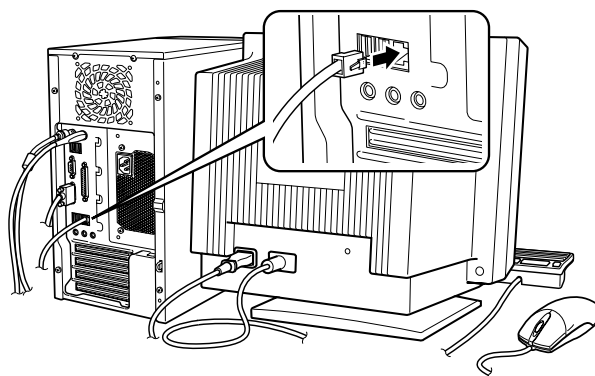
- 5 マウスケーブルのコネクタを、本機のマウスコネクタ(緑色)に差し込みます。



ネットワークへの接続

- 6 ネットワーク機能を使用する場合は、ネットワーク用ケーブルをネットワークコネクタに接続します。

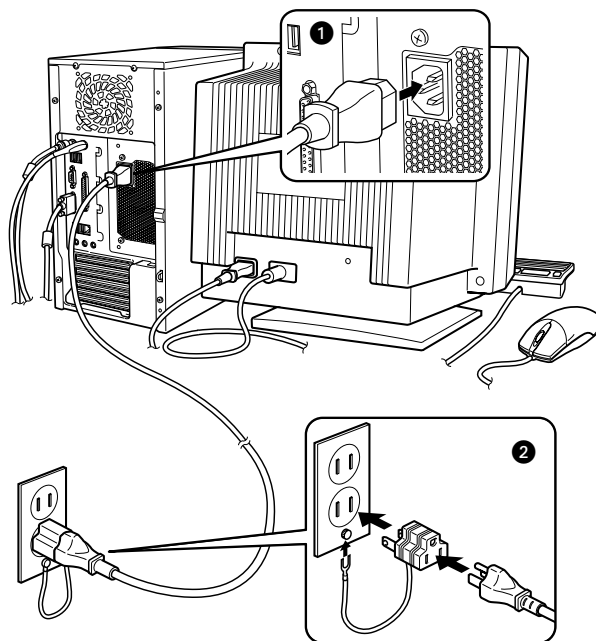
ネットワークの詳細は、ネットワーク管理者に確認してください。



7

電源コードを接続します。

- ① 電源コードを本体の電源コネクタに接続します。
 - ② 添付の電源プラグ変換アダプタを接続してから、家庭用電源コンセントに接続します。
- アース端子が付いているコンセントの場合、電源コードのアース線を接続します。



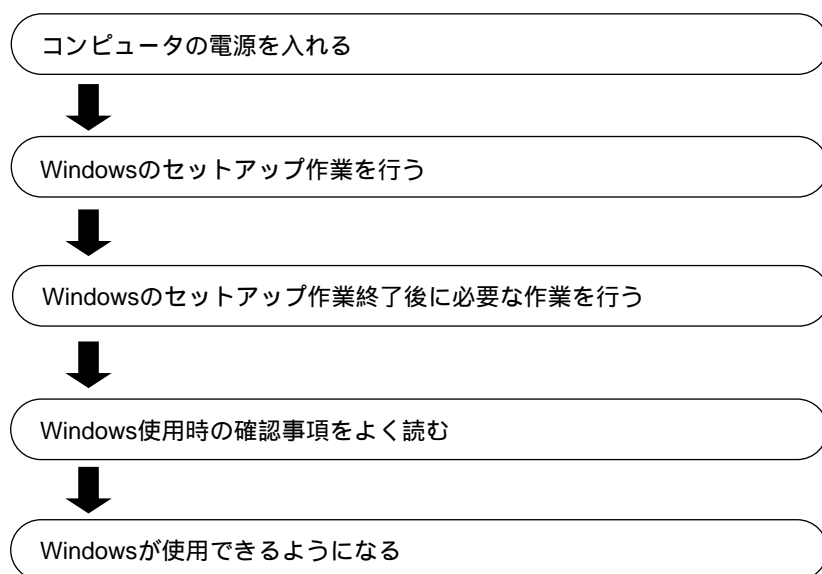
これでコンピュータの設置は終了です。続いてWindowsのセットアップを行います。

電源の入れ方とWindowsのセットアップ

本章では、コンピュータを購入後に、初めて電源を入れてから、Windowsを使用できる状態にするまでの作業を説明します。

Windowsを使用できるようになるまでの作業

作業の流れは、次のとおりです。次ページからの手順に従って作業を行ってください。



電源を入れる前に

Windowsの セットアップとは

「Windowsのセットアップ」は、コンピュータが届いてから、初めて電源を入れたときにユーザー情報などを設定するプログラムです。画面に表示されるメッセージに従って対話式で簡単に行うことができます。

マウスの使い方

Windowsのセットアップは、マウスで行います。
セットアップに必要なマウスの基本操作は、次のとおりです。

マウスポインタを動かす

マウスを前後左右に動かすと、Windowsの画面に表示されているマウスポインタもマウスと同じ動きをします。

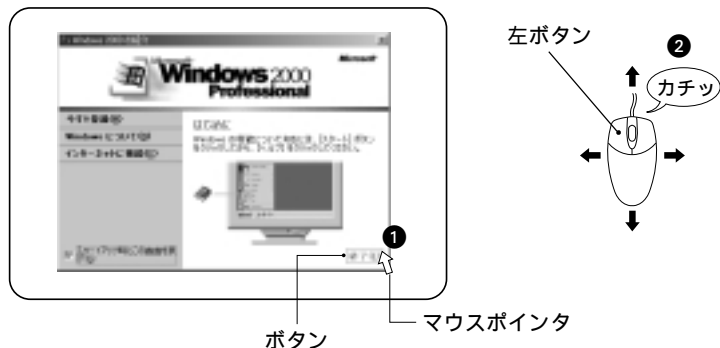


ボタンをクリックする

- ① マウスを動かして、マウスポインタを画面のボタンの上に重ねます。
- ② マウスの左ボタンを、1回「カチッ」と押して離します。

この動作を「クリック」と言います。

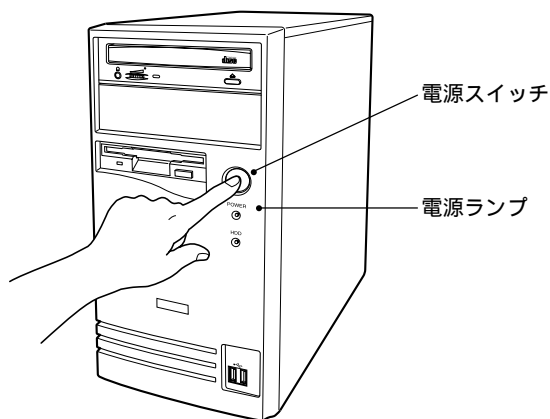
ボタンをクリックすると、ボタンに表示されている操作が実行されます。




電源の入れ方とWindowsの起動

本機の電源の入れ方は、次のとおりです。

- 1 ディスプレイの電源を入れます。
- 2 本機の電源スイッチを押します。電源ランプが点灯します。
電源ランプが点灯しない場合は、電源コードが正しく接続されているか確認します。



- 3 画面にコンピュータの仕様が表示され、しばらくするとWindowsが起動します。
続けてWindowsのセットアップを行います。
 p.20「Windowsのセットアップ」

電源を入れたときに、次のような現象が発生した場合は、次の事項を確認してください。

電源ランプが点灯しない場合

電源コードが正しく接続されているか確認してください。

画面に何も表示されない場合

ディスプレイが正しく接続され、ディスプレイの電源が入っているか確認してください。

Windowsのセットアップ

Windows 2000 インストールモデル

1 Windows 2000インストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows 2000 セットアップ」が実行されます。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

Windows 2000セットアップウィザードの開始

↓ セットアップを続行するには、[次へ] をクリックします。

ライセンス契約

↓ 画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。「同意しない」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

ソフトウェアの個人用設定

↓ ユーザー情報として名前と組織名を管理者の指示に従って入力します。
名前を入力後 [Tab] を押すと組織名の欄にポインタが移動します。

コンピュータ名とAdministratorのパスワード

↓ 「コンピュータ名」「Administratorのパスワード」を管理者の指示に従って入力します。

日付と時刻の設定

↓ 「日付と時刻」で現在の日付を設定し、「タイムゾーン」で地域を指定します。

Windows 2000セットアップウィザードの完了

Windowsが正常にインストールされました。[再起動] をクリックするとコンピュータが再起動します。

- 2 Windows 2000が再起動し、パスワードを入力すると、次の画面が表示されます。これでWindows 2000セットアップは終了です。



続けてp.24「セットアップ終了後の作業」に移ります。

Windows XP インストール モデル

Windows XPインストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

1

電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows XPセットアップ」が実行されます。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

Microsoft Windowsへようこそ

↓ セットアップを続行するには、[次へ]をクリックします。

使用許諾契約

↓ 画面に表示された契約内容に同意するかどうかを設定します。
「同意しません」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

コンピュータ名

↓ 「このコンピュータの名前」を入力します。このコンピュータをネットワークに接続して使用する場合は、ネットワーク管理者の指示に従って入力してください。

パスワードの設定

↓ Windows XP Professionalをお使いの場合は、パスワードを管理者の指示に従って入力します。

インターネットへの接続

↓ ここでは接続を行いませんので、[省略]をクリックします。

ユーザー登録

↓ ここでは登録を行いませんので、「いいえ、今回はユーザー登録しません」を選択します。

コンピュータを使用するユーザーの指定



このコンピュータを使用するユーザーの名前(最大5ユーザー)を入力します。少なくともユーザー名を1つ入力してください。

インストールの完了

Windows XPが正常にインストールされました。[完了]をクリックするとコンピュータが自動的に再起動します。

2

Windows XPが再起動すると、Windowsのデスクトップが表示されます。これで「Windows XPセットアップ」は終了です。



セットアップの際にユーザー名を2つ以上入力した場合は、Windows XPの再起動後に「ようこそ」画面が表示されます。ユーザー名をクリックすると上記の画面が表示されます。

続けてp.24「セットアップ終了後の作業」に移ります。

セットアップ終了後の作業

Windows のセットアップが終了したら、次の作業を行います。

バックアップディスクの作成



制限

バックアップディスクを作成する前にHDDをフォーマットしてしまうと、バックアップディスクは作成できません。

バックアップディスクを作成しないと、ドライバやソフトウェアを再インストールすることができません。必ず作成してください。

バックアップディスクの作成は、「バックアップFD作成ユーティリティ」で行います。「バックアップFD作成ユーティリティ」では、購入時にHDDにインストールされているも、「ドライバCD」などの添付ディスクに登録されていない、次のようなソフトウェアのバックアップディスクを作成します。

本機のコユーザーズマニュアルのPDFファイル

添付のディスク類に登録されているデバイスドライバの最新版

添付のディスク類に登録されていないデバイスドライバ

購入時のシステム構成によって、作成するディスクが異なります。バックアップFD作成ユーティリティ画面に表示されるすべてのディスクセットのバックアップディスクを作成してください。

バックアップディスクを作成するには、フォーマット済みのFDが必要です。

バックアップ ディスクの作成

起動方法

次の方法で、バックアップFD作成ユーティリティを起動します。

Windows 2000 インストールモデルの場合

[スタート] - 「プログラム」 - 「バックアップFD作成ユーティリティ」を実行します。

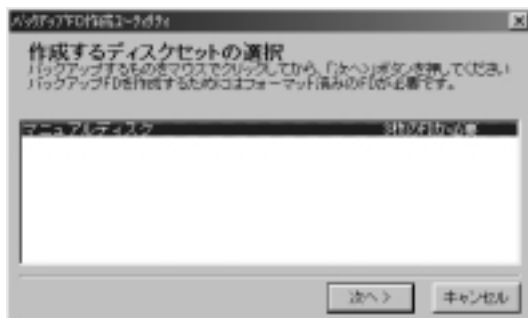
Windows XP インストールモデルの場合

[スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「バックアップFD作成ユーティリティ」を実行します。

作成方法

バックアップディスクの作成は、次の手順で行います。

- 1 「バックアップFD作成ユーティリティ」が実行されると、「作成するディスクセットの選択」が表示されます。



- 2 画面に表示されているディスクセットの中から作成したいディスクセットをクリックして、[次へ]をクリックします。
- 3 画面の指示に従ってバックアップディスクを作成します。
- 4 同様にして「作成するディスクセットの選択」画面に表示されるすべてのディスクセットを作成します。
作成したディスクにはディスク名を明記したラベルを貼り、ライトプロテクトをして大切に保管してください。




p.43「ライトプロテクト(書き込み禁止)」






セットアップブートディスクの作成(Windows 2000のみ)


「セットアップブートディスク」は、回復コンソール*を実行する場合などに使用します。必ず作成しておきましょう。

* 回復コンソールとは、システム修復時に使用する特別な管理コマンドを持つプログラムです。このディスクはコンピュータに関する詳しい知識を持つ方、およびネットワーク管理者の指示に従って使用してください。

セットアップブートディスクの作成方法は、次のとおりです。あらかじめフォーマット済みのFDを4枚用意してください。

 p.42「FDのフォーマット」

- 1 [スタート]-「プログラム」-「アクセサリ」-「コマンドプロンプト」をクリックします。
- 2 「コマンドプロンプト」が「C:¥>」と表示されたら、次のとおり入力して  を押します。
CD ¥BOOTDISK (¥ は、スペースを意味します。)
「C:¥>」以外のコマンドプロンプトが表示された場合は、次の方法でコマンドプロンプトを「C:¥>」とします。
① 次のとおり入力して  を押します。
C:
② 次のとおり入力して  を押します。
CD ¥ (¥ は、スペースを意味します。)
- 3 コマンドプロンプトが「C:¥BOOTDISK>」と表示されたら、次のとおり入力して  を押します。
MAKEBT32
- 4 「コピー先のフロッピードライブを指定してください。」と表示されたら  を押します。
- 5 画面の指示に従い、FDDに1枚目のFDをセットし、どれかキーを押します。ディスクの作成が始まります。


- 6 画面の指示に従い4枚目まで作成します。
作成したディスクは、ディスク名を明記したラベルを貼り、ライトプロテクトをして大切に保管してください。
 p.43「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

ネットワークに接続する

ネットワーク機能を使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。接続を行う際には、ネットワークに関する情報が必要です。お使いのネットワーク機器に添付のマニュアルやネットワーク管理者の指示に従ってください。


Norton AntiVirus2002のインストール

購入時には、「Norton AntiVirus2002」がインストールされていません。「Norton AntiVirus2002」をインストールします。

 『Norton AntiVirus2002をご使用の前に』

その他の設定

購入時にFAXモデムボードなどを装着している場合は、使用できるように設定を行います。

 各装置に添付のマニュアル

Windows使用時の確認事項

「セットアップ終了後の作業」が終わると、Windowsを使用できます。ご使用前に次の事項の確認を行ってください。


Windowsの使用方法是、Windowsに添付の『クイックスタートガイド(ファーストステップガイド)』や、「Windowsのヘルプ」をご覧ください。

2回目以降に電源を入れる

セットアップが終了したコンピュータに電源を入れるときには、次の点に注意してください。

電源が切れていることを電源ランプで確認してから電源を入れる。

省電力機能が働き、動作中でも画面の表示が消えていることがあります。電源を入れるつもりで切ってしまうないように注意しましょう。

 p. 55「省電力機能を使う」

電源を入れなおすときは、20秒程度の間隔を開けてから電源を入れる。


電気回路に与える電氣的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。

周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を先に入れる。

コンピュータよりも先に電源を入れておかないと、コンピュータに認識されない機器があります。

省電力機能

本機では、一定時間マウスやキーボードの操作をしないと、省電力機能が働いて画面表示が消えます。この場合、マウス、キーボードの操作でもとに戻ります。

 p. 55「省電力機能を使う」

デバイスドライバをインストールするときは


デバイスドライバをインストールしたり、周辺機器を接続したりするときに「Windows CD-ROM」が要求されることがあります。このような場合は、添付の「リカバリCD(Windows XPでは「リカバリCD Disc1」)」をセットしてください。

購入時のHDD領域の設定について

購入時のHDD領域は、通常次のように設定されています。


	Windows 2000 インストールモデル	Windows XP インストールモデル
1 台目の HDD	すべての領域：NTFS	すべての領域：NTFS
2 台目の HDD	すべての領域：未設定	すべての領域：NTFS

1台目のHDD領域を変更したい場合は、Windowsの再インストールが必要です。

 p.120「Windowsのインストール」

2台目のHDDの領域作成(Windows 2000のみ)

Windows 2000インストールモデルに2台目のHDDを装着している場合、2台目のHDDは、このままでは使用できません。[スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「管理ツール」-「コンピュータの管理」-「ディスクの管理」を使用して、領域の作成とフォーマットを行ってください。

 「Windowsのヘルプ」

JAVA VMのインストール(Windows XPのみ)

インターネットサイトを閲覧する場合に、サイトによっては「JAVA VMをインストールしてください。」といったメッセージが表示されることがあります。このようなサイトを閲覧するためにはJAVA VMが必要です。次の手順でインストールを行ってください。

- 1 「リカバリCD Disc2」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に次のとおり入力して、[OK]をクリックします。
D:¥JAVAVM¥MSJAVX86
(CD-ROMドライブがDドライブの場合)
- 4 「Microsoft VMをインストールしますか」と表示されたら、[はい]をクリックします。
- 5 「次の使用許諾契約をお読みください。……」と表示されたら、内容を確認し[はい]をクリックします。
- 6 「インストールを完了しました」と表示されたら、[OK]をクリックします。
- 7 「新しい設定を有効にするには、コンピュータを再起動する必要があります。……」と表示されたら、[はい]をクリックします。
Windowsが再起動するとJAVA VMのインストールは終了です。

JAVA VMの設定は、「Internet Explorer」を起動して次の場所で確認できます。
「ツール」-「インターネットオプション」-「詳細設定」タブの「Microsoft VM」項目

電源の切り方

本章では、電源の切り方について説明します。



電源を切ってから、もう一度入れ直す場合には、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を開けてください。

HDDやFDDのアクセスランプ点灯中に電源を切ると、登録されているデータが破壊されるおそれがあります。

本機は、電源を切っていてもコンセントに接続されていると、微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから電源プラグを抜いてください。

使い始めるまでの準備

Windows 2000の終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindows 2000を終了させてから電源を切ります。

- 1 [スタート]-「シャットダウン」をクリックします。
- 2 「Windowsのシャットダウン」画面で「シャットダウン」を選択し、[OK]をクリックします。
Windows 2000が終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。
- 3 ディスプレイや、接続している周辺機器の電源を切ります。

Windows XPの終了と電源の切り方

必ずWindows XPを終了させてから電源を切ります。

- 1 [スタート]-[終了オプション]をクリックします。
- 2 「コンピュータの電源を切る」画面で[電源を切る]をクリックします。
Windows XPが終了し、自動的に電源が切れます。
- 3 ディスプレイや、接続している周辺機器の電源を切ります。

Windows XP 終了時の注意

Windows XPを複数のユーザーが使用している場合に、[終了オプション]-[電源を切る]を選択して電源を切ろうとすると、「ほかの人がこのコンピュータにログオンしています。…」と画面に表示されます。この場合は、画面を切り替えて、ログオンしているすべてのユーザーのログオフを行ってください。

リセット

コンピュータの電源が入っている状態で、コンピュータを再起動するときは、「リセット」を行います。リセットは、次のような場合に行います。

使用しているソフトウェアで指示があった場合
プログラムがハングアップ(キーボードやマウスからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態)した場合

リセットすると、メモリ上のデータはすべて消失します。
なお、ハードウェアを完全に初期化する場合には、コンピュータの電源を切ってください。

Windowsの リセット方法

Windowsのリセット方法は、次のとおりです。

Windows 2000 :[スタート]-「シャットダウン」-「再起動」を選択

Windows XP :[スタート]-[終了オプション]-[再起動]をクリック

リセットできない ときは

プログラムがハングアップしてしまい、上記の方法でリセットできなくなってしまった場合は、あわてず次のとおり対処します。

Ctrl + **Alt** + **Delete** を押してリセットする



コンピュータがリセットできないときは...

コンピュータの電源スイッチを押す



コンピュータの電源が切れないときは...

コンピュータの電源スイッチを5秒以上押し続ける

これでコンピュータの電源が切れます。



コンピュータの基本操作

キーボードやマウス、FDDの使い方など、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

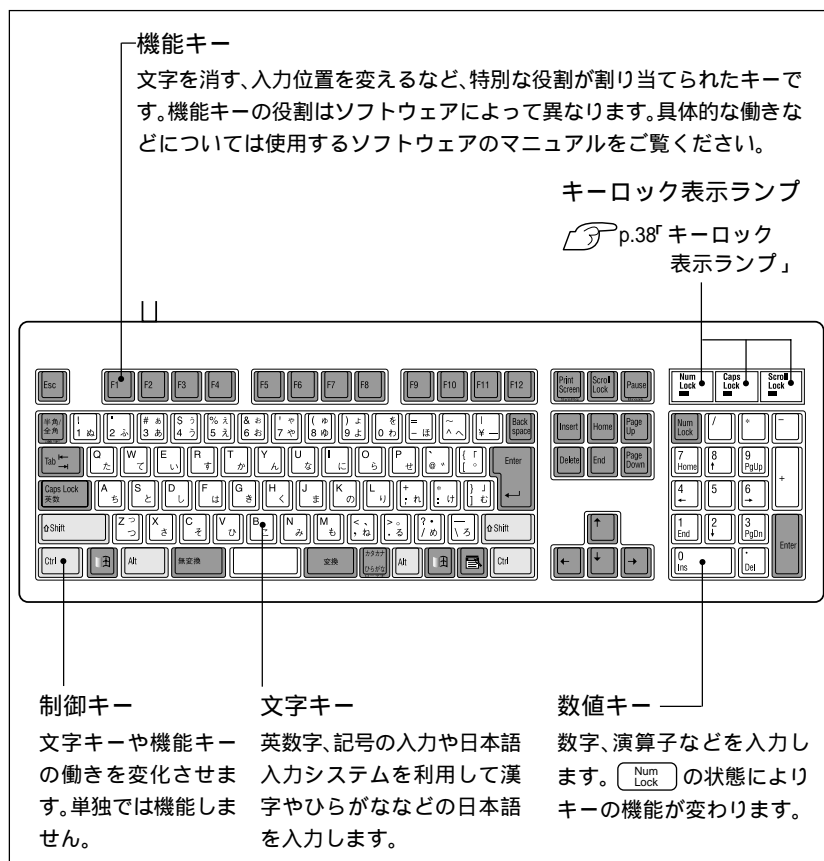
キーボードを使う

本機に標準で添付されているキーボードは、日本語対応109キーボードです。
キーボードの接続方法は、p.14「コンピュータの設置」をご覧ください。

キーの種類と役割

109個のキーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。

入力キー



文字を入力するには

文字キーを押すとキートップ(キーの上面)に印字された文字が入力されます。入力モードによって入力される文字が異なります。

直接入力モード : キートップのアルファベットをそのまま入力します。

日本語入力モード

- ローマ字入力: キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。
- かな入力 : キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やひらがなに変換します。

入力モードの切り替え 直接入力モードと日本語入力モードの切り替えは、次のキー操作で行います。

[Alt] + [半角/全角]

日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は、日本語入力システムで行います。

日本語を入力するには

ひらがなや漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。本機には、日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IMEの使い方 MS-IMEパネルの主要なボタンの名称と働きは次のとおりです。ボタンをクリックして各設定を行ったりヘルプを参照します。









- ① 入力モード
入力モード(ひらがな、カタカナ、英数字など)を選択します。
- ② ヘルプ
日本語入力の方法が詳しく説明されているので参照してください。
- ③ かなキーロック
日本語入力モードの切り替えを行います。
ボタンが押されていない状態 : ローマ字入力
ボタンが押されている状態 : かな入力

MS-IME以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムに添付されているマニュアルをご覧ください。

キーロック表示ランプ



キーボード右上の3つのランプは、キーボードの入力状態を表示しています。

Num Lock	役割 : 数値キーの状態を切り替え 切り替え :  を押します。 点灯時 : 数値を入力 消灯時 : カーソルの位置を制御 数値キーの   (Home) などが使えます。
Caps Lock	役割 : アルファベットの太文字/小文字の切り替え 切り替え :  +  を押します。 点灯時 : 大文字を入力 消灯時 : 小文字を入力
Scroll Lock	役割 : ソフトウェアによって異なります。 切り替え :  を押します。

その他のキー

Windowsキーと
アプリケーション
キー

Windowsキー、アプリケーションキーを使うことにより、Windowsをより効率的に使用することができます。

キー名	機 能
 (Windowsキー)	画面左下の「スタート」をクリックするのと同じ働きをします。
 (アプリケーションキー)	マウスの右クリックと同じ働きをします。 ソフトウェアによっては、機能が異なる場合があります。

マウスを使う

本機に標準で添付されているマウスには、左右のボタンのほかにホイールボタンがあります。

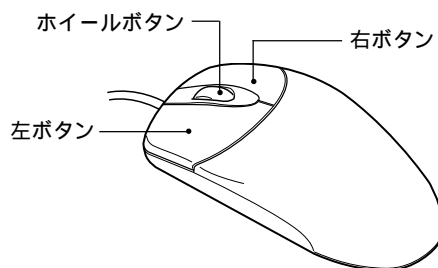
ホイール機能を使用するには、「マウスドライバ」のインストールが必要です。購入時には、「マウスドライバ」がインストールされています。

マウスの操作



制限

アプリケーションソフトによっては、ホイールボタンが使用できない場合があります。



マウスの基本的な操作は、次のとおりです。

- クリック : マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを1回カチッと押します。
- ダブルクリック : マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを2回続けてカチカチッと押します。
- ドラッグアンドドロップ : マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを押したままの状態でもうすを移動し、離します。
- スクロール : ホイールボタンを指先で回転させます。縦スクロール操作を行うことができます。

マウスの設定変更

マウスボタンの設定や使用環境を変更するときは、デスクトップ右下にある「マウス」アイコンをダブルクリックし、「マウスのプロパティ」で設定変更します。詳しくは、オンラインヘルプをご覧ください。

FDD (フロッピーディスクドライブ) を使う

FDDは、FDにデータを書き込んだり、FDからデータを読み出したりする装置です。
本機のFDDでは、次のFDを使用できます。

3.5型2HD : 1.44MBの記憶容量のメディアとして使用できます。

3.5型2DD : 720KBの記憶容量のメディアとして使用できます。



制限

FDは消耗品です。読み書きを繰り返すと、磁性面が摩耗して読み取りエラーや書き込みエラーが発生する原因になります。このような場合には新しいFDと交換してください。

FDのセットと取り出し



制限

FDDアクセスランプ点灯中にFDを取り出したり、コンピュータをリセットしないでください。

コンピュータの電源を切る場合やコンピュータをリセットする場合は、必ずFDを取り出してください。

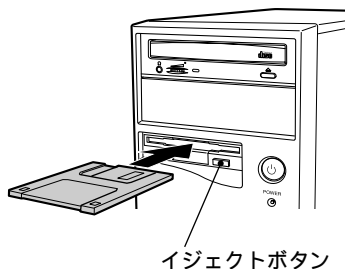
セット方法

1

ラベル面を上にして、アクセスカバー側からFDDに「カチッ」と音がするまで押し込みます。

2

正しくセットされると、イジェクトボタンが飛び出します。



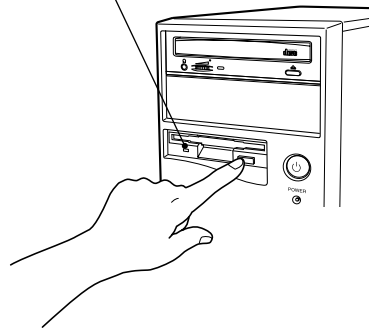
イジェクトボタン

取り出し方法

1

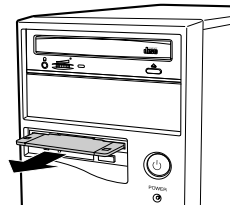
FDDアクセスランプが点灯していないことを確認し、イジェクトボタンを押します。

FDDアクセスランプ



2

F D が飛び出しますので、静かに引き抜きます。



FDのフォーマット

フォーマットとは、データを書き込むための領域を作成することで、初期化ともいいます。新しいFDを使用する場合や登録されているデータをすべて消去する場合にフォーマットします。メディアの種類に合ったフォーマットを行わないと、データの読み書きエラーが発生します。



制限

FDをフォーマットすると、登録されているデータはすべて消失します。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。

Windows XPでは720KBのFDをフォーマットできません。

フォーマット方法 Windowsのフォーマットユーティリティを使ったFDのフォーマット方法は、次のとおりです。



制限

Windows 2000では、Windowsのフォーマットユーティリティを起動したまま、未フォーマットFDを2枚以上連続してフォーマットできません。未フォーマットFDを2枚以上連続してフォーマットする場合は、下記手順2～5を繰り返してください。

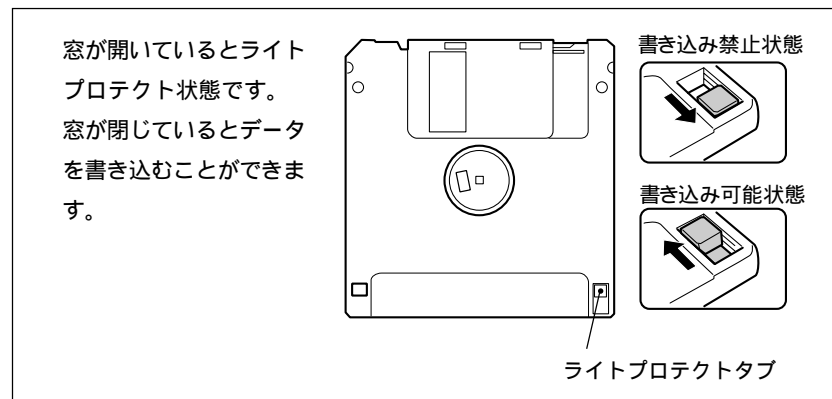
- 1 「マイコンピュータ」をダブルクリックします(Windows XPでは「スタート」-「マイコンピュータ」をクリックします)。
- 2 「3.5インチFD」を右クリックし「フォーマット」をクリックします。
- 3 フォーマットの種類などを設定して「開始」をクリックします。「警告」が表示された場合は、「OK」をクリックします。
- 4 「フォーマットが完了しました」と表示されたら、「OK」をクリックします。続けて別のFDをフォーマットする場合は、FDを入れかえて手順3～4を繰り返します(Windows XPのみ)。
- 5 「閉じる」をクリックし、フォーマットユーティリティを閉じます。

データのバックアップ

大切なデータは、別のFDに登録して予備を作成(バックアップ)しておきます。万データが消失してしまった場合でも、予備のディスクからデータを複写して使用できるので安心です。

ライトプロテクト(書き込み禁止)

ライトプロテクトをしたFDには、データの書き込み、削除、フォーマットができません。重要なデータを登録したFDは、ライトプロテクトをしておく安心です。ライトプロテクトは、FD裏面のライトプロテクトタブで操作します。



HDD (ハードディスクドライブ) を使う

本機には、HDDが装着されています。HDDは、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。一般的には、FDのように交換して使用することはできません。



誤った操作で重要なデータを破壊しないように次の点に注意してください。

- ・ HDDを分解しないでください。
- ・ HDDアクセスランプ点灯中に、コンピュータの電源を切ったり、リセットしないでください。アクセスランプ点灯中は、コンピュータがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破壊されるおそれがあります。

HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することはできません。

本機を落としたり、ぶつけたりしてショックを与えると、HDDが破壊される恐れがあります。ショックを与えないように注意してください。

データのバックアップ

HDD内の重要なデータは、別のメディアに予備を作成(バックアップ)しておきます。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最低限に抑えることができます。

バックアップには、次のような方法があります。

重要なファイルを作成したら、必ずFDなど別のメディアにも登録しておく。専用のバックアップソフトウェアを使用して、複数のファイルを一度にバックアップする。

HDDのフォーマット

HDDを増設・交換するなどして初めて使用する場合には、そのHDDの領域作成とフォーマットが必要です。また、登録されているデータをすべて消去する場合にもフォーマットします。

購入時に装着されている内蔵HDDには通常、ソフトウェアがあらかじめインストールされていますので、フォーマットの必要はありません。



制限

すでにデータが登録されているHDDをフォーマットすると、そのHDDに登録されていたすべてのデータが消失します。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。

HDDの増設

新しいHDDを増設して使用する場合、HDDの領域作成とフォーマットは次の場所で行います。

Windows 2000インストールモデルの場合

[スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」 - 「管理ツール」 - 「コンピュータの管理」 - 「ディスクの管理」

Windows XPインストールモデルの場合

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「パフォーマンスとメンテナンス」 - 「管理ツール」 - 「コンピュータの管理」 - 「ディスクの管理」


詳しくは、「Windowsのヘルプ」を参照してください。

購入時のHDD領域の設定について

購入時のHDD領域は、通常次のように設定されています。購入時の仕様によって、異なる場合があります。


	Windows 2000 インストールモデル	Windows XP インストールモデル
1 台目の HDD	すべての領域：NTFS	すべての領域：NTFS
2 台目以降の HDD	すべての領域：未設定	すべての領域：NTFS

1台目のHDD領域を変更したい場合は、Windowsの再インストールが必要です。

 p.120「Windowsのインストール」

2台目以降のHDDの領域作成(Windows 2000のみ)

Windows 2000インストールモデルに複数のHDDを装着している場合、2台目以降のHDDは、このままでは使用できません。[スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「管理ツール」-「コンピュータの管理」-「ディスクの管理」を使用して、領域の作成を行ってください。

 「Windowsのヘルプ」

CD-ROMドライブを使う

CD-ROMドライブは、データCDのほかに、音楽CD、ビデオCDやフォトCDなどを使用するための装置です。これらのCD-ROMの中には、別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

CD-ROMメディアの種類によっては、再生中に振動することがありますが故障ではありません。

CD-ROMのセットと取り出し

機種によりCD-ROMドライブの形状が異なりますが、基本的な操作は同じです。



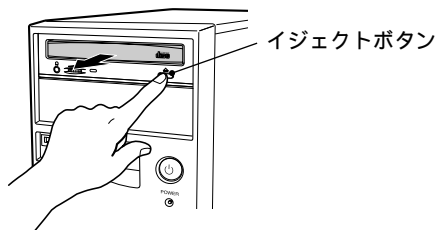
CD-ROMアクセスランプ点灯中にCD-ROMを取り出したり、コンピュータをリセットしないでください。

必要な場合以外は、ディスクトレイは閉じておいてください。

セット方法

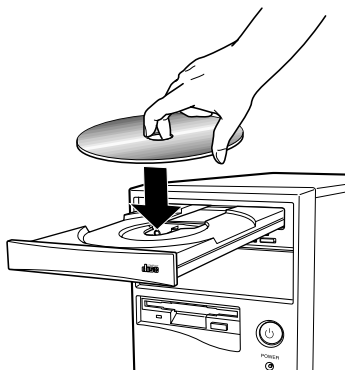
1

イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。



2

印刷面を上にしてCD-ROMをディスクトレイのくぼみに上に載せます。

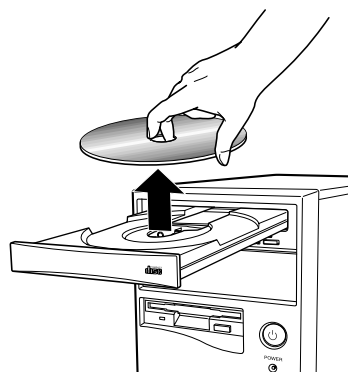


3

イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。

取り出し方法

- 1 CD-ROMアクセスランプが点灯していないことを確認し、イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。
- 2 CD-ROMをディスクトレイから取り出します。
- 3 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。




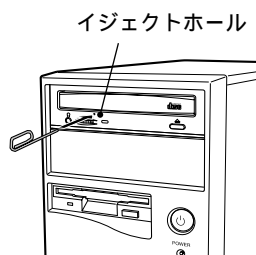
強制的なCD-ROMの取り出し

以下のような場合には、強制的にCD-ROMを取り出すことができます。

CD-ROMドライブが故障して、CD-ROMが取り出せない場合。

CD-ROMをセットしたまま、コンピュータの電源を切ってしまった場合。

- 1 コンピュータの電源が入っている場合は、電源を切ります。
 p.31「電源の切り方」
- 2 イジェクトホールに丈夫な先の細いもの(ゼムクリップを引きのばしたようなもの)を差し込みます。
 機種によりイジェクトホールの位置が異なります。



- 3 ディスクトレイが少し飛び出します。そのまま手でまっすぐ引き出します。

光磁気ディスクドライブを使う

(光磁気ディスクドライブ搭載モデルのみ)

光磁気ディスクドライブ(以降、MOドライブ)は、3.5型光磁気ディスク(以降、MO)の読み書きを行う装置です。MOは、FDのように携帯性にも優れており、画像ファイルなど大容量データやプログラムの登録、HDDのバックアップなどに利用します。本章とあわせてMOドライブに添付のマニュアルもご覧ください。

MOのセットと取り出し

機種によりMOドライブの形状が異なりますが、基本的な操作は同じです。



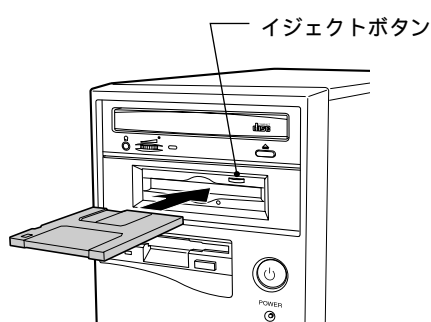
制限

イジェクトボタン(アクセスランプ)点灯中にMOを取り出したり、コンピュータをリセットしないでください。

コンピュータの電源を切る場合は、必ずMOを取り出してください。

セット方法

- 1 MOの文字が印刷されているシャッター面を上にして、MOドライブに「カチッ」と音がするまで静かに押し込みます。

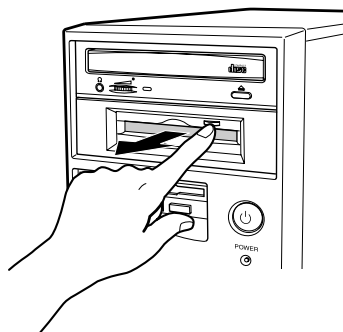


- 2 イジェクトボタンが点滅し、消灯すればMOのセットは完了です。

取り出し方法

- 1 イジェクトボタンが点灯していないことを確認し、イジェクトボタンを押します。

- 2 MOが少し飛び出しますので、まっすぐに引き抜きます。



MOのフォーマット

フォーマットとは、データを書き込むための領域を作成することで、初期化ともいいます。新しいMOを使用する場合や登録されているデータをすべて消去する場合にフォーマットします。

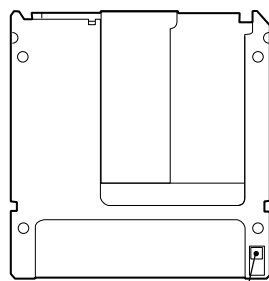


MOをフォーマットすると、登録されているデータはすべて消失します。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。

ライトプロテクト（書き込み禁止）

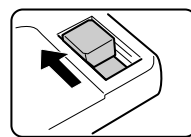
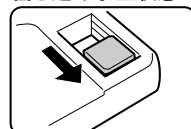
ライトプロテクトしたMOには、データの書き込み、削除、フォーマットができません。重要なデータを登録したMOは、ライトプロテクトしておく安心です。ライトプロテクトは、MO裏面のライトプロテクトタブで操作します。

窓が開いているとライトプロテクト状態です。
窓が閉じているとデータを
書き込むことができます。



ライトプロテクトタブ

書き込み禁止状態



書き込み可能状態

強制的なMOの取り出し

以下のような場合には、強制的にMOを取り出すことができます。

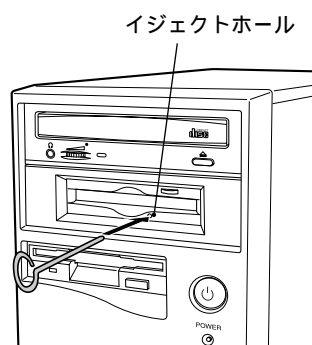
MOドライブが故障して、MOが取り出せない場合。

MOをセットしたまま、コンピュータの電源を切ってしまった場合。



イジェクトピンは、小さなお子様の手が届くところには保管しないでください。目をついたり、口に入れたりして、けがをする危険があります。

- 1 本機の電源が入っている場合は、電源を切り、約10秒程度待ちます。
これはMOドライブのモータが停止するのを待つためです。
- 2 添付されているイジェクトピンをイジェクトホールにまっすぐ押し込みます。
機種によりイジェクトホールの位置が異なります。
- 3 内部のロックが外れ、MOが少し飛び出します。MOをそのまま、まっすぐに引き抜きます。



解像度や表示色を変更する


本機のメインボード上にはディスプレイ機能 (Intel845G) が搭載されています。本章では、画面の解像度や表示色数の設定方法について説明しています。ビデオボードを同時購入された場合は、ビデオボードに添付のマニュアルをご覧ください。



参考

セーフモードでの起動

ディスプレイの設定が正しくない場合や、本機のディスプレイ機能では表示できない解像度を選択した場合、Windowsが再起動したときに画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、セーフモードで再起動して再設定を行ってください。

 p.142「ディスプレイの不具合」

解像度や表示色を変更するには

画面の解像度や表示色数の変更は、次の手順で行います。
変更時には、「Windowsのヘルプ」も参照してください。

1

次の手順で設定画面を表示します。

Windows 2000の場合

- ① [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「画面」アイコンをダブルクリックします。
- ② 「画面のプロパティ」画面が表示されたら、「設定」タブをクリックします。

Windows XPの場合

[スタート]-「コントロールパネル」-「デスクトップの表示とテーマ」-「画面解像度を変更する」をクリックします。

2

設定したい解像度と表示色に変更します。

お使いのWindowsにより「画面の色」、「画面の領域」という表示は異なります。



< Windows 2000の場合 >

3

項目を変更したら、「適用」をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

表示できる解像度と表示色



本機では、下記以外の設定を選択することができますが、それらの設定に関しては保証していません。

接続しているディスプレイによっては正常に表示できない解像度や表示色もあります。

解像度や、表示色が高いと、動画ソフトなどを再生するときに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を下げてみてください。

本機のディスプレイ機能で表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。

Windows 2000
の場合

表示色 解像度	256色	High Color (16ビット)	True Color (32ビット)
640 × 480 ドット			
800 × 600 ドット			
1024 × 768 ドット			
1280 × 1024 ドット			
1600 × 1200 ドット			

Windows XP
の場合

表示色 解像度	中(16ビット)	最高(32ビット)
800 × 600 ドット		
1024 × 768 ドット		
1280 × 1024 ドット		
1600 × 1200 ドット		

ディスプレイの設定

ディスプレイの設定が正しくないと解像度を変更することができません。次の場所で、接続しているディスプレイの設定を行ってください。

Windows 2000: [スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」 - 「画面」 - 「設定」
タブ - [詳細] - 「モニタ」タブ

Windows XP : [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「デスクトップの表示と
テーマ」 - 「画面解像度を変更する」 - [詳細設定] - 「モニタ」タブ

省電力機能を使う

省電力機能を利用すれば、コンピュータを使用していない間、ディスプレイの電源を切ったり、省電力モードに移行して、消費電力を抑えることができます。



省電力機能の設定は、「BIOS Setupユーティリティ」での設定よりもWindowsでの設定が優先されます。

次の状態でスタンバイまたは休止状態に入ると、正常に復帰できない、接続が切断される、誤動作するなどの現象が起こることがあります。

- ・ NetWareサーバーを利用している状態やNetBEUIを使用してネットワークに接続している状態
- ・ ネットワーク上のファイルなどを開いたままの状態
- ・ サウンド機能を使って録音・再生しているとき
- ・ 電源管理機能との相性が良くない周辺機器を接続し動作させている場合
- ・ アプリケーションを起動した状態または動作中

このような場合は、下記のいずれかの対処方法を取ってください。

- ・ 切断後に再度ログオンする(Netwareサーバーを利用している場合のみ)
- ・ 再起動する
- ・ 省電力モードを無効にする

省電力機能の種類


省電力機能には、次の3つのモードがあり、状況に応じて使い分けることができます。

HDD/ディスプレイの電源を切る

HDDやディスプレイの電源を切ります。省電力の効果は、スタンバイより低いですが、通常モードにすぐに復帰できます。


スタンバイ

作業内容をメモリに保持した状態でコンピュータの動作を中断します。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプは緑色に点滅します。BIOSの設定(ACPI Suspend to RAM)により、消費する電力量などが異なります。

 p.57「スタンバイの動作状態」

休止状態

作業内容をHDDに保存して電源を切ります。電源スイッチを切った状態と同様に電力を消費しません。通常モードへの復帰には多少時間がかかります。休止状態を有効にするには設定が必要です。

 p.58「休止状態を有効にする」

電源ランプの表示 省電力モードの状態は、電源ランプの点灯または点滅によって確認できます。

動作状態	電源ランプの表示
通常モード	緑点灯
HDD/ ディスプレイの電源を切る	緑点灯
スタンバイ	緑点滅
休止状態	消 灯
電源切断時	消 灯

省電力機能を実行する前の確認事項

省電力機能を実行する前に、次の事項を確認してください。

スタンバイの動作状態

「BIOS Setupユーティリティ」の次の項目を、「Enabled」または「Disabled」に設定することにより、スタンバイの動作状態が異なります。

「Power」メニュー画面 - 「ACPI Suspend to RAM」

購入時には、「Enabled」に設定されています。

「Enabled」設定時

「Enabled」に設定してスタンバイを実行すると、作業内容をメモリに保持した状態で、本機のメモリ以外の電源が切れます。そのため電力はほとんど消費されません。

「Disabled」設定時

「Disabled」に設定してスタンバイを実行すると、作業内容をメモリに保持した状態で、不必要な電源が切れます。電力消費は通常モードの約半分になります。

スタンバイ実行時の制限事項

「ACPI Suspend to RAM」を「Enabled」に設定してスタンバイを実行する際には、次のような制限事項があります。

スタンバイを実行しているときに電源コードが抜けたりすると、メモリへの電源供給が切れてしまい、次に本機の電源を入れたときに正常に起動しません。この場合は、本機の電源を切ってからもう一度入れ直してください。

スタンバイが正常に動作しない場合は、相性の良くない周辺機器などを使用している可能性があります。

「Disabled」に設定してスタンバイを実行してください。

休止状態を有効にする

休止状態を有効にするには、次の設定が必要です。「コントロールパネル」-「電源オプション」-「休止状態」タブをクリックして、「休止状態をサポートする」にチェックを付けます。



< Windows 2000の場合 >

実行方法

省電力機能を実行するには、大きく分けて2つの方法があります。万一正常に復帰できない場合に備え、省電力機能を実行する前に使用中のデータ(作成中の文書など)を保存しておくことをおすすめします。

① 時間経過で実行

設定した時間を超えてコンピュータを使用しないと省電力モードに移行します。

② 直ちに実行

席を外すときなどに、強制的に省電力モードに移行します。

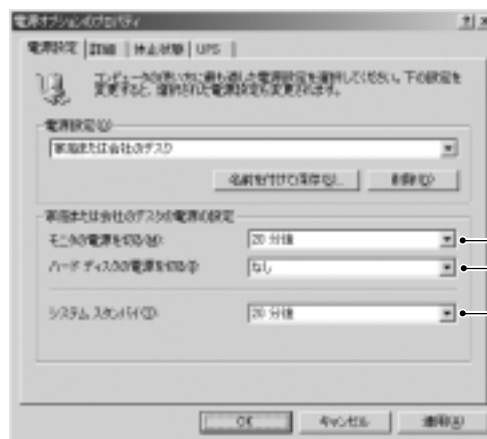
省電力に関する各種設定は、次の画面の各タブで行います。

Windows 2000 : [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「電源オプション」

Windows XP : [スタート]-「コントロールパネル」-「パフォーマンスとメンテナンス」-「電源オプション」

時間経過で実行

省電力モードに移行する時間の設定は、「電源設定」タブで行います。



設定した時間を超えて何も操作しないと、各省電力モードに移行します。

Windows 2000の場合



購入時の設定

Windowsの再インストールを行うと、「電源設定」タブの設定値が変更されません。購入時の設定は次のとおりです。

- ・ モニタの電源を切る : 「20分後」
- ・ システムスタンバイ : 「20分後」
- ・ ハードディスクの電源を切る : 「なし」

ただし、AGPボードを使用している場合の値は異なります。

直ちに実行

次の方法で、スタンバイ、または休止状態を強制的に実行します。

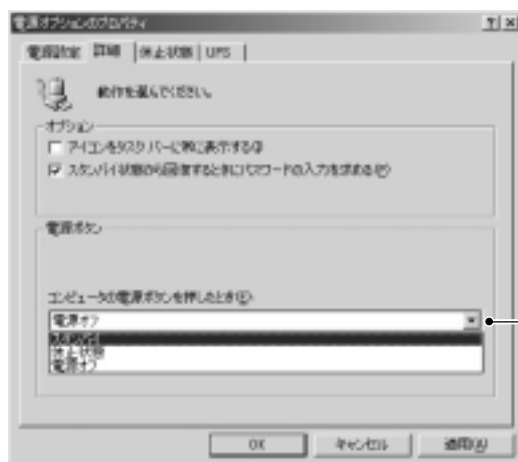
スタートボタンから実行する

Windows 2000 の場合 : [スタート] - 「シャットダウン」から選択実行します。

Windows XP の場合 : [スタート] - [終了オプション] から選択実行します。

電源スイッチを押して実行する

電源スイッチを押したときに、どのモードに入るかをあらかじめ「詳細設定」タブで設定しておきます。



電源スイッチを押したときの動作を設定します。

Windows 2000の場合

復帰方法

省電力モードから復帰して通常モードに戻る方法は、次のとおりです。

省電力モード	電源ランプ	復帰方法
HDD/ディスプレイの電源が切れている状態	緑点灯	キーボードやマウスを操作します(誤って電源スイッチを押さないでください)。
スタンバイ (ACPI Suspend to RAM:Enabled)	緑点滅	電源スイッチを押します。
スタンバイ (ACPI Suspend to RAM:Disabled)		キーボードやマウスを操作します(誤って電源スイッチを押さないでください)。
休止状態	消 灯	電源スイッチを押します。

その他の機能

サウンド機能

本機のメインボード上には、サウンド機能が搭載されています。サウンドボードを同時購入された場合は、サウンドボードに添付のマニュアルもあわせてご覧ください。

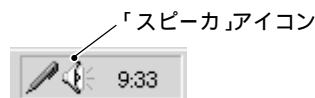
スピーカを使用する 本機で音を鳴らすにはスピーカを接続する必要があります。本機背面のライン出力コネクタにアンプ内蔵スピーカを接続してください。サウンドボードをお使いの場合は、ライン出力コネクタの位置をサウンドボードに添付のマニュアルで確認してください。

音を鳴らしたり、録音したりするには Windows標準のサウンドユーティリティを使用します。音楽CD、WAVEファイル、MIDIファイルの再生や、WAVEファイルの作成なども可能です。サウンドユーティリティは[スタート]-「(すべての)プログラム」-「アクセサリ」-「エンターテイメント」フォルダに登録されています。使用方法是、『クイックスタートガイド(ファーストステップガイド)』や「Windowsのヘルプ」をご覧ください。

Windows使用時に音が鳴らない、音が大きすぎるといった場合は、次の方法で音量を調節します。

Windows 2000の場合

画面右下のタスクバーに表示されている「スピーカ」アイコンをクリックすると「ボリュームコントロール」が表示されます。つまみを上下にドラッグして調節します。




Windows XPの場合

[スタート]-「コントロールパネル」-「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」-「システム音量を調整する」をクリックして、「音量」タブの「デバイスの音量」で調整します。

サウンドボードを使用する 本機では、メインボード上のサウンド機能を使用せずに、サウンドボードを装着して使用することができます。サウンドボードを使用する場合は、メインボード上のサウンド機能を次の方法で無効に設定してください。

「BIOS Setupユーティリティ」-「Advanced」メニュー画面 - 「I/O Device Configuration」サブメニュー画面 - 「Onboard AC97 Audio Controller」を、「Disabled」に設定します。この設定はサウンドボードを同時購入された場合に、あらかじめされています。

 p.109「Advanced」メニュー画面 - 「I/O Device Configuration」

ネットワーク機能

本機のメインボードには、ネットワーク機能が搭載されています。ネットワーク機能を使用して、ネットワークを構築するには、ほかのコンピュータと接続するために、ネットワークケーブルやハブ(サーバ)などが必要です。そのほかに、Windows上でネットワーク接続を行うのに必要となるプロトコルの設定なども必要になります。ネットワークの構築は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。



NetWareサーバを利用している場合や NetBEUIを使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに入ると、省電力モードからの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。

このような場合は次のいずれかの方法をとってください。

- ・ 切断後に再度ログオンする。(NetWareのみ)
- ・ 再起動する。
- ・ 省電力モードを無効にする。

ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力モードに移行すると、正常に通常モードへ復帰できない場合があります。

リモートブート


本機はリモートブートを使用することができます。

リモートブートを使用すると、コンピュータ側のHDDにOSがインストールされていなくても、ネットワークを介して、サーバー上からOSをインストールすることができます。

リモートブートを行う場合は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

パラレルコネクタ


本機背面のパラレルコネクタには、プリンタやスキャナなどを接続します。本機では、パラレルポートの機能や使用するアドレスを変更することができます。通常はパラレルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」で変更してください。

 p.109「Advanced」メニュー画面 - 「I/O Device Configuration」

シリアルコネクタ

本機背面にはシリアルコネクタが1個用意されています。

シリアルコネクタには、シリアルマウスや外付けのFAXモデム、TA(ターミナルアダプタ)などを接続します。本機では、シリアルポートで使用するアドレスや割り込み信号を変更することができます。通常は、シリアルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」で変更してください。

 p.109「Advanced」メニュー画面 - 「I/O Device Configuration」

USBコネクタ

本機にはUSB2.0に対応したUSBコネクタが、前面に2個、背面に4個用意されています。USBコネクタにはUSB対応の機器を接続します。6個のUSBコネクタは同じ機能ですので、どのコネクタを使用してもかまいません。

USB2.0のデータの転送速度は、最大480Mbpsです。USB2.0コントローラは、USB2.0コネクタに接続するすべての周辺機器で共用します。そのため、転送速度は接続する周辺機器が増えると低下します。

USBコネクタの抜き差しは、本機の電源が入った状態で行えます。ただし、タスクバーにアイコン(「PCカード」アイコンなど)が表示される場合は、Windows上で終了作業が必要です。また、USB機器によっては、専用のデバイスドライバが必要な場合があります。詳しくは、接続するUSB機器に添付のマニュアルをご覧ください。

■ コンピュータウィルスの検索・駆除

本機には、コンピュータウィルスを検出し、駆除するためのソフトウェア「Norton AntiVirus2002」が添付されています。購入時には、「Norton AntiVirus2002」がインストールされていないので、「Norton AntiVirus2002」をインストールしてください。

インストール方法や、詳しい使い方は『Norton AntiVirus2002をご使用の前に』をご覧ください。



システムの拡張

コンピュータに内蔵オプション装置を装着して機能を拡張する方法を説明します。

拡張できる装置

本機には、次の各部に装置を増設・交換して機能を拡張することができます。
ただし、購入時にいくつかの装置がすでに装着されているため、実際に拡張できる装置の数は異なります。


DIMMソケット

DIMMソケットが2本用意されています。内蔵メモリを1GBまで拡張することができます。

 p.76「DIMMの増設」

5.25型ドライブベイ

5.25型の装置（CD-ROMドライブなど）やマウントフレームを取り付けたMOドライブなどを2基まで装着することができます。

 p.85「5.25型ドライブベイへのドライブの装着」


HDDベイ

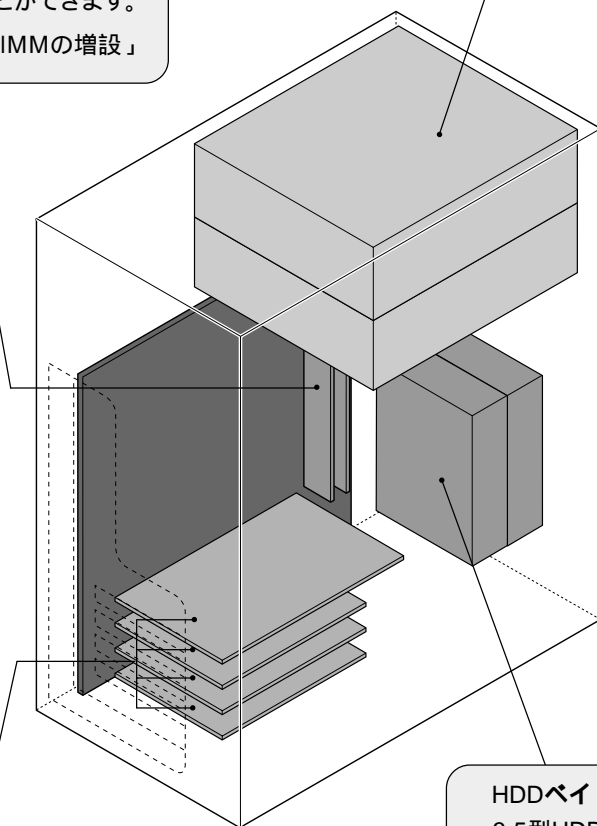
3.5型HDDを2基まで装着できます。

 p.88「HDDベイへの装着」

拡張スロット

AGP仕様の拡張ボードを1枚、PCI仕様の拡張ボードを3枚まで装着できます。

 p.81「拡張ボードの装着」



作業時の注意

コンピュータ内部に装置を装着する場合は、必ず以下の点を確認してから作業を始めてください。



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。
感電・火傷の原因となります。
マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。
けがや感電・火災の原因となります。



DIMMやドライブ装置の増設・交換、拡張ボードの装着などは、本製品の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。不安定な場所(ぐらついた机の上や傾いた所など)で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



本機は電源を切っても、コンピュータ内部に微少な電流が流れています。必ず電源コンセントから電源プラグを外してください。

取り付ける装置に添付されているマニュアルを必ず参照してください。
コンピュータおよび接続している周辺機器の電源を切ってください。
コンピュータ内部のケースや基盤には突起があります。装着作業の際には、けがをしないよう注意してください。
作業直前には、金属のものに触れるなどして、静電気を逃がしてから作業を行ってください。

拡張時の準備作業

装置の拡張作業を行う場合は次の準備作業が必要です。各装置の拡張手順に従って、下記の作業を必要に応じて行ってください。

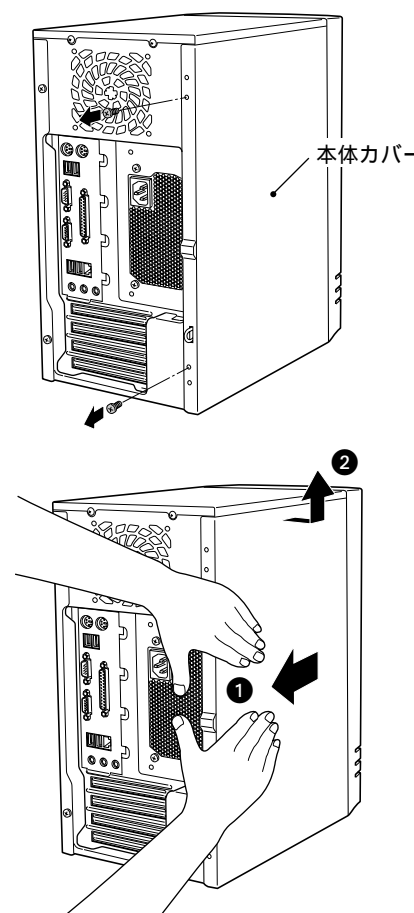


電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。
感電・火傷の原因となります。

本体カバーの取り外し・取り付け

本機の内部に装置を装着する場合は、左側の本体カバーを外す必要があります。
本体カバーは、次の手順で取り外し・取り付けを行います。

取り外し

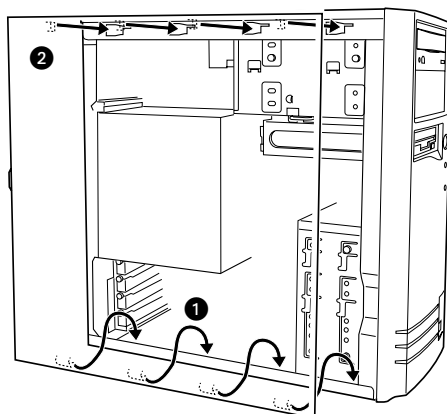
- 1 コンピュータ本体の電源を切ります。
作業直前までコンピュータが動作していた場合は、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上放置してください。
 - 2 コンピュータ背面に接続しているケーブル類をすべて外します。
 - 3 本体左背面のネジ(2本)を外します。
 - 4 本体カバーを取り外します。
 - ① 本体カバーを本体背面側に引きます。
 - ② 本体カバーを上へ引き上げます。
- 
- 本体カバー

取り付け

1

本体カバーを本体側面に合わせます。

- ① 本体カバーの下側のつめをコンピュータ下側のヘリにはめ込みます。
- ② 本体カバーの上側の突起をコンピュータ上側の切り欠きにはめ込みます。

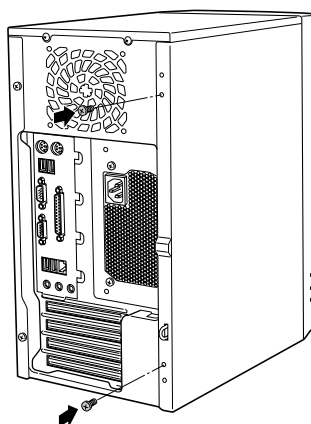


2

本体カバーを前面側にスライドさせます。

3

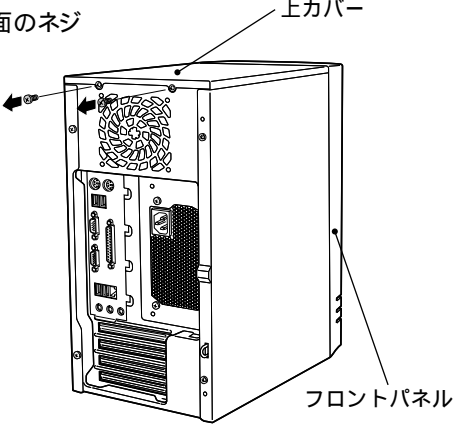
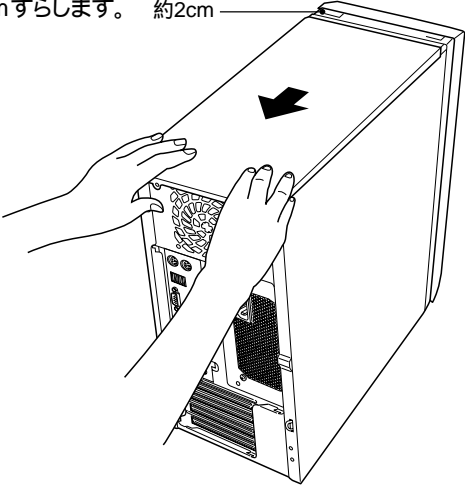
ネジ(2本)で本体カバーを固定します。



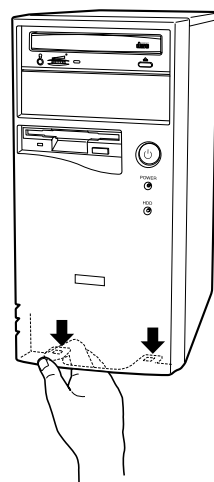
フロントパネルの取り外し・取り付け

本機の内部に装着する装置によっては、フロントパネルを取り外す必要があります。フロントパネルは、次の手順で取り外し・取り付けを行います。

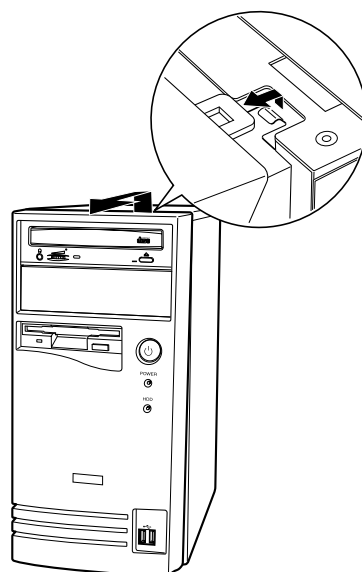
取り外し

- 1 上カバーを固定している本体背面のネジ
(2本)を外します。

- 2 上カバーを背面側に約2 cmずらします。約2 cm

- 3 本体前面を机から約5 cm突き出して置きます。
フロントパネルの下部から手を入れられるスペースを作ります。
コンピュータのバランスを崩して、机から落とさないように気を付けてください。

- 4 フロントパネル下部の左右のフックを外します。
フロントパネルの内側からフックを押し下げます。



- 5 フロントパネル上部の左右のフックを外します。
上側の片方のフックを少し持ち上げながら手前に引くと外れます。



- 6 フロントパネルを本体から外します。

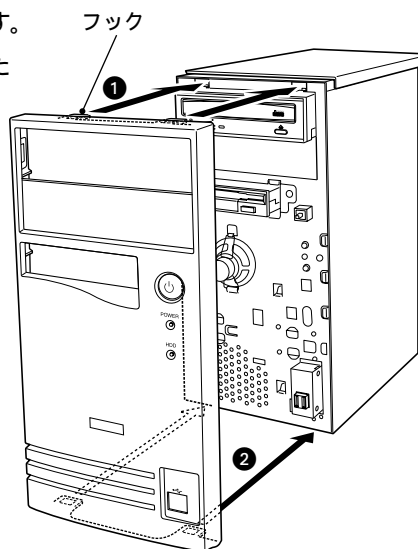
- 7 手順3で移動させた本体を安定した場所に置きます。

取り付け

1

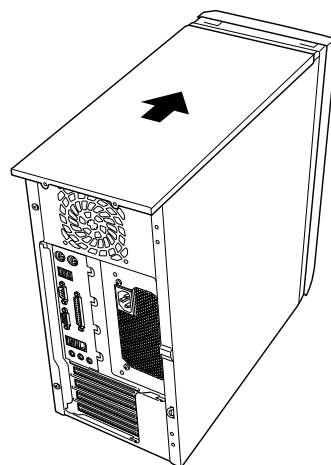
フロントパネルを本体にセットします。
上カバーを背面側に約2cmずらした
状態で行います。

- ① フロントパネル上部のフック
(2個) を本体上部の穴に合
わせめます。
- ② フロントパネル下部のフック
(2個) を本体底面の切り欠
きに合わせて押し込みます。



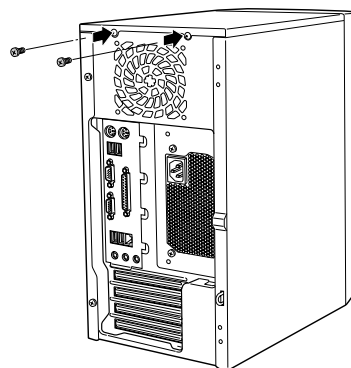
2

上カバーを本体前面側へスライドさせま
す。



3

本体背面のネジ(2本)で本体の上
カバーを固定します。

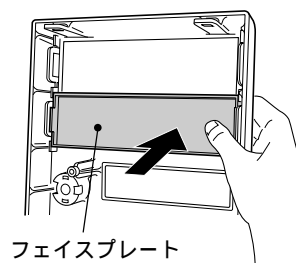


フェイスプレートの取り外し・取り付け

取り外し

5.25型ドライブベイにドライブ装置を取り付けるときは、フェイスプレートを取り外します。

フロントパネルの裏側からフェイスプレートの片側を押し出します。外したフェイスプレートは、大切に保管してください。

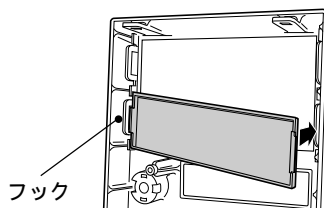


フェイスプレート

取り付け

ドライブ装置を外して何も取り付けない場合は、コンピュータ内部にほこりが入らないように、フェイスプレートを取り付けます。

フロントパネルの裏側からフェイスプレートの片側をフックに合わせ、もう片側を押し込みます。



フック

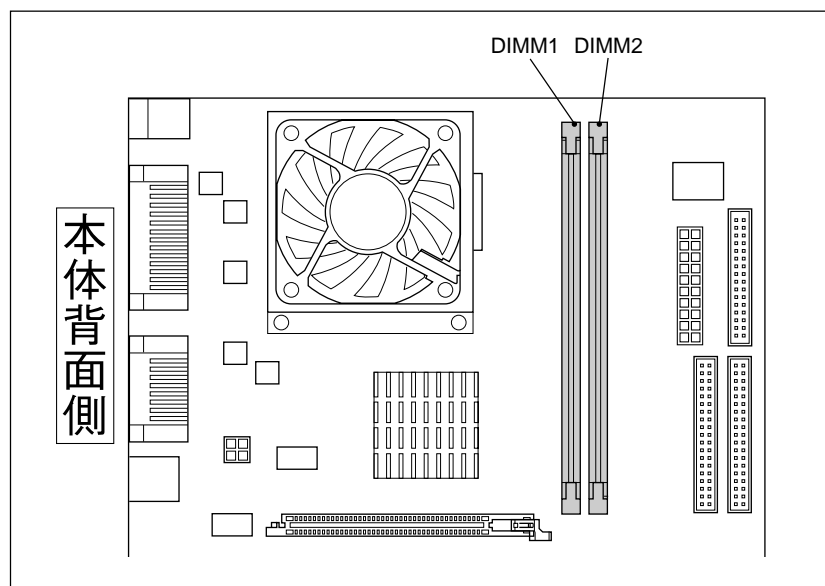
DIMMの増設

本機で、使用可能なDIMM(メモリ)の仕様とDIMMの取り付け方法について説明します。

DIMMの仕様

本機には、2つのDIMMソケットが用意されています。DIMMソケットにDIMMを装着することにより最大1GBまで拡張することができます。

DIMMはDIMM2ソケットから取り付けます。購入時には、DIMM2ソケットにあらかじめDIMMが取り付けられています。(メモリ容量は、購入時のシステム構成により異なります。)



本機で使用可能なDIMMの仕様は次のとおりです。

PC2100 DIMM(DDR266 SDRAM使用、184ピン)

メモリ容量 128MB、256MB、512MB

Non ECC



上記仕様と一致するDIMMを弊社のオプションリストより選択してください。

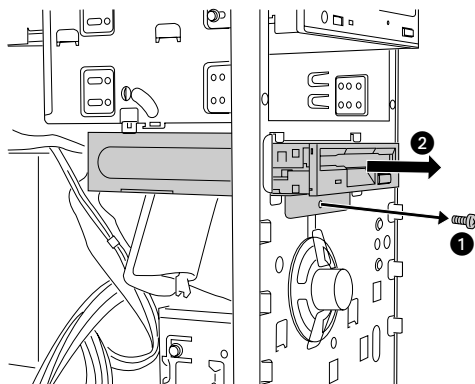
DIMMの取り付け

作業を始める前にp.69「作業時の注意」を必ずお読みください。


DIMMの取り付け作業をする場合は、コンピュータを横置きにしてもかまいません。


取り付け

- 1 コンピュータの電源を切ります。
コンピュータが動作していた場合は、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2 コンピュータ背面に接続しているケーブル類をすべて外します。
- 3 本体カバーを外します。
 p.70「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 4 フロントパネルを取り外します。
 p.72「フロントパネルの取り外し・取り付け」
- 5 FDD を前面にずらしします。
 - ① FDD を固定している前面のネジ(1本)を外します。
 - ② FDD を前面側に約5cm スライドさせます。

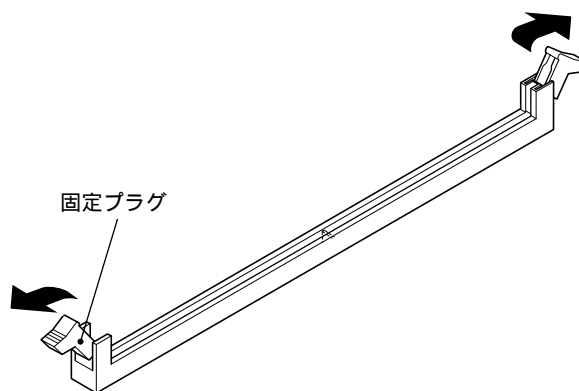


- 6 HDD ドライブキャリアと取付け作業の妨げになる拡張ボードを外します。

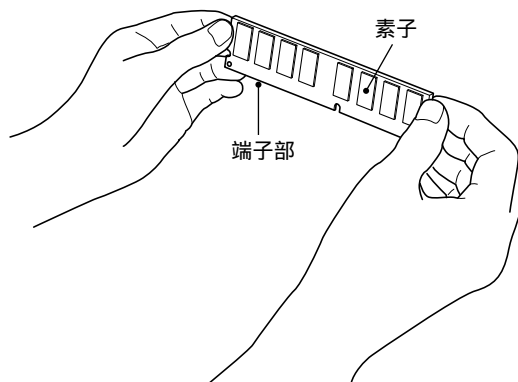
 p.82「拡張ボードの装着」

 p.88「HDD ベイへの装着」

- 7 DIMMソケットの固定プラグを開きます。



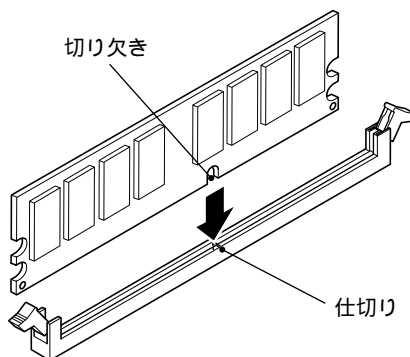
- 8 DIMMを静電防止袋から取り出します。DIMMの端子部や素子に触れないように注意します。



9



DIMMソケットにDIMMを差し込みます。

- ① DIMMの切り欠きをDIMMソケット内の仕切りに合わせます。
- ② さらに押し込むと、固定プラグが閉じて、DIMMが固定されます。



10

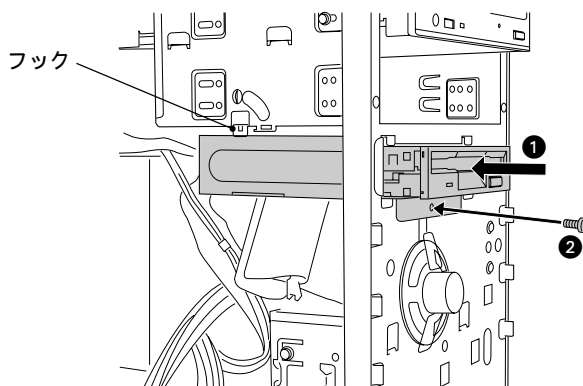
手順6で取り外したHDDドライブキャリアと拡張ボードをもとどおりに装着します。




-  p.82「拡張ボードの装着」
-  p.88「HDDベイへの装着」

11

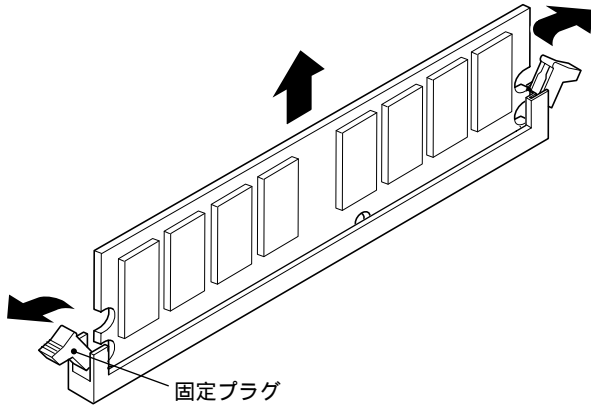
FDD をもとの位置に戻します。

- ① FDD を背面側に押しこみます。
FDDのケーブル類がフックに引っ掛からないよう注意してください。
- ② 前面から FDD をネジ(1本)で固定します。



- 1 2 フロントパネルを取り付けます。
 p.72「フロントパネルの取り外し・取り付け」
- 1 3 本体カバーを取り付けます。
 p.70「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 1 4 コンピュータを使用できるように、本体背面のケーブル類をもとどおりに接続します。
- 1 5 メモリ容量を確認します。
- ① コンピュータを起動します。 **Delete** を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。
 p.101「BIOS Setupユーティリティの操作」
 - ② 「Main」メニュー画面の「Installed Memory」に表示されている総メモリ容量を確認します。
装着したDIMMの容量だけメモリ容量が増えていればDIMMは正しく取り付けられています。増えていない場合は、正しく取り付けられていないことが考えられます。すぐに電源を切り、正しく取り付け直してください。

取り外し

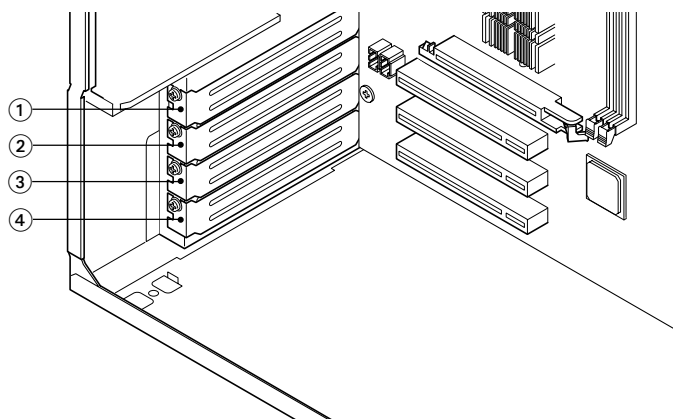
- 1 DIMMの両端を固定している固定プラグを開きます。
- 
- 2 DIMMが外れたら静かに取り外します。
静電気防止袋に入れて保管してください。

拡張ボードの装着

拡張スロットの仕様と拡張ボードを取り付ける方法について説明します。

拡張スロットの仕様

本機には、4つの拡張スロットがあります。各スロットの仕様は、次のとおりです。

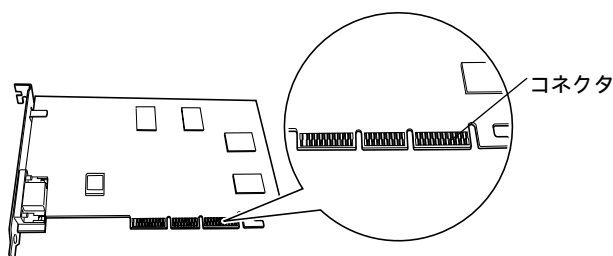


スロット番号	コネクタ仕様	装着可能な拡張ボードサイズ
①	AGP*	ボード長215mmまで
②	PCI	ボード長200mmまで
③	PCI	ボード長200mmまで
④	PCI	ボード長200mmまで

* AGP2.0 1.5V仕様 対応カードのみ装着可能

AGPコネクタ の仕様

本機のAGPコネクタは、AGP2.0 1.5V仕様 対応ボードのみ装着可能です。仕様の異なるAGPボードは、コネクタの形状が異なるため装着することができません。本機に装着可能なAGPボードは、次のようなコネクタの形状をしています。



拡張ボード取り付け・取り外し

作業を始める前にp.69「作業時の注意」と「拡張ボードに添付のマニュアル」を必ずお読みください。



参考

拡張ボードのコネクタ


拡張ボードによっては、コンピュータ内部のコネクタとの接続が必要な場合があります。



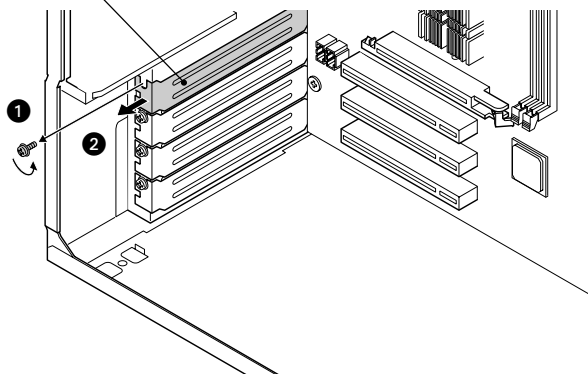
拡張ボードに添付のマニュアル

作業を行う場合は、コンピュータを横置きにしてもかまいません。

取り付け

- 1 コンピュータの電源を切ります。
コンピュータが動作していた場合は、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2 コンピュータ背面に接続しているケーブル類すべて外します。
- 3 本体カバーを取り外します。
 p.70「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 4 拡張カードを装着するスロットのスロットカバーを外します。
 - ① スロットカバーを固定しているネジを外します。
 - ② スロットカバーを手前に引き抜きます。

スロットカバー

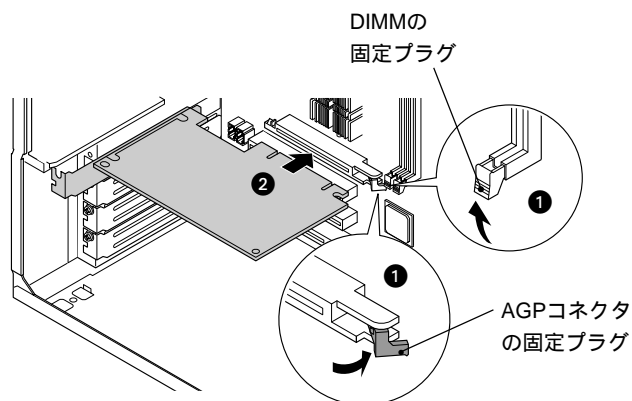


外したスロットカバーは、大切に保管してください。拡張ボードを外したあと、別の拡張ボードを装着しない場合は、本体内部にほこりなどが入らないように再び装着してください。

5 拡張ボードを差し込みます。

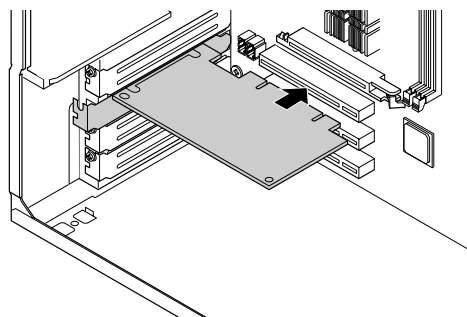
AGPボードの場合

- ① AGPコネクタの固定プラグを倒します。また、DIMMの固定プラグが倒れている場合は、起こします。
- ② AGPボードの端子部を、コネクタに軽く触れる程度に差し込みます。コネクタに無理な力がかかっていないことを確認してゆっくり押し込みます。しっかり固定されると固定プラグが起き上がり「カチッ」と音がします。

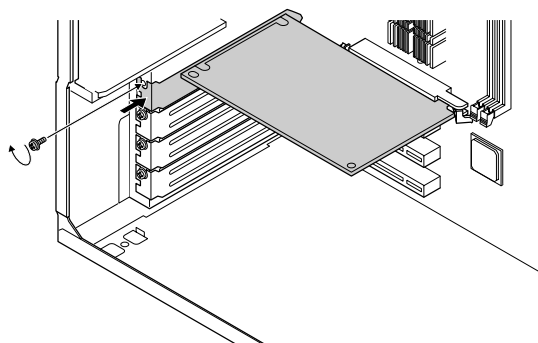



PCIボードの場合

PCIボードの端子部を、コネクタに軽く触れる程度に差し込みます。コネクタに無理な力がかかっていないことを確認してゆっくり押し込みます。



- 6 拡張ボードをネジで固定します。



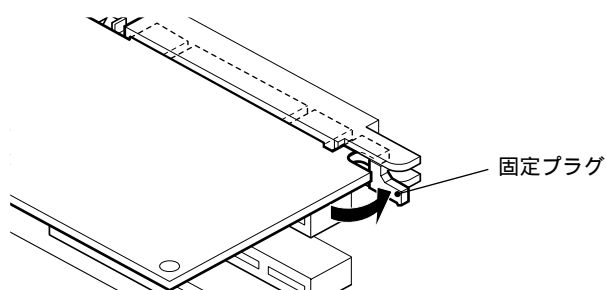
- 7 本体カバーを取り付けます。
 p.70「本体カバーの取り外し・取り付け」

- 8 コンピュータを使用できるように、本体背面のケーブル類をもとどおりに接続します。

取り外し

- 1 拡張ボードを固定しているネジを外します。

- 2 拡張ボードを引き抜きます。
AGPボードを取り外す場合は、AGPボードを固定している固定プラグを倒してから引き抜きます。



< AGPボードの場合 >

- 3 拡張ボードを取り外したスロットに別の拡張ボードを装着しないときは、スロットカバーを取り付けておきます。

ドライブベイへのドライブの装着








3.5型ドライブベイのドライブ装置(FDD)は交換できません。ただし、3.5型のMOドライブを5.25型マウントフレームに取り付け、5.25型ドライブベイに装着することができます。

5.25型ドライブベイへの装着

作業を始める前にp.69「作業時の注意」を必ずお読みください。

取り付け

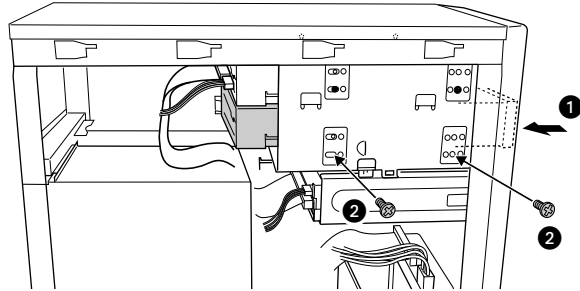
ここでは2台目の5.25型ドライブを増設する手順を説明します。

- 1 あらかじめ装着する装置に添付のマニュアルを参照して、必要に応じてジャンパススイッチの設定などを行います。
 p.92「ドライブ装置の装着」
- 2 コンピュータの電源を切ります。
コンピュータが動作していた場合は、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 3 コンピュータ背面に接続しているケーブル類をすべて外します。
- 4 本体カバーを取り外します。
 p.70「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 5 必要に応じてフェイスプレートを取り外します。
すでに装着されている装置を交換する場合は、この作業は必要ありません。
 - ① フロントパネルを取り外します。
 p.72「フロントパネルの取り外し・取り付け」
 - ② フェイスプレートを取り外します。
 p.75「フェイスプレートの取り外し・取り付け」
 - ③ フロントパネルを取り付けます。
 p.72「フロントパネルの取り外し・取り付け」

6

5.25 型ドライブベイに装置を取り付けます。

- ① 前面から挿入します。
- ② ネジ穴を合わせてネジ(2本)で固定します。




7

装着したドライブ装置にケーブル類を接続します。

 p.96「ドライブ装置(IDE装置)の接続例」

8

本体カバーを取り付けます。

 p.70「本体カバーの取り外し・取り付け」

9


コンピュータを使用できるように、本体背面のケーブル類をもとどおりに接続します。

取り外し

- 1 コンピュータの電源を切ります。
コンピュータが動作していた場合は、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上放置してください。

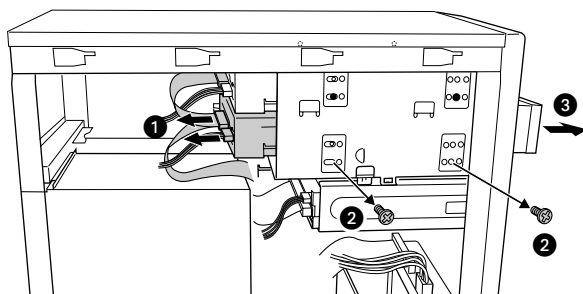
- 2 コンピュータ背面に接続しているケーブル類をすべて外します。

- 3 本体カバーを取り外します。

 p.70「本体カバーの取り外し・取り付け」


- 4 5.25型ドライブベイから装置を取り外します。

- ① 取り外すドライブ装置に接続しているケーブル類を外します。
- ② ドライブ装置を固定しているネジ(2本)を外します。
- ③ ドライブ装置を前面から引き抜きます。




- 5 必要に応じてフェイスプレートを取り付けます。
装置を取り外したドライブベイにほかの装置を取り付ける場合は、この作業は必要ありません。


- ① フロントパネルを取り外します。


 p.72「フロントパネルの取り外し・取り付け」

- ② フェイスプレートを取り付けます。

 p.75「フェイスプレートの取り外し・取り付け」

- ③ フロントパネルを取り付けます。

 p.72「フロントパネルの取り外し・取り付け」

- 6 本体カバーを取り付けます。
 p.70「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 7 コンピュータを使用できるように、本体背面のケーブル類をもとどおりに接続します。

HDDベイへの装着





作業を始める前にp.69「作業時の注意」を必ずお読みください。

新しい1HDDを使用する場合は、装着後にHDDの領域作成と、フォーマットが必要です。

 p.45「HDDのフォーマット」

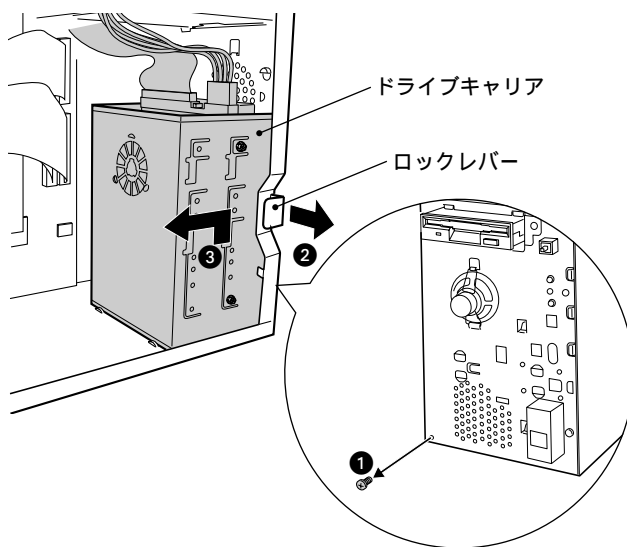
取り付け

ここでは、2台目のHDDを増設する手順を説明します。

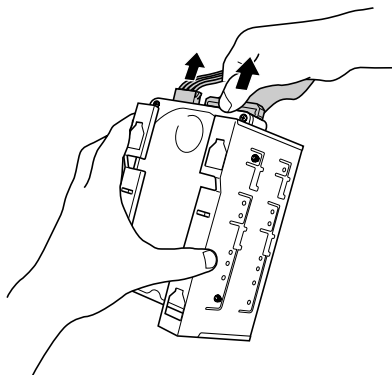
- 1 あらかじめ装着するHDDに添付のマニュアルを参照して、必要に応じてジャンプスイッチやディップスイッチの設定などを行います。
 p.92「ドライブ装置の装着」
- 2 コンピュータの電源を切ります。
コンピュータが動作していた場合は、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 3 コンピュータ背面に接続しているケーブル類をすべて外します。
- 4 本体カバーを取り外します。
 p.70「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 5 必要に応じて拡張ボードを取り外します。
ボード長の長い拡張ボードは手順7のドライブキャリアの取り外しの妨げになります。
 p.81「拡張ボードの装着」
- 6 フロントパネルを取り外します。
 p.72「フロントパネルの取り外し・取り付け」

7 ドライブキャリアを本体から取り外します。

- ① コンピュータ本体とドライブキャリアを固定しているネジ 1本 を外します。
- ② ドライブキャリアを固定しているロックレバーを引きます。
- ③ ドライブキャリアを矢印のとおりにずらして取り外します。

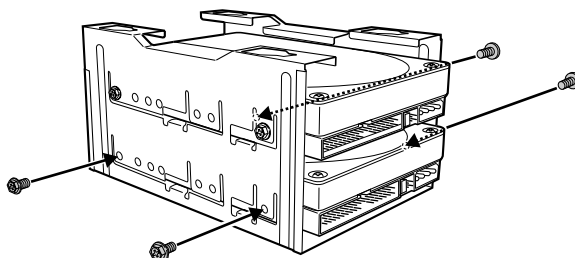


8 ドライブキャリアに装着されているHDDのケーブル類を外します。 片方の手で、ドライブキャリアを持ち、もう一方の手でケーブルを外します。



9 ドライブキャリアにHDDを取り付けます。

- ① 装着されているHDDと同じ向きに合わせ、ドライブキャリアに差し込みます。
- ② ドライブキャリアとHDDのネジ穴を合わせて、ネジ(4本)で固定します。

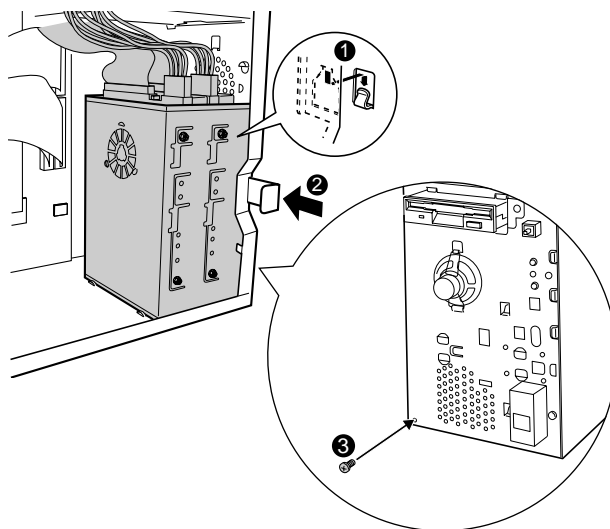





10 HDDにケーブル類を接続します。

 p.96「ドライブ装置(IDE装置)の接続例」

11 ドライブキャリアを本体に取り付けます。

- ① 本体前面側にある4個のツメに合わせてドライブキャリアの四角い穴を差し込みます。
- ② ドライブキャリアを固定するロックレバーを押し込みます。
(①でドライブキャリアが4個のツメにきちんと差し込まれていないとロックレバーを押し込むことができません。)
- ③ コンピュータ本体とドライブキャリアをネジ(1本)で固定します。

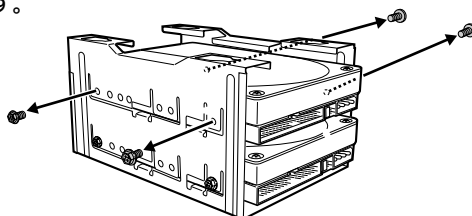


- 1 2 フロントパネルを取り付けます。
 p.72「フロントパネルの取り外し・取り付け」
- 1 3 手順5で取り外した拡張ボードをもとどおりに装着します。
 p.81「拡張ボードの装着」
- 1 4 本体カバーを取り付けます。
 p.70「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 1 5 コンピュータを使用できるように、本体背面のケーブル類をもとどおりに接続します。

取り外し

ドライブキャリアの取り外し方・取り付け方については、前項「HDDベイへの装着」の手順を参照してください。

ドライブキャリアからHDDを取り外します。
 ドライブキャリアとHDDを固定しているネジ(4本)を外し、ドライブキャリアからHDDを外します。



ドライブ装置の装着

ドライブ装置の種類

コンピュータ内部に取り付けるドライブ装置には、IDE仕様のドライブ装置(以降、IDE装置)とSCSI仕様のドライブ装置(以降、SCSI装置)があります。IDE装置は、本機のメインボード上にあるIDEコネクタにIDEケーブルを介して接続します。SCSI装置を接続する場合は、SCSIボードが必要です。SCSI装置は、拡張スロットに取り付けたSCSIボードにSCSIケーブルを介して接続します。

IDE装置の設定

本機には、HDDやCD-ROMドライブなどのIDE装置を合計4基接続できます。4基の装置には優先順位を設定する必要があります。順位の設定を誤ると、装置がコンピュータに認識されない場合があります。

優先順位は、装置を接続するメインボード側のIDEコネクタ(プライマリ、セカンダリ)と装置側のジャンパ設定(マスタ、スレーブ、ケーブルセレクト)で決定します。

4基の装置の関係は、次のとおりです。

メインボード側	装 置	順位	購入時の装置*	増 設 例
プライマリコネクタ	マスタ	1	HDD	
	スレーブ	2		HDD(2台目)
セカンダリコネクタ	マスタ	3	CD-ROMドライブ	
	スレーブ	4		MOドライブなど

* 購入時のシステム構成により異なります。



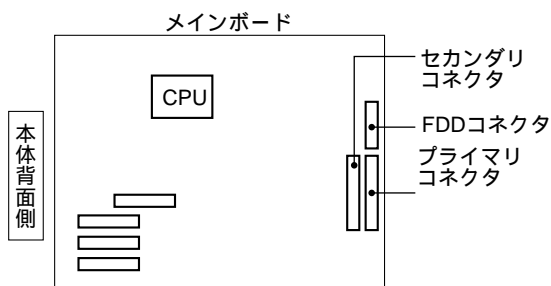
Windowsは、プライマリコネクタにマスタ設定で接続されたHDDにインストールしてください。

HDDは、CD-ROMドライブ(CD-R/RWドライブ、コンボドライブなど)よりも優先順位の高い設定にしてください。HDDが認識されない可能性があります。

プライマリコネクタとメインボード上には、IDE装置を接続するIDEコネクタが2つあります。2つのIDEセカンダリコネクタ コネクタは、プライマリコネクタとセカンダリコネクタに分けられます。

IDEコネクタの優先順位は、次のとおりです。

- 優先順位: 1. プライマリコネクタ
2. セカンダリコネクタ



マスタ・スレイブ・ケーブルセレクト IDEコネクタに接続するIDEケーブルには、2基の装置を接続することができます。2基の装置には、優先順位を設定します。優先順位の設定は、装置側のジャンパスイッチで行います。

優先順位： 1. マスタ
2. スレイブ

優先順位を設定するには、次の2とおりの方法があります。

装置側のジャンパスイッチで、「マスタ」「スレイブ」を設定します。

装置側のジャンパスイッチで、「ケーブルセレクト」を設定します。この場合、接続するIDEケーブルのコネクタの色によって「マスタ」「スレイブ」が設定されます。

「ケーブルセレクト」設定した装置は、次のとおり設定されます。

黒色のコネクタに接続：マスタとして設定

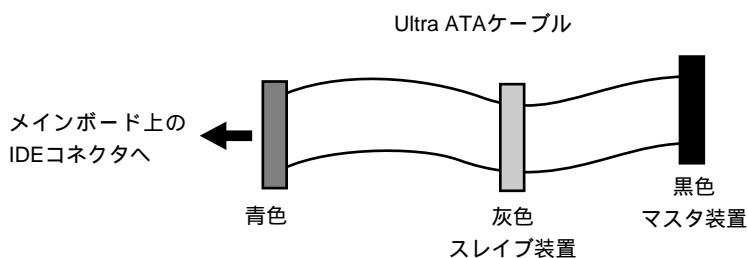
灰色のコネクタに接続：スレイブとして設定

ジャンパスイッチの位置や設定方法は、IDE装置に添付のマニュアルを参照してください。

IDE ケーブル

本機で使用している2本のIDEケーブルは、「Ultra ATAケーブル」です。

「Ultra ATAケーブル」は、次のように接続します。



SCSI装置の設定

SCSI装置には、コンピュータ内部に取り付けるHDDやCD-ROMドライブのほか、に外部コネクタに接続するスキャナなどの装置もあります。

SCSI装置の接続を行う前に、次の点を確認してください。

1枚のSCSIボードには、最大で7台(Narrow)または15台(Wide)のSCSI装置を接続することができます。

※ SCSIボードには、WideSCSI(68ピン)とNarrowSCSI(50ピン)の2種類があります。

SCSI装置は、SCSI IDにより識別されます。

SCSIケーブルの両端のSCSI装置には、SCSIターミネータと呼ばれる終端抵抗を付ける必要があります。

※ SCSI装置によっては、あらかじめSCSIターミネータが内蔵されている装置もあります。この場合、SCSIターミネータを装着する必要はありません。

SCSI ID

SCSI装置を識別するためにSCSI装置ごとに異なるSCSI IDを設定します。SCSI IDは、SCSI装置上のジャンプスイッチやディップスイッチなどで設定します。

SCSIターミネータ

SCSIターミネータは、正常にデータの入出力を行うためにSCSIケーブル両端のSCSI装置に設定する終端抵抗です。

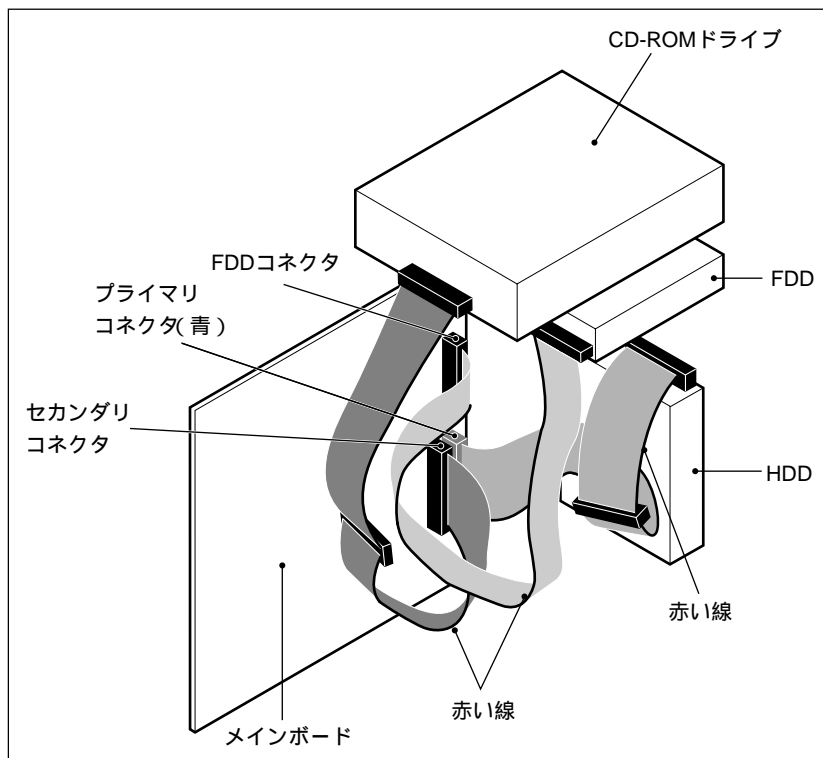
SCSI装置が内蔵されている製品では、コンピュータ内部のSCSIケーブルの両端に接続しているドライブ装置とSCSIボードのターミネータ設定を有効にしています。SCSIボードは、通常自動的にターミネータを有効にしたり無効にする機能を持っています。このためSCSIボードの外部コネクタにSCSI装置を接続すると、自動的にターミネータが無効になります。

SCSI装置の接続、SCSI ID、SCSIターミネータなどの詳細については、SCSI装置やSCSIボードに添付のマニュアルをご覧ください。

ドライブ装置(IDE装置)の接続例

メインボード との接続

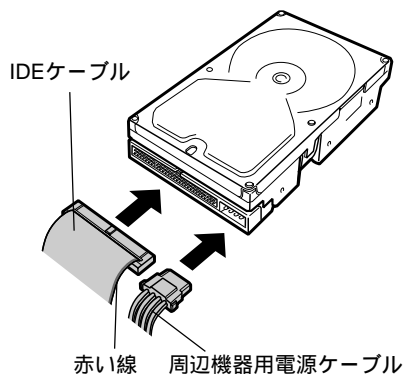
ドライブ装置の一般的なケーブル接続の方法は、次のとおりです。
ドライブ装置を増設または交換する際には、ドライブ装置に添付のマニュアル
もあわせてご覧ください。



HDDの接続例

HDDの場合、次のように接続します。

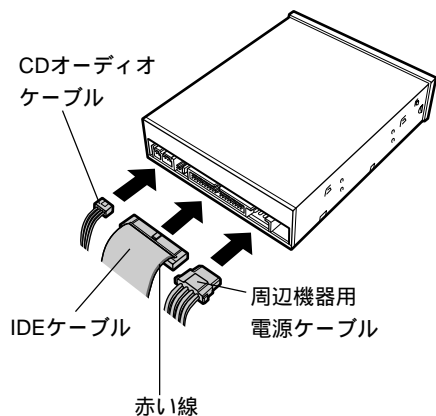
- 1 IDEケーブルを接続します。
IDEケーブル(プライマリコネクタ側)をHDDのインタフェースコネクタに接続します。
- 2 周辺機器用電源ケーブルを、電源コネクタに接続します。



CD-ROM ドライブの接続例

CD-ROM、CD-R/RW、コンボドライブなどの場合、次のように接続します。

- 1 IDEケーブルを接続します。
IDEケーブル(セカンダリコネクタ側)を、ドライブ装置のインタフェースコネクタに接続します。
- 2 CDオーディオケーブルを接続します。
CDオーディオケーブルは、メインボード上のCD-1コネクタに接続します。(サウンドボードが装着されている場合は、サウンドボードのコネクタに接続します。)
- 3 周辺機器用電源ケーブルを、電源コネクタに接続します。

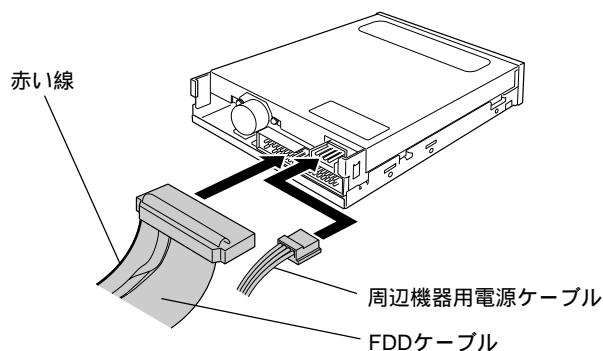


p.163「コンピュータ内部のケーブル接続」

3.5型FDD の接続

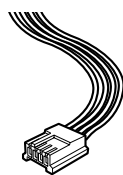
3.5型FDDは、次のように接続します。

- 1 FDDケーブルをFDDのインタフェースコネクタに接続します。
- 2 周辺機器用電源ケーブルを電源コネクタに接続します。
電源コネクタの位置は、機種によって異なります。

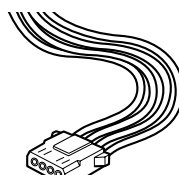


周辺機器用 電源ケーブル

電源ユニットからは、ドライブ装置に電源を供給するための周辺機器用電源ケーブルが出ています。周辺機器用電源ケーブルには、大小2種類の電源コネクタがあります。一般的に大きいコネクタは、HDDやCD-ROMドライブなどに、小さいコネクタは3.5型FDDに使用します。



3.5型FDD



HDDやCD-ROMドライブ

BIOSの設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

BIOSの設定を始める前に

BIOSは、コンピュータの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、メインボード上にROMとして搭載されています。

BIOSの設定は、「BIOS Setupユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。

BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

本書やお使いの装置のマニュアルで指示があった場合

パスワードを設定する場合


BIOSの設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。BIOS Setupユーティリティで変更した内容はCMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。このメモリはリチウム電池によってバックアップされているため、コンピュータの電源を切ったり、リセットしても消去されることはありません。



参考

リチウム電池の寿命

BIOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。本機のリチウム電池の寿命は数年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうなどの現象が頻発するような場合にはリチウム電池の寿命が考えられます。リチウム電池を交換してください。

 p.158「リチウム電池の交換」




制限

BIOS Setupユーティリティで、設定を変更する場合には、必ず購入時の設定値（初期値）と、変更後の設定値を記録しておいてください。万一、システムが動作しなくなった場合や、リチウム電池の寿命などでCMOS RAMのデータが失われた場合でも、もとに戻すことができます。

 p.112「BIOSの設定値」

BIOS Setupユーティリティには、ハードウェアに依存した詳細な項目も含まれています。このような項目を誤って変更すると、システムが起動しなくなったり、動作が不安定になります。万一、システムが起動しなくなったり、動作が不安定になった場合には「Load Setup Defaults」（初期値に戻す）を実行してください。

 p.104「設定値をもとに戻すには」

BIOS Setupユーティリティの操作

BIOS Setupユーティリティの起動

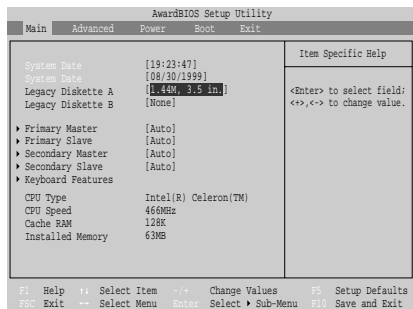
1 コンピュータの電源を入れます。すでに電源が入っている場合はリセットします。

2 黒い画面の下の方に次のメッセージが表示されている間にキーボードの **Delete** を押します。

Press to enter SETUP
このメッセージが表示されている間に **Delete** を押さないとWindowsが起動します。



3 「BIOS Setupユーティリティ」が起動してMainメニュー画面が表示されます。




BIOS Setupユーティリティ画面(イメージ)

仕様が前回と異なるとき

コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合は、コンピュータの電源を入れると、次のメッセージが表示されることがあります。

「Press F1 to continue, DEL to enter SETUP」

このメッセージが表示されたら **Delete** を押して「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。通常は、そのまま「Exit Saving Changes」を実行して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

 p.105「BIOS Setupユーティリティの終了」

F1 を押すとシステムが起動しますが、動作中に問題が発生する可能性があります。

BIOS Setupユーティリティの操作

「BIOS Setupユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。

操作は、次の順番で行います。

- ① 「処理メニュー」を選択
- ② 「設定項目」を選択
- ③ 「設定値」を選択

詳しい操作方法は、次のとおりです。各設定項目の説明は、p.106をご覧ください。

<メニュー画面>

① 処理メニューを選択
→ ← で変更します。
起動直後は、「Mainメニュー画面」が表示されています。

② 設定項目を選択
↑ ↓ で変更します。

③ 設定値を選択
黒字表示されていると、設定変更可能です。
+ / - を押すと値が変わります。
← を押すと「選択ウィンドウ」が表示されます。

<選択ウィンドウ>
選択ウィンドウ内の設定値を
↑ ↓ で変更し、← で設定します。

▶ マークの付いている設定項目を選択して ← を押すと、「サブメニュー画面」が表示されます。

<サブメニュー画面>

「サブメニュー画面」での設定方法は、「メニュー画面」での設定方法と同様です。
Esc を押すと<メニュー画面>に戻ります。

キー操作

キー	操作できる内容
F1 , Alt + H	ヘルプを表示します。
Esc	<ul style="list-style-type: none"> ・「EXIT」画面を表示します。 ・「サブメニュー画面」から「メニュー画面」に戻ります。
↑ , ↓	設定を変更する項目を選択します。
← , →	処理メニューを選択します。
- , +	項目の値を変更します。
↵	<ul style="list-style-type: none"> ・メニュー画面中の▶マークの付いている項目で押すとサブメニュー画面を表示します。 ・選択項目の選択ウィンドウを表示します。 ・設定値を選択します。
F5	全設定項目の値を、初期値に変更します。
F10	変更した設定値を保存して終了します。
Page Up , Home	画面の中の最初の項目に移動します。
Page Down , End	画面の中の最後の項目に移動します。

設定値をもとに戻すには

BIOS Setupユーティリティの設定を間違えてしまい、万一コンピュータの動作が不安定になってしまった場合などには、BIOS Setupユーティリティの設定を初期値や前回保存した値に戻すことができます。

Load Setup Defaults (初期値に戻す)

BIOS Setupユーティリティの設定を、BIOSの初期値に変更します。

- 1 **F5** を押す、または「Exitメニュー画面」-「Load Setup Defaults」を選択すると次のメッセージが表示されます。

Setup Confirmation	
Load default configuration now ?	
[Yes]	[No]

- 2 BIOSの設定を初期値に戻す場合は、[Yes]を選択して **↵** を押します。

サウンドボードを使用している場合

Load Setup Defaults(初期値に戻す)を実行したあとに、次の項目を必ず「Disabled」に設定し直してください。

- 「Advanced」メニュー画面 - 「I/O Device Configuration」
 - ・ Onboard AC97 Audio Controller

Discard Changes (前回保存した設定値に戻す)

変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。

- 1 「Exit」メニュー画面 - 「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Setup Confirmation	
Load previous configuration now ?	
[Yes]	[No]

- 2 BIOSの設定を前回保存した値に戻す場合は、[Yes]を選択して **↵** を押します。

BIOS Setupユーティリティの終了

BIOS Setupユーティリティを終了するには、次の2通りの方法があります。

Exit Saving
Changes
(変更した内容を
保存し、終了する。)

1

F10 を押す、または「Exitメニュー画面」-「Exit Saving Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Setup confirmation	
Save configuration changes and exit now ?	
[Yes]	[No]

2

変更した設定値を保存して終了する場合は **[Yes]** を選択し、**[←]** を押します。

Exit Discarding
Changes
(変更した内容を
破棄し、終了する。)

1

「Exit」メニュー画面 - 「Exit Discarding Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Setup confirmation	
Discard configuration changes and exit now?	
[Yes]	[No]

2

変更した設定値を保存せずに終了する場合は **[Yes]** を選択し、**[←]** を押します。

BIOS Setupユーティリティの設定項目

本章では、BIOS Setupユーティリティで設定できる項目と、設定方法などについて説明します。BIOS Setupユーティリティのメニュー画面には、次の5つのメニューがあります。

- Main メニュー画面 : 日付、時間、FDD、HDDやパスワードなどの設定を行います。
- Advancedメニュー画面 : CPUに関する設定、I/O関係の動作設定やPCIバス関係の設定などを行います。
- Powerメニュー画面 : 省電力機能に関する設定を行います。
- Bootメニュー画面 : システムを起動するドライブの順番の設定やコンピュータの動作状態の設定などを行います。
- Exitメニュー画面 : BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻します。

Mainメニュー画面

は初期値

*印は項目表示のみ

System Time(hh:mm:ss)		時刻を設定します。
System Date(mm:dd:yy)		日付を設定します。
Legacy Diskette A		接続しているFDDのタイプを選択します。 None : FDD未接続 1.44M,3.5in. : 3.5型1.44MB対応FDD
Primary Master Primary Slave Secondary Master Secondary Slave (IDE装置の設定) 表示される詳細 項目は、選択する ドライブにより 異なります。	Type	IDE装置の設定をします。 None : IDE装置を接続しない場合に選択します。 Auto : BIOSが自動的にIDE装置の仕様を設定します。
	*Cylinders	HDDのシリンダ数を表示します。
	*Head	HDDのヘッド数を表示します。
	*Sector	HDDのセクタ数(1シリンダ当たり)を表示します。
	*CHS Capacity	HDDの最大容量(CHS)を表示します。
	*Maximum LBA Capacity	HDDの最大容量(LBA)を表示します。
	*PIO Mode	IDE装置の転送モード(PIO)を表示または設定します。
	*ULTRA DMA Mode	Ultra DMA対応装置の転送モードを表示または設定します。

Keyboard Features	Boot Up NumLock Status	起動時のNumLockの状態を設定します。 Off : NumLock が押されていない状態にします。 On : NumLock が押された状態にします。
Supervisor Password User Password		コンピュータを使用するユーザーを限定するための機能です。初期値は「Disabled」です。🔑 下記「Passwordの設定」
*Installed Memory		メモリ容量を自動的に表示します。

Passwordの設定

Supervisor /User Password

この機能は、コンピュータを使用するユーザーを限定するための機能です。システム起動時などにパスワードの入力が要求され、正しいパスワードを入力しないとコンピュータを使用することができません。

パスワードには「Supervisor Password(管理者パスワード)」と「User Password(ユーザーパスワード)」の2種類があり、「Main」メニュー画面の「Supervisor Password」および「User Password」項目で設定します。それぞれの「Password」の詳細は以下のとおりです。

	パスワード項目	設定値	BIOS Setup ユーティリティ 起動時	起動時 Windows
1	Supervisor Password	Enabled	○ (全項目*1変更可能)	○
	User Password	Enabled	○ (一部項目*2のみ変更可能)	○
2	Supervisor Password	Enabled	○ (全項目*1変更可能)	×
	User Password	Disabled	×	×
3	Supervisor Password	Disabled	×	×
	User Password	Enabled	○ (全項目*1変更可能)	○

○: パスワード要求あり ×: パスワード要求なし

*1: BIOS Setup ユーティリティの変更可能な全項目を指します。


*2: 次の項目を指します。



「Main」メニュー画面 - 「System Time」, 「System Date」, 「User Password」

「Exit」メニュー画面 - 「Exit Saving Changes」, 「Exit Discarding Changes」

パスワードの 設定・変更

パスワードの設定・変更方法は次のとおりです。

- 1 「Supervisor Password」または「User Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:
- 2 任意のパスワードを入力し、 を押します。
「*」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。アルファベットの
大文字と小文字は区別されません。パスワードは8文字まで入力可能です。
- 3 続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入
力し、 を押します。
同じパスワードを入力しないと、手順1のメッセージに戻ります。


Confirm Password:
- 4 パスワードの設定が完了すると、設定したパスワード項目の値が「Enabled」に変
わります。




登録したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは、書き移して保管して
おくことをおすすめします。

万一、パスワードを忘れた場合は、p.161「CMOS RAMの初期化」を実行します。ただ
し、CMOS RAMを初期化すると、現在のBIOSの設定情報がすべてクリアされます。

パスワード の削除

- 1 「Supervisor Password」または「User Password」を選択して  を
押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:
- 2 何も入力せずに  を押すと、選択したパスワード項目の値が「Disabled」に
変わります。これでパスワードが削除されます。

Advancedメニュー画面

*CPU Speed		コンピュータに搭載されているCPUの周波数を自動的に表示します。
*CPU Frequency Multiple		CPUベースクロックの倍率を表示します。
*CPU External Frequency		CPUベースクロックを表示します。
*CPU/Memory Frequency		CPUとメモリの周波数の比率を表示します。
Chip Configuration	SDRAM Configuration	初期値 [By SPD] のまま使用します。
	SDRAM CAS Latency	初期値 [2.5T] のまま使用します。
	SDRAM RAS to CAS Delay	初期値 [3T] のまま使用します。
	SDRAM Precharge Delay	初期値 [3T] のまま使用します。
	SDRAM Active Precharge Delay	初期値 [6T] のまま使用します。
	Video Memory Cache Mode	初期値 [UC] のまま使用します。
I/O Device Configuration	Floppy Disk Access Control	FDのアクセス方法を設定します。この設定はBIOSを使用しないIFormatコマンドなどでは機能しません。 R/W : 読み込み/書き込み可能 Read Only : 読み込みのみ可能
	Onboard Serial Port 1	シリアルポートのアドレスと IRQ 信号を設定します。 3F8H/IRQ4, 2F8H/IRQ3, 3E8H/IRQ4, 2E8H/IRQ10 Disabled : シリアルポートを使用しません。
	Onboard Parallel Port	パラレルポートが使用するアドレスを設定します。 Disabled : パラレルポートを使用しません。 378H/IRQ7, 278H/IRQ5
	Parallel Port Mode	パラレルポートの動作モードを設定します。接続する周辺装置で指示がある場合のみ変更します。 Normal : 標準の設定です。 EPP : EPP モードに設定します。 ECP : ECP モードに設定します ECP+EPP : EPP+ECP モードに設定します。
	ECP DMA Select	パラレルポートの DMA チャンネルを設定します。動作モードに Normal、EPP を選択した場合は、表示されません。 1 : DMA チャンネル 1 を使用します。 3 : DMA チャンネル 3 を使用します。
	Onboard AC97 Audio Controller	メインボード上のオーディオ機能を使用するかどうかを設定します。サウンドボード使用時は、[Disabled] に設定します。 Disabled : 使用しません。 Auto : 使用します。
	Onboard LAN Controller	ネットワーク機能の有効/無効を設定します。 Disabled : ネットワーク機能を無効にします。 Enabled : ネットワーク機能を有効にします。
PCI Configuration	Onboard LAN Boot ROM	リモートブートの有効/無効を設定します。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。

Powerメニュー画面

ACPI Suspend to RAM		<p>スタンバイモードをSuspend to RAMで行うかを設定します。</p> <p>Disabled : Suspend to RAMで行いません。</p> <p>Enabled : Suspend to RAMで行います。</p>
Power Up Control	Power Up on PCI Card	<p>電源切断時、ネットワークからの信号により、起動するかどうかを設定します。この機能は、Windowsを正常に終了した状態でのみ使用可能です。ただし、分電盤やOAタップなどにより、本機の電源供給をいったん切断して再度供給した場合は、無効となります。</p> <p>Enabled : 設定します。</p> <p>Disabled : 設定しません。</p> <p>設定した日付と時間に応じて、自動的に起動します。</p>
	Automatic Power Up	<p>Disabled : 設定しません。</p> <p>Everyday : 設定した時間に、毎日起動します。</p> <p>By Date : 設定した日付と時間に、起動します。</p>

Bootメニュー画面

「Boot」メニュー画面では、コンピュータ起動時の動作設定や起動するドライブの順番を設定することができます。

「Boot Sequence」では起動するドライブの順番を設定します。初期設定は、
[1.Removable Device][2. IDE Hard Drive][3.ATAPI CD-ROM][4.Other Boot Device]です。

ドライブを選択して **+** を押すと、そのドライブの順番が1つ上がります。

ドライブを選択して **-** を押すと、そのドライブの順番が1つ下がります。

Boot Sequence	1. Removable Device	この項目で設定したドライブから起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したいときは、順番を上げます。 Disabled, Legacy Floppy
	2. IDE Hard Drive	IDE HDDから起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したいときは、順番を上げます。 Disabled, 接続しているHDDの型番
	3. ATAPI CD-ROM	ATAPI CD-ROM から起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したいときは、順番を上げます。 Disabled, 接続しているCD-ROMドライブの型番
	4. Other Boot Device	SCSI装置やネットワーク機能から起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したいときは、順番を上げます。 Disabled, SCSI Boot Device, INT18 Device(Network)
Interrupt Mode		初期値 [ACPI] のまま使用します。

Exitメニュー画面

「Exit」メニュー画面は、BIOS Setupユーティリティの終了方法などを設定する場合に使用します。設定項目と詳細は、次のとおりです。

Exit Saving Changes	変更した内容(設定値)を保存してから、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Exit Discarding Changes	変更した内容(設定値)を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Load Setup Defaults	BIOS Setupユーティリティの設定値を、BIOSの初期値に戻します。
Discard Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Save Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を保存します。

BIOSの設定値

BIOS Setup ユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくと便利です。購入時の設定は必ず記録してください。

Main メニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
Legacy Diskette A		None	1.44M, 3.5 in	None	1.44M, 3.5 in
Keyboard Features	Boot Up NumLock Status	Off	On	Off	On

Advanced メニュー画面

I/O Device Configuration

項目		購入時の設定				変更内容			
I/O Device Configuration	Floppy Disk Access	R/W		Read Only		R/W		Read Only	
	Onboard Serial Port 1	3F8H/IRQ4	2F8H/IRQ3	3E8H/IRQ4		3F8H/IRQ4	2F8H/IRQ3	3E8H/IRQ4	
		2E8H/IRQ10	Disabled			2E8H/IRQ10	Disabled		
	Onboard Parallel Port	Disabled	378H/IRQ7	278H/IRQ5		Disabled	378H/IRQ7	278H/IRQ5	
	Parallel Port Mode	Normal	EPP	ECP	ECP+EPP	Normal	EPP	ECP	ECP+EPP
	ECP DMA Select	1		3		1		3	
PCI Configuration	Onboard AC97 Audio Controller	Disabled		Auto		Disabled		Auto	
	Onboard LAN Controller	Disabled		Enabled		Disabled		Enabled	
	Onboard LAN Boot ROM	Disabled		Enabled		Disabled		Enabled	

Power メニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
ACPI Suspend to RAM		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Power Up Control	Power Upon PCI Card	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Automatic Power Up	Disabled	Everyday By Date	Disabled	Everyday By Date

Boot メニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
Boot Sequence	() Removable Device	Disabled	LegacyFloppy	Disabled	LegacyFloppy
	() IDE Hard Drive	Disabled	()	Disabled	()
	() ATAPI CD-ROM	Disabled	()	Disabled	()
	() Other Boot Device	Disabled	SCSI Boot Device INT18 Device(Network)	Disabled	SCSI Boot Device INT18 Device(Network)



ソフトウェアの 再インストール

ソフトウェアを再インストールする
手順について説明します。

再インストールする前に必ずお読みください

ソフトウェアの再インストールを行う前に知っておいていただきたい情報について記載しています。

再インストールとは

HDDをフォーマットして、Windowsやデバイスドライバなどのソフトウェアを新しくインストールしなおす作業のことを、本書では「再インストール」と記載します。

再インストールが必要な場合

再インストールは次のような場合に行います。通常は必要ありません。

なんらかの原因でWindowsが起動しなくなった場合


HDD領域の構成を変更したい場合

重要事項


再インストールする前に、次の重要事項を必ずお読みください。

弊社製以外のBIOSに、絶対にアップデートしないでください。弊社製以外のBIOSにアップデートすると、再インストールができなくなります。

Norton AntiVirus2002で、90日経過後に更新権を購入してウィルス定義ファイルの購読サービスを継続している場合、再インストールを行うと更新権が無効になります。この場合、再度更新権を購入(有償)していただく必要があります。あらかじめご了承ください。

 『Norton AntiVirus2002をご使用の前に』

バックアップディスクを作成していない場合は、必ず作成しておいてください。再インストールすると、バックアップディスクを作成することができなくなります。

 p.24「バックアップディスクの作成」

HDD上の重要なデータは、FDなどの別のメディアに、必ずバックアップしておいてください。再インストールするときは、HDDをフォーマットするため、Cドライブのデータはすべて消去されます。

ソフトウェアの再インストールを行う

本章では、再インストールの方法について記載しています。

必要なメディア

再インストールするには、次のメディアが必要です。

リカバリCD

Windowsが登録されているCD-ROMです。

Windows XPは、Disc1とDisc2の2枚組になっています。

ドライバCD


各種デバイスドライバ、Adobe Acrobat Reader、Norton AntiVirus2002が登録されているCD-ROMです。

マウスドライバCD

マウスドライバが登録されているCD-ROMです。

バックアップFD作成ユーティリティで作成したFD

Windowsのセットアップ終了後に作成したFDです。作成していない場合は、必ず作成してください。

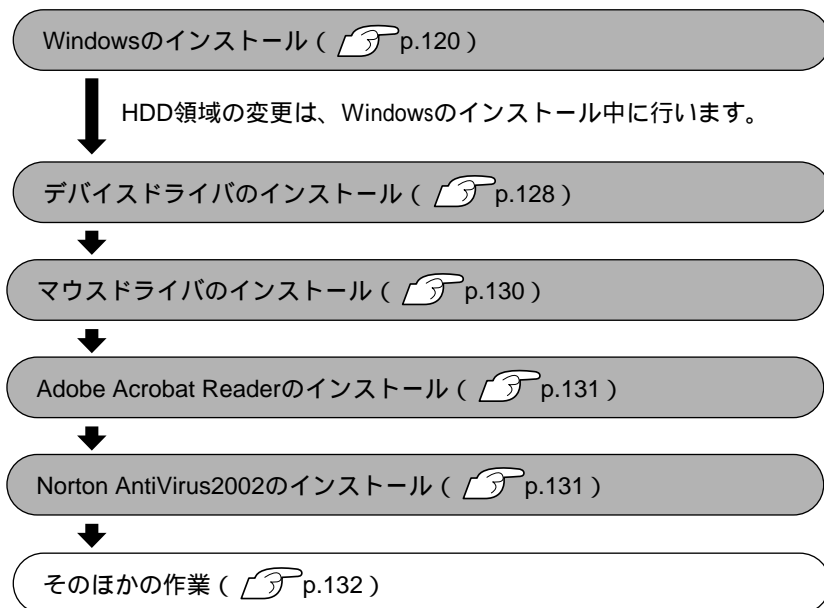
 p.24「バックアップディスクの作成」

そのほか必要なメディア

ビデオボードやサウンドボードを使用している場合など、システム構成によって必要なメディアは異なります。

インストールの順番

再インストールは、次の順番で行います。



インストール作業における確認事項

再インストールを始める前に、下記の点をご確認ください。

システム構成

本章のインストール手順は、購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOSの設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。

HDDのファイルシステム

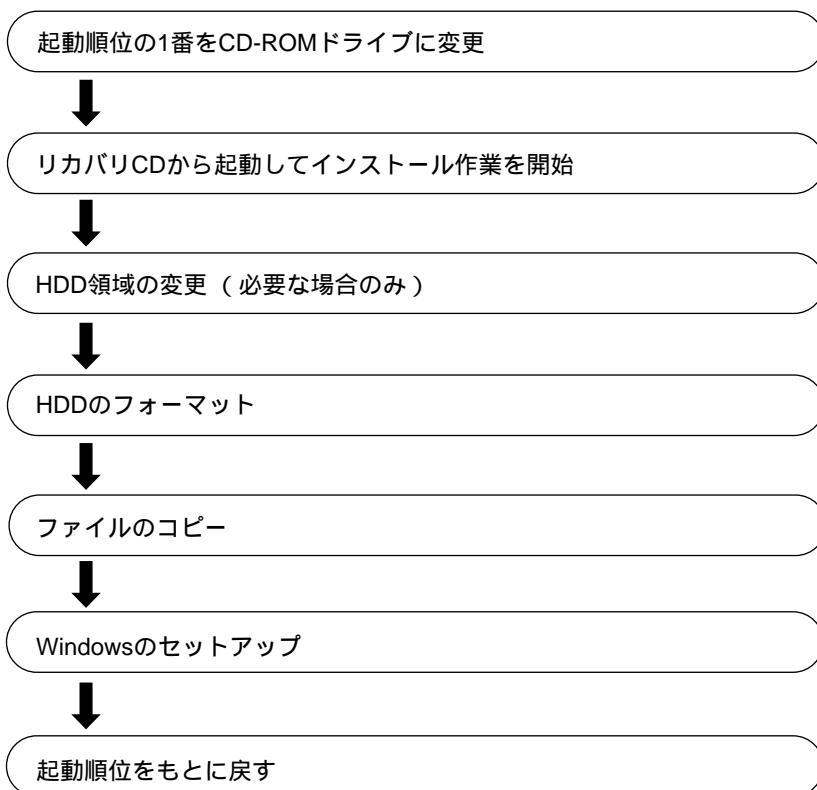
購入時のHDDは、NTFSを使用して領域を作成し、Windowsをインストールしています。Windowsのインストールは、必ずNTFSを使用してください。

ドライブ名	<p>本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。</p> <p>CD-ROMドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。</p> <p>Aドライブ:FDD</p> <p>Cドライブ:HDD</p> <p>Dドライブ:CD-ROMドライブ</p>
CD-ROMドライブ 2台装着時	<p>本機に、IDE仕様のCD-ROMドライブなどを2台装着している場合、Windowsのインストールは、必ずマスタ設定されたドライブから行ってください。スレイベ設定されたドライブからは、インストールすることができません。</p>
入力文字	<p>インストール手順中の入力文字の表記は、すべて大文字で記載していますが、入力する際は、大文字・小文字のどちらで入力してもかまいません。</p>
管理者権限で ログイン	<p>デバイスドライバのインストール作業はコンピュータの管理者 (Administrator) ログインして行ってください。</p>
Windows CD-ROMを 要求されたら	<p>デバイスドライバ類のインストール時に「WindowsCD-ROM」を要求されることがあります。本書でなにも記載がない場合は、「リカバリCD (Windows XPではリカバリCD Disc1)」をセットしてください。</p>
メーカー情報	<p>Windowsのインストールを行うと、次の場所に表示されているメーカーロゴとサポート情報は消去されますので、あらかじめご了承ください。</p> <p>Windows 2000 : [スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」 - 「システムのプロパティ」</p> <p>Windows XP : [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「パフォーマンスとメンテナンス」 - 「システムのプロパティ」</p>
各種設定の確認	<p>ネットワークやモデム、インターネットなどを使用している場合は、Windowsをインストールすると、再設定が必要になります。設定を書き移しておいてください。</p>

Windowsのインストール


インストールの流れ

Windowsのインストールの主な流れは次のとおりです。
インストール作業は次ページからの手順に従ってください。



HDD領域の変更

HDDを分割して使用したい場合は、「Windowsのインストール」作業中にHDD領域の変更を行います。Windowsをインストールする領域は、作業中にフォーマット、インストールを行いますが、残りの領域 (未設定領域) はインストール終了後にWindowsの「ディスクの管理」で設定します。

 p.132「領域の作成」

Windows 2000 Windows 2000のインストールは、次の手順で行います。

インストール
モデルの場合

1

BIOS Setup ユーティリティを起動して、CD-ROM の起動順位を1番に変更します。

- ① コンピュータの電源を入れて、**[Delete]** を押し、「BIOS Setup ユーティリティ」を起動します。

 p.101「BIOS Setup ユーティリティの起動」

- ② メニュー画面が表示されたら、**[→]** を数回押して、「Boot」メニュー画面を表示します。
- ③ 「ATAPI CD-ROM」を選択して、**[+]** を数回押して「ATAPI CD-ROM」を一番上に移動します。

2

「リカバリCD」をCD-ROMドライブにセットします。













3

BIOS Setupユーティリティを終了します。

- ① **[→]** を押して、「Exit」メニュー画面に移動し、「Exit & Save Changes」が選択されている状態で **[←]** を押します。
- ② 「Setup Confirmation」画面が表示されたら、「Yes」が選択されている状態で **[←]** を押します。

4


起動時に「Press any key to boot from CD.」と表示されたら、どれかキーを押します。手順5の画面が表示されるまで少し時間がかかります。一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindowsが起動してしまいます。

- 5 「次の一覧にはこのコンピュータ上の既存のパーティションと未使用の領域が表示されています。…」と表示されます。
通常は「C:」を選択して、を押します。
HDD領域を変更する場合はを押して、下記の手順①～⑥を行います。
- < HDD領域を変更する場合 >
- ① 「削除しようとしたパーティションは…」と表示されたら、を押します。
 - ② 「MB ディスク × × から次のパーティションを削除します。…」と表示されたらを押します。
 - ③ 「次の一覧には、このコンピュータ上の…」と表示されたら、 (パーティションの作成)を押します。
 - ④ 「MB ディスク × × に新しいパーティションを作成します。」と表示されたら、「作成するパーティションのサイズ」に任意の数値を入力して、を押します。
 - ⑤ 「次の一覧にはこのコンピュータ上の…」と表示されたら、「C: 新規(未フォーマット)」を選択してを押します。
「未設定領域」はインストール終了後「管理ツール」で領域作成を行ってください。
-  p.132「領域の作成」
- ⑥ 「選択されたパーティションはフォーマットされていません。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択してを押します。
手順10に移ります。
- 6 「別のオペレーティングシステムがあるパーティションに…」と表示された場合は、を押します。
- 7 「…にWindows 2000をインストールします。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択し、を押します。
「現在のファイルシステムをそのまま使用(変更なし)」を選択すると、上書きインストールになります。
- 8 「警告:このドライブをフォーマットすると…」と表示されたら、を押します。


- 9 フォーマットと、ファイルのコピーが行われます。終了すると自動的にWindowsが再起動します。
- 10 「ライセンス契約」と表示されたら、契約内容に同意するかしないかを設定します。
「同意しません」を選択するとWindows 2000のインストールが中止されます。
- 11 「Windows 2000 Professionalセットアップ」画面が表示されます。画面の指示に従ってセットアップを行います。
ソフトウェアの個人用設定
ここでは「名前」を必ず入力してください。
コンピュータ名とAdministratorのパスワード
コンピュータ名とAdministratorのパスワードを入力します。
日付と時刻の設定
コンピュータ設置場所の日付と時刻の設定を行います。
- 12 「Windowsへログオン」画面が表示されます。設定したAdministratorのパスワードを入力します。
手順11でパスワードを設定しなかった場合は、そのまま[OK]をクリックします。
- 13 Windows 2000のデスクトップが表示されたら、CD-ROMを取り出して、コンピュータを再起動します。
- 14 コンピュータの再起動時に **Delete** を押して「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。
- 15 「Boot」メニュー画面を表示して、手順1で変更した「ATAPI CD-ROM」の起動順位をもとに戻します。
- 16 「Exit」メニュー画面 - 「Exit & Save Changes」で「Yes」を選択し、「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。
コンピュータが再起動したら、Windows 2000のインストールは終了です。





Windows XP
インストール
モデルの場合


Windows XPのインストールは、次の手順で行います。

- 1 BIOS Setup ユーティリティを起動して、CD-ROM の起動順位を1番に変更します。
 - ① コンピュータの電源を入れて、**[Delete]** を押し、「BIOS Setup ユーティリティ」を起動します。
 p.101「BIOS Setup ユーティリティの起動」
 - ② メニュー画面が表示されたら、**[→]** を数回押して、「Boot」メニュー画面を表示します。
 - ③ 「ATAPI CD-ROM」を選択して、**[+]** を数回押して「ATAPI CD-ROM」を一番上に移動します。
- 2 「リカバリCD Disc1」をCD-ROMドライブにセットします。
- 3 BIOS Setupユーティリティを終了します。
 - ① **[→]** を押して、「Exit」メニュー画面に移動し、「Exit Saving Changes」が選択されている状態で **[↓]** を押します。
 - ② 「Setup Confirmation」画面が表示されたら、「Yes」が選択されている状態で **[↓]** を押します。
- 4 起動時に「Press any key to boot from CD.」と表示されたら、どれかキーを押します。手順5の画面が表示されるまで少し時間がかかります。一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindowsが起動してしまいます。
- 5 「次の一覧にはこのコンピュータ上の既存のパーティションと未使用の領域が表示されています。…」と表示されます。
通常は「C:」を選択して、**[↓]** を押します。
HDD領域を変更する場合は **[D]** を押して、下記の手順①～⑥を行います。

< HDD領域を変更する場合 >
 - ① 「削除しようとしたパーティションは…」と表示されたら、**[↓]** を押します。
 - ② 「MB ディスク××から次のパーティションを削除します。…」と表示されたら **[L]** を押します。

- ③ 「次の一覧にはこのコンピュータ上の…」と表示されたら、
(パーティションの作成)を押します。
 - ④ 「MBディスク××に新しいパーティションを作成します。」と
表示されたら、「作成するパーティションのサイズ」に任意の数値
を入力して、を押します。
 - ⑤ 「次の一覧にはコンピュータ上の…」と表示されたら、「C: パーティ
ション1(未フォーマット)」を選択して を押します。
「未設定領域」はインストール終了後「管理ツール」で領域の作成を
行ってください。
 p.132「領域の作成」
 - ⑥ 「選択されたパーティションはフォーマットされていません。」と表
示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションを
フォーマット」を選択して を押します。
手順9に移ります。
- 6 「別のオペレーティングシステムのあるパーティションに…」と表示され
た場合は、を押します。
 - 7 「...にWindows XPをインストールします。」と表示されたら、「NTFSフ
ァイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択して
を押します。
「現在のファイルシステムをそのまま使用(変更なし)」を選択すると、上
書きインストールになります。
 - 8 「警告:このドライブをフォーマットすると…」と表示されたら、
を押します。
 - 9 フォーマットと、ファイルのコピーが行われます。終了すると、自動的に
Windows が再起動します。
 - 10 「Windows XP ライセンス契約」が表示されたら、契約内容に同意するか、
しないかを設定します。
「同意しない」を選択するとWindows XPのインストールが中止されます。

- 1 1 「Windows XP セットアップ」画面が表示されます。画面の指示に従って設定を行います。
- ソフトウェアの個人用設定
- ここでは「名前」を必ず入力してください。
- コンピュータ名(Windows XP Home Edition)または
コンピュータ名とAdministratorのパスワード
(Windows XP Professional)
- コンピュータ名とAdministratorのパスワードを入力します。
- 日付と時刻の設定
- コンピュータ設置場所の日付と時刻の設定を行います。
- ワークグループまたはドメイン名(Windows XP Professional)
- ネットワーク管理者の指示に従って必要事項を入力します。
- 1 2 再起動後に「ディスプレイの設定」画面が表示されたら、[OK]をクリックします。
- 1 3 デスクトップ画面が表示された場合は、手順1 9に移ります。「モニタの設定」画面が表示された場合は、[OK]をクリックします。
- 1 4 「Microsoft Windowsへようこそ」と表示されたら、画面右下のをクリックします。
- 1 5 「インターネットに接続する方法を指定してください。」と表示されたら、画面右下にある (省略)をクリックします。
- 1 6 「Microsoftにユーザー登録する準備はできましたか？」と表示されたら、「いいえ、今回はユーザー登録しません。」にチェックを付けてをクリックします。
- 1 7 「このコンピュータを使うユーザーを指定してください」と表示されたら、ユーザー名を入力してをクリックします。

- 18 「設定が完了しました」と表示されたら、をクリックします。
- 19 Windows XPのデスクトップ画面が表示されたら、CD-ROMを取り出して、Windowsを再起動します。
- 20 コンピュータの再起動時に「BIOS Setupユーティリティ」を起動し、手順1で変更した「ATAPI CD-ROM」の起動順位をもとに戻します。
- 21 「Exit」メニュー画面 - 「Exit Saving Changes」で「Yes」を選択し、「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。
- 22 コンピュータが起動したらWindows XPのインストールは終了です。

デバイスドライバのインストール

本機のメインボード上に搭載しているデバイスのドライバを一括してインストールします。

ただし、次のデバイス類のドライバはインストールされません。インストール終了後、各デバイスに添付のマニュアルをご覧ください、別途インストールを行ってください。

オプションで購入した製品

サウンドボード(メインボード上のサウンド機能を使用せずにサウンドボードを装着している場合)

インストール手順は次のとおりです。

- 1 「ドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。正しくセットされると自動的に「ドライバソフトウェアのインストール」画面が表示されます。表示されない場合は、「マイコンピュータ」-「CD-ROM(Windows XPはCDドライブ)」を右クリックして「自動再生」を選択します。
- 2 表示された項目から「一括インストール」を選択して「開始」をクリックします。
- 3 「ご注意」画面が表示されます。内容をよくお読みになり「OK」をクリックします。
- 4 表示されたドライバを確認して「インストール開始」をクリックします。インストールするドライバが自動的に検出されます。
- 5 各ドライバが自動的にインストールされます。インストールには数分かかります。
- 6 「インストールの完了」画面が表示されます。内容をよくお読みになり「OK」をクリックします。
- 7 「Windowsの再起動」画面が表示されたら「はい」をクリックします。Windowsが自動的に再起動します。Windowsが再起動すると、デバイスドライバのインストールは終了です。

スピーカの設定 メインボードのサウンド機能を使用する場合は、続けてスピーカの設定を行います。サウンドボードを使用している場合は、この設定は必要ありません。

- 1 画面右下のタスクバーに表示されている「Sound Effect」アイコンをクリックします。



< Sound Effectアイコン >

- 2 「Speaker Configuration」タブを選択します。
- 3 「2 channels mode for stereo speakers output」にチェックを付けて [OK] をクリックします。
これでスピーカの設定は終了です。

マウスドライバのインストール

ホイール付きマウスドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「マウスドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
正しくセットされると自動的に「設定言語の選択」画面が表示されます。[OK] をクリックします。
自動的に「設定言語の選択」画面が表示されない場合は、[スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックし、「名前」に次のとおり入力し、[OK] をクリックします。
D:¥SETUP
- 2 「インストール先の選択」と表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 3 「プログラムフォルダの選択」と表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 4 「InstallShield Wizardの完了」と表示されたら、「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」にチェックが付いた状態で [完了] をクリックします。
- 5 Windowsが再起動すると「新しいホイールマウスがPS/2ポート上で検出されました。…」と表示されます。[はい] をクリックしてマウスの設定を行います。
これでマウスドライバのインストールは終了です。

Adobe Acrobat Readerのインストール

Adobe Acrobat Readerのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「ドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。正しくセットされると自動的に「ドライバソフトウェアのインストール」画面が表示されます。表示されない場合は、「マイコンピュータ」-「CD-ROM(Windows XPはCDドライブ)」を右クリックして「自動再生」を選択します。
- 2 表示された項目から、「Adobe Acrobat Readerのインストール」を選択して「開始」をクリックします。
- 3 「Acrobat Readerのセットアップ」画面が表示されたら、「次へ」をクリックします。
- 4 「インストール先の選択」画面が表示されたら、「次へ」をクリックします。
- 5 「情報」画面が表示されたら、「OK」をクリックします。これでAdobe Acrobat Readerのインストールは終了です。

Norton AntiVirus2002のインストール

Norton AntiVirus2002をインストールします。本機に添付の『Norton AntiVirus2002をご使用の前に』をご覧ください。

そのほかの作業

領域の作成

Windowsのインストール中にHDD領域を変更した場合、未設定領域はそのままでは使用できません。Windowsの「ディスクの管理」を使用して、領域の作成を行います。詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

Windowsの「ディスクの管理」は、次の場所にあります。

Windows 2000 : [スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」 - 「管理ツール」 - 「コンピュータの管理*」

Windows XP : [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「パフォーマンスとメンテナンス」 - 「管理ツール」 - 「コンピュータの管理*」

* 画面左側の「記憶域」の下にあります。

ユーザーズ マニュアルの インストール

『ユーザーズマニュアル(本書)』のPDFファイルをインストールします。

- 1 「マニュアルディスク1」をFDDにセットします。
- 2 [スタート] - 「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に次のとおり入力して[OK]をクリックします。
A:¥SETUP
- 4 以降は画面の指示に従います。
セットアップが終了するとデスクトップ上に「ユーザーズマニュアル」アイコンが表示されます。

SBSIの
インストール
(Windows XP
の場合)

Windows XPの使い方の詳細がデスクトップ上でいつでも見られるように、「ステップバイステップインタラクティブ(SBSI)」をインストールします。
インストールは、次の手順で行います。

- 1 「リカバリCD Disc2」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に次のとおり入力して、[OK]をクリックします。
D:¥SBSI¥SETUP¥SETUP
- 4 「ようこそ」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 5 「製品ライセンス契約」画面が表示されたら、[はい]をクリックします。
- 6 「Microsoftインタラクティブトレーニング」画面が表示されたら、「名前」と「会社名」を入力して[次へ]をクリックします。
- 7 「この登録情報は正しいですか？」と表示されたら、入力した「名前」と「会社名」を確認して[はい]をクリックします。
- 8 「セットアップが完了しました。・・・」と表示されたら、[完了]をクリックします。
- 9 「Readme」ファイルが表示されます。内容を確認したら右上にある[x]をクリックします。
- 10 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 11 「名前」に次のとおり入力して、[OK]をクリックします。
D:¥QFE¥Q307460(「0」は数字)
- 12 Windowsを再起動します。Windowsが再起動したら、ステップバイステップインタラクティブのインストールは終了です。

各種ドライバのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティ、アプリケーションなどのインストールが必要です。インストールは、バックアップFD作成ユーティリティで作成したFDや、あらかじめオプション類に添付されていたメディアを使用して行います。詳しくは、本機でお使いになるオプション類に添付のマニュアルをご覧ください。



参考

インストールが必要なドライバの例

お使いになるシステム構成によって、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

サウンドボードを使用する場合	: サウンドボードに添付のドライバ
ビデオボードを使用する場合	: ビデオボードに添付のドライバ
USB対応機器を使用する場合	: USB機器に添付のドライバ
プリンタを使用する場合	: プリンタに添付のドライバ

こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

困ったときに

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。



ホームページのサポート情報について
弊社ホームページには、お客様からよく寄せられる質問や技術情報などを掲載しています。本章とあわせてご覧ください。アドレスは『サポートサービスのご案内』または『サポートと保守サービスのご案内』をご覧ください。

コンピュータ本体の不具合




電源を切ってから、もう一度入れなおす場合には、20秒程度の間隔を開けてください。20秒以内に電源を入れなおすと、電源が異常と判断され、正常にシステムが起動しなくなる場合があります。

現象

起動時に電源ランプが点灯しない。

確認と対処

電源コードが正しく接続されているか確認します。

 p.10「コンピュータの設置」

電源コンセントに電源が供給されているか確認します。ほかの電気製品を接続して確認してください。

電源コード、電源コンセントに問題がない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象

起動時に画面に警告メッセージが表示される、または起動しない。

確認と対処

現象が発生する前に周辺機器の増設やアプリケーションのインストールを行なった場合には、それらが原因となっている可能性があります。周辺機器の取り外しやアプリケーションの削除をして、現象の発生する前の状態に戻してください。

コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合は、次のようなメッセージが表示されることがあります。

Press F1 to continue, DEL to enter SETUP

[Delete] を押して「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。通常は、そのまま「Exit Saving Changes」を実行して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。



p.101「BIOS Setupユーティリティの操作」

[F1] を押すとシステムが起動しますが、動作中に問題が発生する可能性があります。

起動時の自己診断テスト終了後(OSの起動中)に警告メッセージが表示されている場合には、OSが正常に動作していない可能性があります。エラーメッセージの内容をメモして、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

起動時にエラーメッセージが表示される場合には、警告メッセージを確認してください。起動時の自己診断テストの結果、ハードウェアに問題が発生している可能性があります。問題点が解決できない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。



p.152「警告メッセージが表示されたら」

ACPI Suspend to RAMを「Enabled」にしてスタンバイを実行しているときに電源コードが抜けたりすると、メモリへの電源供給が切れてしまい、次に本機の電源を入れたときに正常に起動しなくなります。この場合は、本機の電源を切ってからもう一度入れ直してください。

BIOSの設定が正常でない可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」で設定値を初期値に戻してください。



p.104「設定値をもとに戻すには」

BIOSを初期値に戻しても問題が解消されない場合は、CMOS RAMを初期化してみてください。



p.161「CMOS RAMの初期化」

ピープ音が鳴って起動中に止まってしまう場合は、起動時の自己診断テストにて異常が発見されています。音の種類、音の長さなどをメモして、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。


現象


起動時に次のようにパスワードの入力が要求される。また、パスワードを入力しても起動しない。


Enter Password:

確認と対処

「BIOS Setupユーティリティ」でパスワードが設定されています。正しいパスワードを入力してください。

 p.107「Passwordの設定」

パスワードを正しく入力しているか確認します。 の状態により数値が入力されない場合があります。

 p.36「キーボードを使う」

パスワードを忘れてしまった場合には、強制的に解除することができます。

 p.161「CMOS RAMの初期化」


現象

起動時に次のようなメッセージが表示されてWindowsなどのOSが起動しない。

- ・ DISK BOOT FAILURE,INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER
- ・ Invalid system disk Replace the disk, and then press any key
- ・ Operating system not found

確認と対処

HDDを増設したあと起動しなくなった場合には、HDDが正しく装着されているか確認してください。




 p.92「ドライブ装置の装着」

システムが登録されていないFDがセットしてある場合はFDを抜いてください。

現象


ハングアップしてしまい何も反応しない。

確認と対処

 +  +  を押してリセットします。


リセットしても反応がない場合には、電源スイッチを押して電源を切ってから再起動してください。

電源スイッチを押しても電源が切れない場合は、5秒以上電源スイッチを押してください。これで電源が切れます。

 p.33「リセット」

現象 「BIOS Setupユーティリティ」の情報、日付、時間などの設定が変わってしまう。

確認と対処 本体内部のリチウム電池の残量が少なくなり、データを保持できなくなっている可能性があります。リチウム電池を交換してください。

 p.158「リチウム電池の交換」

省電力機能に関する不具合

現象 正しく省電力モードが正常に働かない


確認と対処 使用しているアプリケーションや常駐ソフト、増設している周辺機器の影響により省電力機能が正常に働かない可能性があります。

次の作業を行い省電力機能が正常に働くか確認してください。

- ・ アプリケーションの削除や常駐ソフトの解除、周辺機器の一時的な取り外しを行う。
- ・ ACPI Suspend to RAMを「Enabled」にしてスタンバイを実行している場合は、「Disabled」にして実行する。

現象 省電力モードから復帰できない。



確認と対処 「ACPI Suspend to RAM」を「Enabled」にして、スタンバイを実行しているときや休止状態のときは、キーボードやマウスの操作では省電力モードから復起しません。電源スイッチを押して本機を復帰させてください。


 p.61「復帰方法」

省電力モードから復帰できない場合は、**Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押して本機を再起動してください。ただし、省電力モード移行前に作成した未保存のデータはすべて消失します。

キーボードの不具合


現象 数値キーを押しても数値が入力されない。

確認と対処 数値キーは  の状態により機能が変わります。 キーを押してオン
の状態にします。

 p.36「キーボードを使う」




現象 どのキーを押しても応答がない。


確認と対処 キーボードが正しく接続されているか確認します。キーボードの接続は、電
源を入れる前に行ってください。

 p.10「コンピュータの設置」

マウスを操作してください。マウスで操作できる場合もあります。

アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性もあり
ます。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

プログラムがハングアップしている可能性もあります。このような場合に
は、 +  +  でリセットしてください。

 p.33「リセット」

現象 キートップにある文字や記号が入力できない。

確認と対処 直接入力モードで日本語を入力することはできません。

OS上でキーボードが正常に設定されていない可能性があります。Windows
上で次のキーボードが選択されていることを確認します。

101/102英語キーボードまたはMicrosoft Natural PS/2キーボード

確認方法は次のとおりです。

Windows 2000の場合：[スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」 - 「キー
ボード」アイコンをダブルクリック

Windows XPの場合：[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「プリンタとその
他のハードウェア」 - 「キーボード」をクリック

マウスの不具合

現象

マウスを動かしても、マウスポインタが動かない。

確認と対処


マウスが正しく接続されているか確認します。マウスの接続は、電源を入れる前に行ってください。

 p.10「コンピュータの設置」

キーボードを操作してみてください。キーボードで操作できる場合もあります。

アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

プログラムがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、リセットしてください。

 p.33「リセット」

現象

OSやアプリケーションソフトでマウスポインタが表示されない。

確認と対処

マウスが正しく接続されているか確認します。

 p.10「コンピュータの設置」


MS-DOSアプリケーションでマウスを使用する場合は、専用のマウスドライバをインストールする必要があります。本機にはMS-DOS用のマウスドライバは添付されていません。

現象

マウスポインタの動きが悪い。

確認と対処

マウスのクリーニングを行ってください。

 p.156「マウスのお手入れ」

ディスプレイの不具合


現象

起動時にディスプレイに何も表示されない。

確認と対処

ディスプレイの電源ランプが点灯しているか確認します。ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

ディスプレイの接続コードがVGAコネクタに正しく接続されているか確認します。

 p.10「コンピュータの設置」

ディスプレイの画面の明るさやコントラストを調節してください。ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

コンピュータの電源を切ってから20秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。


ピープ音が鳴った場合は、起動時の診断テストにて異常が発見された可能性があります。音の種類、音の長さなどを確認した上で、テクニカルセンターまでご連絡ください。

現象

使用中に何も表示されなくなった。

確認と対処

ディスプレイが省電力モードになっている可能性があります。キーボードを操作してください。

 p.55「省電力機能を使う」

ディスプレイの画面の明るさやコントラストを調節してください。ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

ディスプレイの接続コードがVGAコネクタに正しく接続されているか確認してください。

 p.10「コンピュータの設置」

ディスプレイの故障の場合には、ディスプレイの販売会社などにご確認ください。

現象 画面の解像度などを変更したあと、画面が乱れたり何も表示されなくなった。

確認と対処 ディスプレイの選択を誤っている可能性があります。ディスプレイのマニュアルを参照して確認してください。

使用中のディスプレイでは、表示できない解像度を選択した可能性があります。セーフモードで起動し直してみてください。

Windows 2000の場合

Windows 2000をセーフモードで起動する方法は、次のとおりです。セーフモードは、Windows 2000を基本的な設定で起動するモードです。

- 1 コンピュータの電源を切り、約20秒間放置したあとに電源を入れます。
- 2 画面下に、次のメッセージが表示されます。このメッセージが表示されている間に **F8** を押します。押さない場合は通常モードでWindowsが起動します。
Windows2000の問題解決と拡張オプションについてはF8を押してください。
- 3 「Windows2000拡張オプションメニュー」が表示されたら、「セーフモード」を選択し、**↵** を押します。
以降は画面の指示に従ってください。

Windows XPの場合

Windows XPをセーフモードで起動する方法は、次のとおりです。セーフモードは、Windows XPを基本的な設定で起動するモードです。

- 1 コンピュータの電源を切り、20秒程放置した後、電源を入れます。
- 2 電源を入れた直後に、**F8** を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。
- 3 「Windows拡張オプションメニュー」が表示されたら、「セーフモード」を選択し、**↵** を押します。
以降は画面の指示に従ってください。

FDDの不具合

現象 FDに正常にアクセスできない。

確認と対処 次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDが正しくセットされていない可能性があります。正しくセットし直してください。

A:¥にアクセスできません。
デバイスの準備ができていません。
[再試行] [キャンセル]

ディスクの挿入
A: ドライブにディスクを挿入してください。
[キャンセル]

次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDがフォーマットされていないか、DOS/V機以外のコンピュータで使用しているFDの可能性があります。

ドライブAのディスクはフォーマットされていません。
今すぐフォーマットしますか？
[はい] [いいえ]

使用しているFDが、本機で使えるフォーマット形式でフォーマットされているか確認してください。


 p.40「FDDを使う」

別のFDで読み書きを行ってください。正常に読み書きできる場合は、FDに異常があることが考えられます。

別のFDでも読み書きできない場合には、「BIOS Setupユーティリティ」のFDDに関する項目がすべて初期値となっているか確認してください。

現象 FDに書き込みできない。

確認と対処 ライトプロテクトされていないか確認します。

 p.43「ライトプロテクト(書き込み禁止)」


現象 FDDから異常な音がする。

確認と対処 販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。

HDDの不具合

現象 それまで問題なく使用していたHDDが認識されなくなった。

確認と対処 HDDに問題が発生している可能性があります。IDE HDDの場合は、「BIOS Setupユーティリティ」を実行してHDDの設定を確認してください。

 p.106「Mainメニュー画面」

現象 特定のファイルのみ読み書きできなくなった。

確認と対処 ファイルのデータが壊れているおそれがあります。HDDのメンテナンスユーティリティなどを実行してください。


上記の処置を行ってもこの現象が頻繁に発生する場合は、必要なファイルのバックアップを取ってから、HDDをフォーマットし直してください。HDDをフォーマットしても改善されない場合には販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。

現象 増設したHDDが使用できない。


確認と対処 新しいHDDを使用する場合にはHDDの領域確保とフォーマットをする必要があります。

 p.45「HDDのフォーマット」


増設したHDDの設定(マスタ/スレーブ)、接続しているIDEコネクタ(プライマリ/セカンダリ)、HDDの電源ケーブルの接続などを確認します。

 p.92「ドライブ装置の装着」

ケーブル類が逆差しされていないか確認します。


 p.96「ドライブ装置(IDE装置)の接続例」

IDE HDDを増設した場合は、「BIOS Setupユーティリティ」でHDDの設定を確認します。「BIOS Setup ユーティリティ」の「Main」メニュー画面で、増設したHDDのTypeが「None」になっている場合は「Auto」に変更します。

 p.106「Main」メニュー画面

現象 HDDからWindowsなどのOSが起動しない。

確認と対処 起動するHDDの順番が正しく設定されているか確認してください。

 p.111「Boot」メニュー画面

CD-ROMドライブの不具合

現象

セットしたCDにアクセスできない。

確認と対処

CD-ROMなどのメディアを挿入した直後、アクセスランプの点灯中は読み込みの準備のためアクセスできません。この場合はアクセスランプの消灯を待って、もう一度アクセスしてください。

CD-ROMなどのメディアの表面に傷などがないか確認してください。

別のCD-ROMにアクセスできるか確認してください。問題がない場合は、アクセスできないCD-ROMメディアに問題がある可能性があります。

特殊なフォーマット形式のCD-ROMメディアの場合、アクセスできない可能性があります。本機で扱えるフォーマット形式を確認してください。

セットしたCDが書き込み済みのCD-RメディアまたはCD-RWメディアの場合、CD-ROMドライブとの相性によりアクセスできない可能性があります。

現象

CDをセットすると画面が開いてしまう。

確認と対処

セットしたCDに自動再生機能があり、自動的に画面を開きます。CDに登録されている内容を見たい場合は、[キャンセル]や、×をクリックして、画面を閉じます。その後、「マイコンピュータ」のCD-ROMドライブを右クリックして、「開く」を選択します。

現象

セットしたCDが読み込めない。

確認と対処

CDには、CD-ROM、音楽CD、ビデオCD、フォトCDなどがあります。コンピュータの記録メディアとしてそのまま利用可能なのはCD-ROMだけです。そのほかのCDをアクセスするためには専用のソフトウェアが必要になります。Windowsには音楽CDなどを再生するソフトウェアとして「Windows Media Player」などが標準で添付されています。

現象


音楽用CDの音が聞こえない。

確認と対処

アンブ内蔵スピーカを、本体背面(サウンドボードを装着している場合は、サウンドボード)のライン出力コネクタに接続しているか確認します。

ボリュームコントロールが「ミュート」または「レベル0」に設定されていないか確認します。

CD-ROMドライブのオーディオコネクタと、メインボードの「CD-1」コネクタ(サウンドボードを装着している場合は、サウンドボード)を、CDオーディオケーブルで接続しているか確認します。

 p.163「コンピュータ内部のケーブル接続」

Windows XPではヘッドフォンジャックにヘッドフォンを接続しても音声を出力することはできません。

アプリケーションソフトの不具合

現象

アプリケーションソフトの使用中に突然停止(ハングアップ)した。

確認と対処

過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、システムの再起動、停止(ハングアップ)などが含まれます。アプリケーションソフトを再度実行してみてください。

ケーブルの接続不良や、キーボード内のごみやほこり、電源の出力不安定、もしくは、そのほかの部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってみてください。

HDDに対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、システムがハングアップする場合があります。

現象

アプリケーションソフトが起動しない。

確認と対処

アプリケーションソフトの起動に必要なとされるシステムリソース(メモリ容量やHDDの使用可能な容量など)が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、アプリケーションソフトのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度起動してみてください。

アプリケーションソフトを正しい方法でインストールしたか、アプリケーションソフトの起動手順を正しく実行しているか確認してください。

実行しようとしているディレクトリが正しいか確認してください。FDやCD-ROMなどから起動しようとしている場合は、ドライブおよびディレクトリの指定が正しく行われているか確認してください。

アプリケーションソフトの使用許諾を受けていない場合(違法コピーなど)、アプリケーションソフトが動作しないことがあります。アプリケーションソフトの正式版を使用してください。

アプリケーションソフトの使用方法をもう一度確認してください。
どうしてもアプリケーションソフトの不具合が解決できないときは、アプリケーションソフトの販売元にお問い合わせください。


メモリの不具合

現象

表示されるメモリ容量が実際の容量と違っている。

確認と対処

起動時のメモリチェックやWindows上ではメモリ容量が正しく表示されないことがあります。「BIOS Setupユーティリティ」を実行し、「Main」メニュー画面 - 「Installed Memory」でメモリ容量を確認してください。

 p.102「BIOS Setupユーティリティの操作」

本機は、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。メモリ容量の表示は、ビデオメモリ容量を差し引いて表示されます。

DIMMを増設した場合は、DIMMのタイプが合っているか、ソケットの奥までしっかりと差し込まれているか確認してください。

購入時から不具合がある場合は、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

インストール時の不具合

現象

インストールがマニュアルどおりにできない。

確認と対処

本書では、インストール手順中のCD-ROMドライブのドライブレターを「D:」と記載しています。CD-ROMドライブのドライブレターは、HDD領域の数によって変わります。CD-ROMドライブのドライブレターを確認してください。

CD-ROMドライブのドライブレターの確認は「マイコンピュータ」で行うことができます。

本書の手順は、HDDのフォーマット後にインストールを行うことを前提に記載しています。それ以外の場合は、手順が異なることがあります。不明な点はインフォメーションセンターまたはテクニカルセンターにお問い合わせください。

インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認してみてください。

拡張ボード、周辺機器の増設に関する不具合

現象

拡張ボード、周辺機器を増設したらコンピュータの動作がおかしくなった。

確認と対処

増設した機器が対応する拡張スロットおよびコネクタに正しく装着されているか確認してください。

増設した装置のジャンプスイッチやディップスイッチの設定が正しいかどうか確認してください。例えば、同じIRQ信号を2つ以上の拡張ボードで重複して設定していると、コンピュータは正しく動作しない場合があります。詳細は拡張ボード、周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

- ・ Windows 2000では、「コントロールパネル」-「システム」-「ハードウェア」タブ-[デバイスマネージャ]でIRQ信号やDMAがどのように設定されているか確認することができます。
- ・ Windows XPでは[スタート]-「コントロールパネル」-「パフォーマンスとメンテナンス」-「システム」-「ハードウェア」タブ-[デバイスマネージャ]で、IRQ信号やDMAがどのように設定されているか確認することができます。

周辺機器を追加するために拡張ボードを装着した場合、周辺機器と拡張ボードの接続が正しいか、正しいケーブルを使用しているかを確認してください。

拡張ボードによっては、拡張スロットに装着するだけでなく、メインボードやコンピュータのコネクタとの接続が必要な場合があります。拡張ボードに添付のマニュアルを確認してください。

拡張ボードを使用するアプリケーションソフトが正しく実行されているか確認してください。アプリケーションソフトに添付のマニュアルをご覧ください。

上記の処置を行っても改善が見られない場合は、拡張ボード、周辺機器の販売元にお問い合わせください。

プリンタの不具合

現象 印刷できない。

確認と対処 プリンタの電源および印刷するための準備が完了しているかどうか確認してください。


プリンタのコントロールパネルの設定が正しいかどうか、プリンタのマニュアルで確認してください。

Windowsでは、プリンタドライバをインストールする必要があります。プリンタドライバのインストール方法については、プリンタに添付のマニュアルをご覧ください。

スピーカの不具合

現象 システムは正常に動作しているのにブザーの音がしない。

確認と対処 内蔵スピーカのコネクタが接続されているか確認します。

 p.163「コンピュータ内部のケーブル接続」

内蔵スピーカの不良が考えられます。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象 音が鳴らない。

確認と対処 本機の内蔵スピーカはブザーの音を出すためのものです。それ以外の音を鳴らしたい場合は、アンプ内蔵スピーカを本体背面(サウンドボードを装着している場合はサウンドボード)の「ライン出力コネクタ」に接続してください。

警告メッセージが表示されたら

本機は、起動時に本体内部の自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に次の警告メッセージが表示された場合には、各警告メッセージの処置を行ってください。それでも直らない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ	説明および対処法
BIOS ROM checksum error - System halted.	BIOS ROM内のアドレスF0000H-FFFFFHの領域に不具合があります。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。それでもこのエラーが生じるときは、内蔵リチウム電池の残量が少なくなっている可能性があります。リチウム電池を交換してみてください。p.158「リチウム電池の交換」
CMOS BATTERY HAS FAILED	データ保持用の内蔵リチウム電池の残量が少なくなっており、交換が必要です。リチウム電池を交換してみてください。p.158「リチウム電池の交換」
CMOS CHECKSUM ERROR	CMOS RAM設定値のエラー検出のためのチェックサムと、実際の設定値のチェックサムが違っています。BIOS Setupユーティリティを実行してください。それでもこのエラーが生じるときは、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。
FLOPPY DISK(S) fail(80)	FDDが初期化できません。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
FLOPPY DISK(S) fail(40)	BIOS Setupユーティリティで指定したFDDのドライブタイプと、装着されているFDDが異なっています。BIOS Setupユーティリティを起動し、FDDのドライブタイプを正しく設定し直してください。
Hard Disk(s) fail(80)	HDDの初期化に失敗しました。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hard Disk(s) fail(40)	HDDコントローラに異常が見つかりました。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hard Disk(s) fail(20)	HDDの初期化ができません。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hard Disk(s) fail(10)	HDDのキャリブレーションができません。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hard Disk(s) fail(08)	HDDのセクタのベリファイができません。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
Keyboard error or no keyboard present	キーボードを初期化できません。キーボードが正しく接続されているか確認してください。コンピュータの起動中はキーボードのキーは押さないでください。意図的にキーボードなしで使用する場合には、BIOS Setupユーティリティで、エラーチェックの設定を「Halt On: All But Keyboard」(キーボード関連以外のエラーチェックを行う)に設定します。これで、キーボードが接続されていなくてもコンピュータは正常に起動します。

警告メッセージ	説明および対処法
Memory test fail	メモリのテスト中にエラーが発生しました。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hardware Monitor found an error, Enter Power setup menu for details	電源電圧に異常が発生しました。コンピュータの電源を切り、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてください。それでもこのエラーが生じるときは、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

付 録

お手入れ方法、CMOS RAMの初期化、
リチウム電池の交換、仕様などについて
説明します。

お手入れ

本機のお手入れ

コンピュータ本体やキーボード、マウスなどの外装の汚れを拭き取るときは、柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

マウスのお手入れ

マウスを長い間使っていると、マウスボールにホコリやゴミが付着します。マウスボールの汚れをそのままにして使い続けると、誤操作や故障の原因となります。マウスボールが汚れてきたらクリーニングを行ってください。

クリーニングはコンピュータ本体の電源を切ったあと、マウスをコンピュータから取り外した状態で行ってください。



小さなお子様の手の届くところに、マウスボールやフレームを取り外したまま放置しないでください。口に入れたりすると窒息する危険があります。

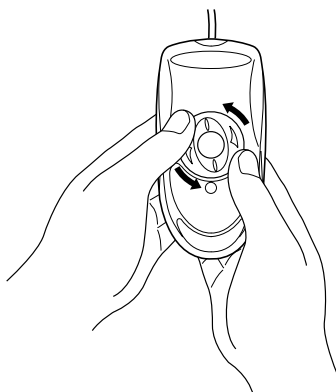
マウスボールは、絶対に投げないでください。マウスボールの芯には鋼球が入っていますので、人に当たるとけがをする危険があります。

クリーニングの手順は、次のとおりです。

1

マウス底面のボールフレームを外します。

ボールフレームの滑り止め部分に親指を置いて、左回りに回します。



- 2 マウスボールを取り出します。
マウス底面を静かに下に向けると、ボールフレームとマウスボールが外れます。
- 3 マウスボールの汚れを乾いた布で拭き取ります。
マウスボールの汚れがひどい場合は、中性洗剤をうすめた溶液で洗い、水でよくすすぎます。水洗い後は、マウスボールを乾いた布で拭き、十分乾燥させてから装着します。
クリーニング中は、マウス本体内部にゴミなどが入らないように注意してください。
- 4 マウスボールをマウス底面の穴に入れます。
- 5 ボールフレームをもとどおりに取り付けます。
右回りに回してマウス本体に装着します。



マウスボールの着脱を必要以上に繰り返さないでください。故障の原因となります。

リチウム電池の交換

「BIOS Setupユーティリティ」で設定した情報は、本体内部のリチウム電池により保持されます。

本機のリチウム電池の寿命は数年です。リチウム電池の残量が少なくなると情報を保持できなくなり、時間や設定した値が何もしないのになってしまいます。このような場合、リチウム電池を交換してください。

本機で使用するリチウム電池は、次のとおりです。

CR2032 または同等品



小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。

万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。

電源コンセントに電源プラグを接続したままで分解しないでください。感電・火傷の原因となります。

マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。




リチウム電池の交換は、本製品の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。

不安定な場所(ぐらついた机の上や傾いた所など)で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

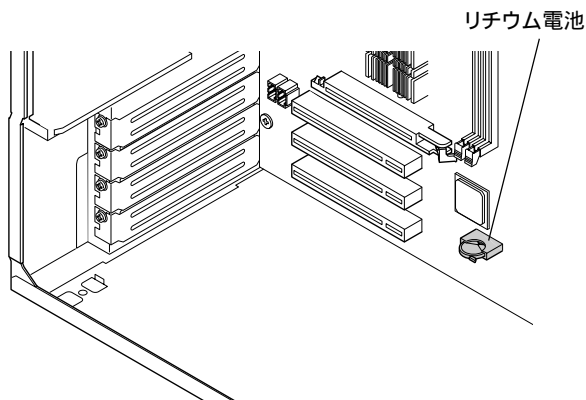
リチウム電池の交換は、次の手順で行います。作業を行う場合は、コンピュータを横置きにしてもかまいません。

- 1 本体カバーを取り外します。必ず電源コードも外します。


 p.70「本体カバーの取り外し・取り付け」

- 2 リチウム電池の位置を確認します。

リチウム電池は、メインボード上の次の位置にあります。



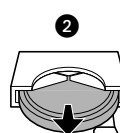
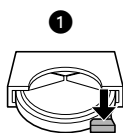
- 3 必要に応じて、作業の妨げになるケーブル類や拡張ボードなどを取り外します。

 p.81「拡張ボードの装着」

- 4 リチウム電池を抜きます。

電池ホルダの留め金を下に押して電池を引き抜きます。


留め金を必要以上の力で押さないように注意してください。




- 5 新しいリチウム電池を取り付けます。
刻印面(+ 側)を下側に向けて、新しいリチウム電池を差し込みます。
電池ホルダがリチウム電池を固定していることを確認します。



- 6 手順3でケーブル類や拡張ボードなどを取り外した場合は、もとおりに取り付けます。


 p.81「拡張ボードの装着」

- 7 本体カバーを取り付けます。

 p.70「本体カバーの取り外し・取り付け」

- 8 コンピュータを使用できるように、本体背面のケーブル類をもとおりに接続します。

- 9 コンピュータの電源を入れます。**Delete** を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。

 p.101「BIOS Setupユーティリティの操作」

- 10 **F5** を押して「Load Setup Defaults」(初期値に戻す)を実行します。

- 11 日付、時刻やそのほか変更の必要のある項目の再設定を行います。

- 12 「Exitメニュー」の「Exit Saving Changes」を選択して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

CMOS RAMの初期化

CMOS RAMには、「BIOS Setupユーティリティ」で設定した各種情報などが保存されています。通常は、CMOS RAMを初期化する必要はありません。しかし「BIOS Setupユーティリティ」で設定したパスワードを忘れたり、設定を誤ったりして、コンピュータが起動しなくなった場合には、CMOS RAMを初期化することで動作が可能になる場合があります。



警告

小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。

万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。

電源コンセントに電源プラグを接続したままで分解しないでください。感電・火傷の原因となります。

マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。



注意

CMOS RAMの初期化は、本製品の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。

不安定な場所(ぐらついた机の上や傾いた所など)で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。









制限

CMOS RAMを初期化すると、現在のBIOSの設定情報がクリアされます。CMOS RAMを初期化する前に、BIOSの設定値を記録しておくことをおすすめします。

 p.112「BIOSの設定値」

CMOS RAMの初期化は、次の手順で行います。作業を行う場合は、コンピュータを横置きにしてもかまいません。

- 1 本体カバーを取り外します。必ず電源コードも外します。
 p.70「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 2 リチウム電池を外します。
 p.158「リチウム電池の交換」
- 3 約1分間放置します。
- 4 リチウム電池を取り付けます。
 p.158「リチウム電池の交換」
- 5 本体カバーを取り付けます。
 p.70「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 6 コンピュータを使用できるように、本体背面のケーブル類をもとどおりに接続します。
- 7 コンピュータの電源を入れます。起動時に、「Press F1 to continue,...」とメッセージが表示されます。を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。
- 8 を押して「Load Setup Defaults(初期値に戻す)」を実行します。
- 9 日付、時刻やそのほか変更の必要のある項目の再設定を行います。
- 10 「Exitメニュー」の「Exit Saving Changes」を選択してBIOS Setupユーティリティを終了します。

コンピュータ内部のケーブル接続

コンピュータ内部には何本かのケーブルがあり、メインボードなどと接続されています。通常はこれらのケーブルを外したり接続したりする必要はありません。誤って、これらのケーブルを外してしまった場合には本項の内容に従って正しく接続してください。

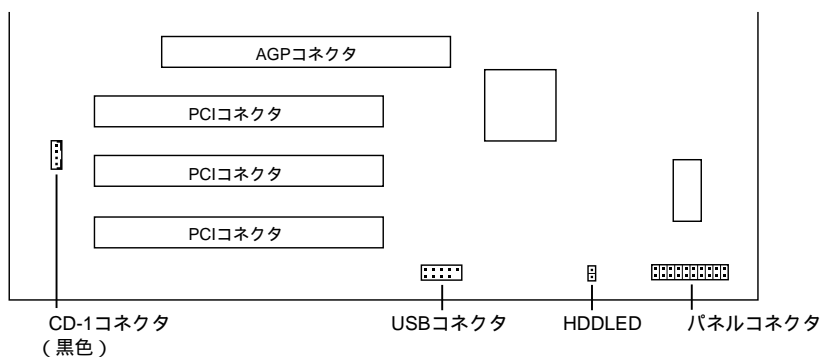


注意

各種ケーブルは、本書で指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、ケーブルが焼損する場合があります。

コネクタ位置
(メインボード上)

各種コネクタのメインボード上の位置は次のとおりです。

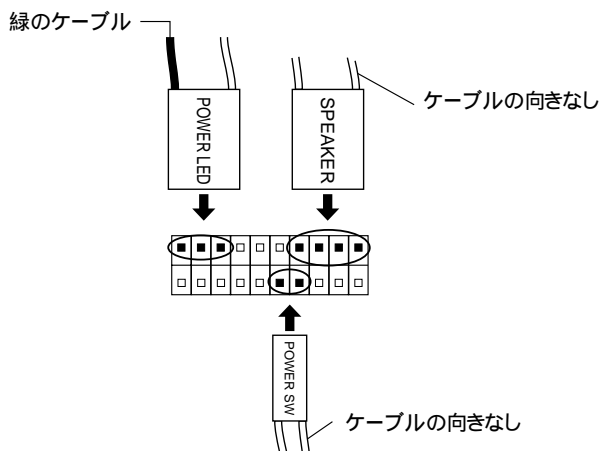


本体内部ケーブル
との接続

各種コネクタへの接続は次のとおりです。

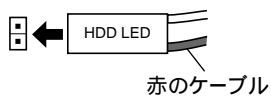
パネルコネクタ

パネルコネクタには、次のようにケーブルを接続します。




HDD LEDコネクタ

HDD LEDコネクタには次のようにケーブルを接続します。



CD-1コネクタ

5.25型ドライブ装置(CD-ROMドライブなど)に接続されたCDオーディオケーブルを接続します。

 p.96「ドライブ装置(IDE装置)の接続例」

サウンドボードを使用している場合は、CDオーディオケーブルをサウンドボード側に接続します。詳しくは、サウンドボードに添付のマニュアルをご覧ください。

USBコネクタ

前面USBコネクタの内部ケーブルをコネクタの向きに合わせて接続します。

機能仕様一覧

CPU		インテルPentium 4プロセッサまたはインテルCeleronプロセッサ
メモリ	ROM	BIOS 他 512KB EEPROM
	メインメモリ	DDR SDRAM PC2100 DIMMを使用して最大1GBまで増設可能
	ビデオメモリ	メインメモリの一部を使用(メインメモリが128MBの場合は32MB 256MB以上の場合は48MBを使用)
ビデオコントローラ		インテル845G
サウンドコントローラ		AC'97 CODEQ(切り離し可能)
キーボード		日本語対応109キー
マウス		ホイール付きPS/2マウス
記憶装置	内蔵FDD	3.5型FDDを1基内蔵
	内蔵HDD	IDE HDD1基内蔵 Ultra ATA/100対応
	CD-ROMドライブ	CD-ROMドライブを1基内蔵 最大48倍速
インタフェース	パラレル	1(セントロニクス社準拠 D-SUB 25ピン マルチモード双方向 ECP/EPPサポート)
	シリアル	1(RS-232C準拠 D-SUB 9ピン)
	VGA	1(アナログRGB ミニD-SUB15ピン)
	キーボード	1(IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン)
	マウス	1(IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン)
	サウンド	ライン出力コネクタ×1、ライン入力コネクタ×1、 マイク入力コネクタ×1
	ネットワーク	1(RJ-45 10Base-T/100Base-TX自動認識)
	USB	6(USB2.0 前面×2、背面×4)
ドライブ ベイ	3.5型ドライブベイ	1(FDDで1ベイ使用済み)
	5.25型ドライブベイ	2(CD-ROMドライブで1ベイ使用済み)
	HDDドライブベイ	2(HDDで1ベイ使用済み)
外部拡張スロット		AGP対応スロット*×1(ボード長215mmまで装着可能) PCI対応スロット×3(ボード長200mmまで装着可能)
カレンダー時計		内蔵(内蔵電池によりバックアップ)
電源容量		166W
入力電圧		AC 100 V ± 10% (50/60 Hz)
温湿度条件		温度: 10 ~ 35
		湿度: 20 ~ 80%(ただし、結露しないこと)
外形寸法		本体: 約170(幅) × 340(奥行) × 357(高さ) mm(突起部除く)
重量		本体: 約10.0Kg(本体のみ)
消費電力		待機時消費電力5W(最大280W)

* 本機ではAGP2.0 1.5V仕様 対応ボードのみ装着可能です。

用語集

本書で使用している用語やコンピュータに関する基本的な用語を簡単に解説します。詳細については、市販の書籍などを利用してください。

ACPI

Advanced Configuration and Power Interfaceの略です。コンピュータの電力の状態を、Windowsのアプリケーションからコントロールするための電源管理機能の規格です。

AGP

Accelerated Graphics Portの略で、CPUとビデオチップを接続するための拡張ポートのことです。PCIバスのデータ転送方法を最大限に残し、ビデオ関係の性能を強化しています。

BIOS(バイオス)

Basic Input Output Systemの略で、コンピュータの基本的な入出力を行うプログラムを集めたものです。コンピュータ内部にROMで提供されています。またBIOS Setupユーティリティで設定する内容を含める場合もあります。

使用例 BIOSの設定を行ってください。
= BIOS Setupユーティリティを実行して設定を変更してください。

類義語 CMOS RAM

BIOS Setupユーティリティ

コンピュータの動作状態やBIOSの動作を設定したり変更するためのプログラムです。BIOSとセットでROMで提供されています。BIOS Setupユーティリティで設定した値はCMOS RAMに保存されます。

Boot(ブート)

コンピュータの電源を入れてコンピュータを使用できる状態にすることです。「起動する」とも言います。

CPU

Central Processing Unitの略で、コンピュータの処理の中心を担う頭脳のようなものです。

DDR SDRAM

「DDR」とは、「Double Data Rate」の略で、従来のSDRAMよりもデータ転送が2倍速くなります。

DIMM

Dual Inline Memory Moduleの略です。メインボードの所定のソケットに差し込むことで、コンピュータのメモリを拡張できます。

DMA転送

Direct Memory Accessの略です。CPUを介さずに、周辺機器とメモリ間で直接データ転送を行います。

使用例 DMA転送により高速なデータの出入りが可能。

DMAチャンネル

DMAでデータを転送する場合の通り道のことです。複数のDMA転送を行う装置が接続されている場合には、別々のチャンネルを使用するように設定する必要があります。

使用例 サウンドカードで使用するDMAチャンネルを設定する。

DRAM(ディーラム)

メモリの種類のことで、Dynamic Random Access Memoryの略です。

コンピュータの電源を切ると、DRAMのデータは消失します。

FAT32ファイルシステム

Windowsがデータの読み書きに利用しているファイルの配置情報(File Allocation Table)を32ビットに拡張したファイルシステムのことです。2GB以上のディスク容量を1つのドライブとして使用することができます。

HDD領域

HDDの容量を用途に合わせて確保したスペースのことで、パーティションとも呼びます。HDD1台にHDD領域は複数作成することができます、それぞれドライブとして利用できます。

I/Oポート(Input/Outputポート)

CPUとデバイスの間でデータをやりとりするポートです。

IDE

Integrated Device Electronicsの略です。コンピュータ本体とHDDのデータの入出力方法(インタフェース)を定めた規格の一種です。HDDだけでなく、CD-ROMドライブなどもIDEで接続するのが一般的です。

使用例 IDEインタフェースのHDD(IDE HDD)

IRQ

Interrupt Requestの略で、周辺機器からCPUに対して処理を依頼するための信号のことです。DOS/V機では16本あり、コンピュータ内部や、拡張ボードなどで使用されます。

IRQ番号

コンピュータには、ハードウェア割り込みを発生させる周辺機器が複数あるので、各機器からの割り込みを区別するために、識別番号が付いています。IRQ番号は、この識別番号のことです。IRQ0～IRQ15の16種類が用意されています。

使用例 サウンドボードではIRQ7を使用します。

NTFS

NTFSは、FATファイルシステムに比べて信頼性が高く、セキュリティに優れています。障害が発生したファイルの構造を復旧したり、ユーザーやグループごとにアクセス権を設定することができます。

OS

Operating Systemの略で、コンピュータ全体を管理するソフトウェアのことです。WindowsやMS-DOSなどのことです。

PCIバス

拡張バス的一种で、一般的に採用されている拡張バスのことです。ISA拡張バスに比べて高速、プラグアンドプレイに対応などメリットが多いです。

高速性を要求される拡張ボードに使用されます。

RAM(Random Access Memory)

RAMには、DRAMとSRAMの2種類のデータ保存方式があります。どちらも自由に読み書きができるメモリですが、一度電源を切るとデータは消えてしまいます。主に、DRAMはメインメモリに、SRAMはキャッシュメモリに使われています。

ROM(Read Only Memory)

読み出し専用のメモリで、電源を切ってもデータを保持しつづけます。BIOSなど重要なデータは、あらかじめROMに格納されています。

RS232C

シリアルインタフェースとして採用されている規格のことです。外付けモデムやTA(ターミナルアダプタ)などの周辺機器とコンピュータとの間で、データをやり取りするときに用いられています。

SCSI

Small Computer System Interfaceの略です。コンピュータと周辺機器間のデータの入出力方法(インタフェース)を定めた規格の一種です。よく使用されるものとして大容量HDD、MOドライブ、スキャナなどがあります。

使用例 SCSIインタフェースのHDD(SCSI HDD)

SDRAM

DRAMの一種でアクセスが速いのが特長です。最近ではDRAMの代わりにSDRAMがメインメモリに主に使用されています。

USB

Universal Serial Busの略で、比較的低速な装置をシリアル通信で接続するための規格のことです。USB対応の製品に接続します。

Ultra ATA/100

IDEインタフェース上において100MB/sでデータを転送できるデータ入出力方法のことです。

VGA

640×480ドット16色を表示するビデオ表示機能で、DOS/V機の基本的な表示機能です。

アクセス

データの読み書きなど、入出力動作一般のことです。

使用例 HDDにアクセスする。= HDDのデータを読み書きする。

アクセスランプ

HDDやFDDにアクセスしていることを示すランプのことです。

使用例 HDDアクセスランプ

アドレス

メモリやI/Oポートに付けられた番地(場所)のことです。一般的に16進数で示されます。

使用例 メモリアドレス、I/Oポートアドレス

アプリケーションソフト

プログラムのなかで、ワードプロセッサや表計算などのように、ユーザーが作業目的に応じて使うソフトウェアのことです。

インストール

ソフトウェアをコンピュータで実行できるようにHDDなどへコピーすることを言います。ソフトウェアごとに専用のインストールプログラムが付いているのが普通です。ソフトウェアを「組み込む」とも言います。

使用例 サウンドドライバをインストールします。

インタフェース

コンピュータと周辺機器の間でデータを入出力するための回路や手順などを定めた規格のことです。

使用例 IDEインタフェース、インタフェースコネクタ、インタフェースケーブル

解像度

画面表示の細かさのことです。

使用例 1024×768ドットの解像度で表示する。

外部キャッシュメモリ

CPUとメインメモリ間のデータ転送を高速化し、コンピュータの処理速度を向上させるメモリです。

類義語 キャッシュRAM、L2キャッシュ、2次キャッシュ

拡張スロット

拡張カードを装着するためのスロットです。拡張カードには、AGPバス用拡張カード、PCIバス用拡張カードがあります。

カーソル

文字やデータなどが入力される場所を示す画面上の印です。

起動する

コンピュータの電源を入れて、コンピュータを使用できる状態にすること。ソフトウェアを実行して使用できるようにすることも起動といいます。

類義語 立ち上げる。

キャッシュ処理、キャッシュ機能

一度読み込んだデータを保持し、コンピュータの処理速度を上げるための機能です。

使用例 メモリキャッシュ、ディスクキャッシュ

コマンド

コンピュータに与える命令です。

命令は、文字を入力したり、マウスによってアイコンをダブルクリックしたりして行います。

使用例 次のコマンドを入力してください。

サーバ

ネットワークで結ばれたコンピュータに、さまざまなサービスを提供するコンピュータのことです。一般に、サーバと結ばれたコンピュータのことを「クライアント」と呼びます。

システム

コンピュータ(ハードウェア)、OS、アプリケーションソフト(ソフトウェア)など全体のことを示します。

使用例 システムを起動する。=コンピュータの電源を入れて、OSを立ち上げてコンピュータを使用できる状態にすることです。

ジャンパスイッチ

コンピュータの機能を制御する基板上の小さなスイッチのことです。ジャンパスイッチの設定は、ジャンパクリップと呼ばれる部品を差し替えて変更します。

ディスプレイ

表示装置のことです。

類義語 CRTディスプレイ、モニタ

ドット

表示画面のひとつひとつの点の単位です。

使用例 1024×768ドットの解像度=画面上に1024×768個の点を表示することができます。

ドライブレター

FDD、HDDやCD-ROMドライブに割り当てるアルファベットの1文字のことです。基本的にHDDが1基搭載されている場合は、「A:」がFDD、「C:」がHDD、「D:」がCD-ROMドライブに割り当てられます。

内部キャッシュ

CPUから周辺チップへのアクセスを減らし、高速処理をするために、CPU内部に設けられたキャッシュメモリのことです。演算用のデータなどを格納しておき、CPU内部で、高速処理を行えるようにします。

バス

コンピュータ内部でデータの入出力を行う電気的な通り道およびデータの集合のことです。拡張スロットのコネクタ部を指すこともあります。

使用例 PCIバス、AGPバス

パラメータ

コマンドや項目に対して付加する数値や、文字列などです。

使用例 パラメータを設定します。

ハングアップ

コンピュータが暴走し、コマンドを受け付けない状態になることです。

ヒートシンク

放熱板など動作中に発熱する素子を冷やす装置のことです。CPUの発熱量は大きいいため熱暴走しないようにヒートシンクがCPU上部に付いています。ヒートシンクには、板状のもの(自然空冷)や放熱ファンを回すもの(強制空冷)があります。

ファイル

コンピュータで扱うすべてのプログラムやデータの総称です。

使用例 ファイルをコピーする。データファイルを作成する。

物理ドライブ

HDD1台や、CD-ROMドライブ1台など、物理的なドライブ装置のことです。

プラグアンドプレイ

取り付ける(Plug)だけで動作する(Play)ことで、PnP、Plug and Playなどとも記載されます。拡張カードや周辺機器などをコンピュータに取り付けるだけで、自動的に検出して使用できる状態にする機能です。

この機能により、従来拡張カード上で設定していたI/Oポート、IRQ、DMAの設定などが不要になります。

プログラム

コンピュータで処理を行うための命令の集まりのことです。

類義語 ソフトウェア、アプリケーションソフト

プロトコル

ネットワークで接続されたコンピュータ同士が、通信を行うための「手段」や「規格」のことです。一般的に使用されるネットワークプロトコルは、TCP/IP、NetBEUI、AppleTalkなどです。

ポート

コネクタまたは、そのコネクタに対するインタフェース回路全般のことです。

ボリュームラベル

HDDやFDにつけた名称のことです。

メッセージ

コンピュータが入力されたコマンドに対して出力する回答のことです。「処理が正しく実行された」「このエラーが発生した」など種類はさまざまです。

メインメモリ

メモリのなかで、最初にプログラムやデータなどが読み込まれるメモリのことで、主記憶とも呼びます。コンピュータのメモリ容量といえば、メインメモリの容量のことを示します。

使用例 本機のメモリ容量(=メインメモリ)は128MBです。

メモリ

実行するプログラムや、データを一時的に保存する素子のことです。コンピュータはHDDなどからプログラムやデータをメモリに読み込みながら実行します。一般的にメモリ容量が多ければより高速にコンピュータを利用することができます。

メモリチェック

コンピュータ起動時に装着されているメモリに異常がないか検査する動作のことです。

モデム

電話回線を通じてデータを送受信するための周辺機器です。ほとんどの製品はFAX機能が付加されています。

リソース

拡張ボードや周辺機器で使用するIRQ、DMA、I/Oポートアドレスなどをまとめて表現する用語です。

類義語 システム資源

論理ドライブ

OSによって管理される論理的な区分けです。HDDには、1台の物理ドライブ上に複数の論理ドライブを作成することができます。

索引

英数字

2HD(FD)	40
2DD(FD)	40
3.5型フロッピーディスクドライブ	8、40
5.25型ドライブベイへの装着	85

A

ACPI Suspend to RAM	110
Adobe Acrobat Reader	6
~ のインストール	131
AGP	81

B

BIOSセットアップユーティリティ	100
Boot Sequence	111

C

CapsLock	38
CD-ROMドライブ	8、47
~ の接続	97
~ の不具合	146
CD-1コネクタ	163
CMOS RAMの初期化	161
COAラベル	3

D

DIMM (メモリ)	76
~ 不具合	148

F

FD (フロッピーディスク)	40
FDD (フロッピーディスクドライブ)	8、40
~ 接続	98
~ の不具合	144

H

HDD (ハードディスクドライブ)	44
~ 装着	97
~ の不具合	145
~ 領域の変更	120
HDDアクセスランプ	8
HDDベイの装着	88

I

IDEケーブル	94
IDE装置	93

M

MO	49
MOドライブ	49
MS-IME	37

N

NTFS	40
Norton AntiVirus2002	65
~ のインストール	131
NumLock	38

P

Passwordの設定	107
-------------------	-----

S

Safeモード	143
Scroll Lock	38
SCSI装置	95
Supervisor Password	107

U

Ultra ATAケーブル	94
USBコネクタ	8、9、64
User Password	107

V

VGAコネクタ	9
---------------	---

W

Windows 2000	(7)
~のセットアップ	20
Windows XP	(7)
~のセットアップ	22
Windowsキー	39
Windowsのインストール	120

50音順

あ

アイコン	(8)
アプリケーションソフトの不具合	147

い

イジェクトホール (CD-ROMドライブ) ..	8、48
インストール	116
インストール時の不具合	149

う

ウィルス	65
------------	----

お

お手入れ	156
お問い合わせ情報ラベル	3

か

解像度の変更	53
拡張ボード	81
~ 不具合	150
拡張スロットの仕様	81

き

キーボード	36
~ コネクタ	9
~ の接続	14
~ の不具合	140
キーロック表示ランプ	38
起動順位	111
機能キー	36
機能仕様一覧	165
休止状態	56

強制取り出し		せ	
CD-ROM	48	セカンダリ	93
MO	51	セットアップ	
		Windows 2000インストールモデル	20
く		Windows XPインストールモデル	22
クリック	39	セットアップブートディスクの作成	26
け		そ	
警告メッセージ	152	ソフトウェアの不具合	147
ケーブルセレクト	94		
こ		た	
コンピュータウイルス	65	タスクバー	(8)
		タブ	(8)
さ		ダブルクリック	39
再インストール	116	て	
サウンドボード	62	ディスクの管理	46
サウンド機能	62	ディスプレイ	52
し		～の接続	12
システム構成	4	～の不具合	142
システムの拡張	68	デスクトップ	(8)
シリアルコネクタ	64	デバイスドライバのインストール	128
周辺機器の不具合	150	電源ケーブル	98
省電力機能	55	電源コードの接続	13
～の不具合	139	電源コネクタ	9
仕様	165	電源スイッチ	8
す		電源の入れ方	19
数値キー	36	電源の切り方	31
スーパーバイザーパスワード	107	添付ソフトウェア	6
スクロール	39		
スタンバイ	56		
スピーカの不具合	151		
スレイブ	94		

と

ドライブキャリア	89
ドライブベイへの装着	
5.25型ドライブベイ	85
HDDベイ	88
ドラッグアンドドロップ	39

に

日本語入力システム	37
入力キー	36

ね

ネットワーク	
～機能	63
～に接続する	15
ネットワークコネクタ	9

は

ハードディスクドライブ (HDD)	44
～の不具合	145
～フォーマット	120
～領域の変更	120
パスワード	107
バックアップディスクの作成	24
パネルコネクタ	163
パラレルコネクタ	9、64
ハングアップ	33

ひ

光磁気ディスク (MO)	49
表示色の変更	53

ふ

フェイスプレート	75
プライマリ	93
プリンタの不具合	151
フロッピーディスク (FD)	40
フロッピーディスクドライブ (FDD)	40
～の不具合	144
プロダクトキー	3
フロントパネル	72

ほ

ボタン	(8)
本体カバー	70
本体内部ケーブル	163
本体の不具合	136

ま

マイク入力コネクタ	9
マウス	39
～コネクタ	9
～ドライバのインストール	130
～のお手入れ	156
～の接続	15
～の不具合	141
マスタ	94
マニュアルディスク	7
マニュアルディスクのインストール	132

め

メモリ (DIMM)	76
～の不具合	148

ゆ

ユーザーパスワード 107

ら

ライトプロテクト（書き込み禁止）

FD..... 43

MO 50

ライン出力コネクタ 9

ライン入力コネクタ 9

り

リセット 33

リチウム電池の交換 158

リモートブート 63

れ

冷却ファン 9

Memo

Memo

Memo

ご注意

- (1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
- (2) 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容は万全を期して作成いたしました。が、万一誤り・お気付きの点 ございましたら、ご連絡 くださいますようお願いいたします。
- (4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。

本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24時間稼働システムなど、極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがあります。当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

国際エネルギースタープログラムについて

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

* AGPボード（DVI ADDボードを除く）を使用したモデルに関しては本プログラムの対象外になります。

高調波ガイドライン適合品

本製品は、家電、汎用品高調波抑制対策ガイドラインに適合しております。

商標について

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows は 米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

インテル、Pentium、Celeronはアメリカ合衆国およびその他の国におけるインテルコーポレーションまたはその子会社の商標または登録商標です。

Symantec、Symantecロゴ、Norton AntiVirus、LiveUpdateはSymantec Corporationの登録商標です。

Adobe Acrobat ReaderはAdobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の登録商標です。

PS/2は International Business Machines の登録商標です。

そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。



エプソン販売 株式会社



大豆油インキを使用しています。

r2100

このユーザーズマニュアルは古紙配合率100%再生紙を使用しています。



C77207001 02.07-00.20(SO)